南国市埋蔵文化財発掘調査報告書　第21集

土佐国衙跡発掘調査報告書
第12集

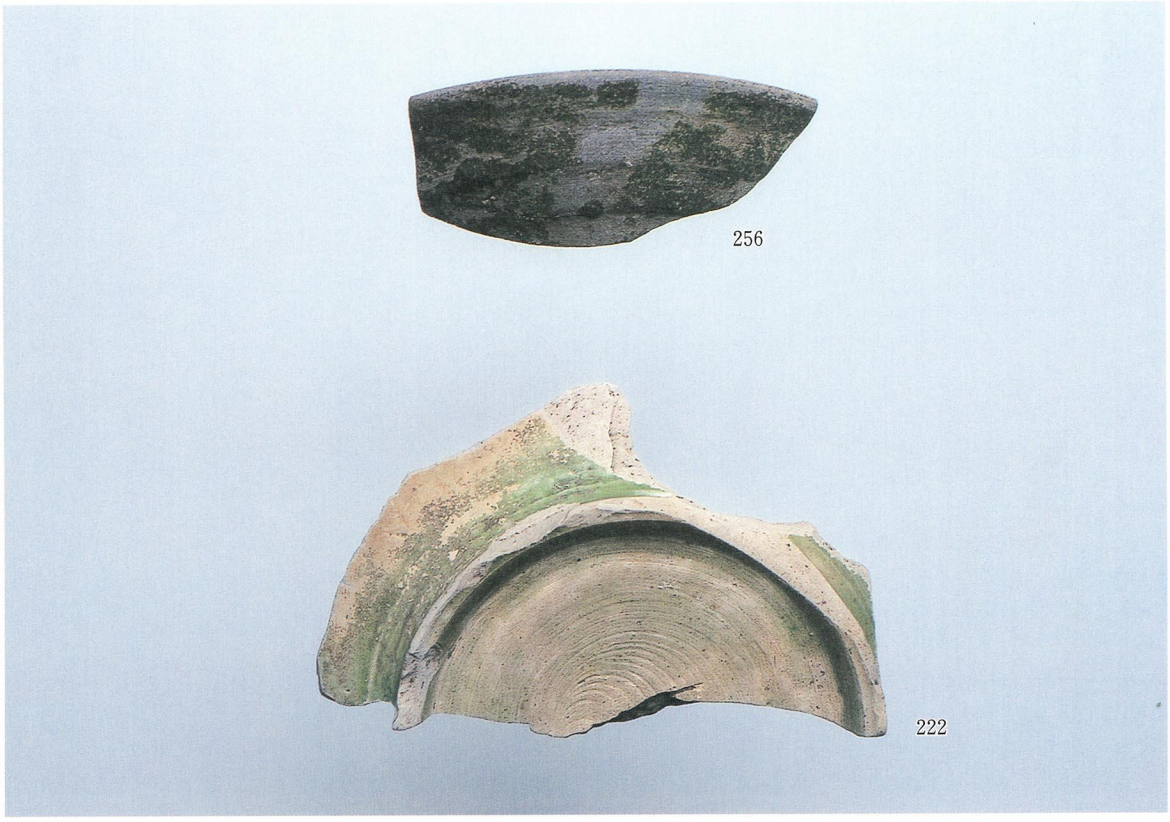
ー内裏・本屋敷地区の調査ー

2001. 3

高知県南国市教育委員会

第26次調査　北区　検出状況（北より）

第26次調査　北区　完掘状況（北より）



緑紬陶器（外面）

緑紬陶器（内面）

序

「をとこもすなる日記といふものを、をむなもしてみむとてするなり」という有名な書き出しで始まる『土佐日記』によると、紀貫之が国司の館を出立したのは承平４（934）年12月21日のことです。貫之が赴任した土佐国衙とは何処にあり、どの様なものだったのでしょうか。それは土佐の古代史の最大の謎の一つです。

このたび、９年ぶりに発掘調査を再開することができ、掘立柱建物跡、緑釉陶器片など国衙に関連する貴重な遺構・遺物の出土がありました。残念ながら政庁跡など中枢施設の発見には至りませんでしたが、今後の調査に大いに期待したいと思います。

本書は平成11・12年度に行われた土佐国衙跡発掘調査の成果をまとめたものです。今後広く利用され、文化財保護および学術研究の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたりご指導を賜りました高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第３班長出原恵三氏、高知県教育委員会、高知県文化財団埋蔵文化財センター、また発掘調査への深いご理解とご協力をいただいた国府史跡保存会、比江地区の方々、そして発掘・整理作業にご尽力いただいた作業員の皆様に心より厚くお礼を申し上げます。

平成13年３月

南国市教育委員会

教育長　　西 森 善 郎

例　言

1．本書は、南国市教育委員会が平成11・12年度に実施した土佐国衙跡発掘調査（南国市内重要遺跡試掘確認調査）の報告書である。

2．土佐国衙跡は、高知県南国市比江に所在する。

3．各年度ごとの調査は以下のとおりである。
平成11年度の調査は平成11年４月６日～平成11年８月13日まで行った。調査面積は1,467㎡である。平成12年度の調査は平成12年10月４日～平成12年10月10日まで行った。調査面積は260㎡である。

4．発掘調査は、高知県教育委員会・高知県文化財団埋蔵文化財センターのご協力を得て、南国市教育委員会が主体となって実施した。各年度ごとの調査体制は以下のとおりである。

〔平成11年度〕

調　査　員	三谷民雄（南国市教育委員会	社会教育課	文化財係	主事）
調査補助員	影山統一（　〃	〃	〃	臨時職員）
総務担当	橋田和典（　〃	〃	〃	係長）

〔平成12年度〕

調　査　員	三谷民雄（南国市教育委員会	社会教育課	文化財係	主事）
総務担当	橋田和典（　〃	〃	〃	係長）

5．本書の執筆・編集は、出原恵三氏（高知県文化財団埋蔵文化財センター調査第３班長）のご指導のもとに三谷が行った。

6．遺構については竪穴住居（ST）、土坑（SK）、掘立柱建物（SB）、溝（SD）、柱穴（P）で標示し、柱穴以外の遺構番号は『土佐国衙跡発掘調査報告書』第１～11集からの通し番号である。
本書の標高は海抜高であり、方位は座標北を用いた。

7．現場作業においては、出原氏のご指導・ご教示を得た。整理作業においては、高知県文化財団埋蔵文化財センター整理作業員の山中美代子氏、矢野 雅氏などのご協力を得た。記して深く謝意を表したい。

8．発掘調査にあたっては、国府史跡保存会の皆様をはじめ、地元住民の方々のご理解・ご協力を得た。また以下の現場作業員、整理作業員の皆様のご協力を得た。記して深く謝意を表したい。
（敬称略）

〔現場作業員〕岡本 薫・岡本佳子・窪田泰詔・小松栄一・小松 好・島井澄子・島井周子・島井博志・高橋弘喜・武市和子・永田美津子・西川初男・橋田芳雄・浜田加代・水田宜秀・山中章平・吉川 勉

〔重機オペレーター〕門田佳久・岡村知紀

〔整理作業員〕樫尾洋子・北村厚子・北村邦博・土居初子

9．当遺跡出土遺物は南国市教育委員会が保管している。遺跡の略号は99－26TK、00－27TKである。

本文目次

第Ⅰ章　これまでの経過と調査の方法
1．これまでの調査の成果 …… 1
2．調査の契機 …… 1
3．調査の方法 …… 1
第Ⅱ章　周辺の地理的、歴史的環境
1．地理的環境 …… 5
2．歴史的環境 …… 5
第Ⅲ章　調査の成果
1．第26次調査
（1）第26次調査の概要と基本層序 …… 11
（2）弥生時代の遺構と遺物
①　土　坑 …… 12
（3）古墳時代の遺構と遺物
①竪穴住居 …… 20
②溝 …… 23
（4）古代の遺構と遺物
①掘立柱建物 …… 26
②土坑 …… 29
③溝 …… 40
④ピット …… 40
⑤包含層出土の遺物 …… 46
2．第27次調査
（1）第27次調査の概要と基本層序 …… 47
（2）古代の遺構と遺物 …… 47
第Ⅳ章　考察
1．弥生時代 …… 49
2．古墳時代 …… 49
3．古代
（1）時期区分 …… 49
（2）遺構 …… 50
（3）遺物 …… 50
（4）まとめ …… 50

挿図目次

Fig. 1　南国市位置図 …… 1
Fig. 2　土佐国府跡地名図 …… 3
Fig. 3　土佐国衙跡第１次～27次発掘調査区位置図 …… 4
Fig. 4　土佐国府跡の位置と周辺の遺跡 …… 10
Fig. 5　第26次調査区設定図 …… 13
Fig. 6　第26次調査区検出遺構全体図 …… 15
Fig. 7　基本層序 …… 17
Fig. 8　SK125平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 18
Fig. 9　SK127平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 19
Fig.10　ST31平面、セクション、出土遺物実測図 …… 21
Fig.11　ST32・33平面、セクション、出土遺物実測図 …… 22
Fig.12　ST34・35平面、セクション、出土遺物実測図 …… 24
Fig.13　ST36・37平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 25
Fig.14　SB76～78平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 27
Fig.15　SB79・80平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 28
Fig.16　SB81平面、エレベーション図 …… 30
Fig.17　SB82・83平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 31
Fig.18　SK126・128～130平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 32
Fig.19　SK131平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 34
Fig.20　SK132～141平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 36
Fig.21　SK142～144・147平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 38
Fig.22　SK145・146平面、エレベーション、出土遺物実測図 …… 39
Fig.23　SK147出土遺物実測図・SD67～70エレベーション、出土遺物実測図 …… 41
Fig.24　ピット出土遺物実測図 …… 45
Fig.25　包含層出土遺物実測図 …… 46
Fig.26　第27次調査区検出遺構平面、セクション、出土遺物実測図 …… 48

表目次

表１　土佐国衙跡発掘調査一覧表 …… 2
遺物観察表 …… 52

写真図版目次

巻頭図版１　第26次調査北区検出状況（北より）、第26次調査北区完掘状況（北より）
巻頭図版２　緑釉陶器（外面）、（内面）
PL.１　調査前全景（北より）、調査前全景（南より）
PL.２　北区検出状況（北より）、南区検出状況（西より）
PL.３　北区完掘状況（北より）、南区完掘状況（西より）
PL.４　北区北壁（Ａ～Ｂ）セクション、南区西壁（Ｃ～Ｄ）セクション
PL.５　南区南壁（Ｅ～Ｆ）セクション、SK125遺物出土状況
PL.６　SK127遺物出土状況、ST31完掘状況
PL.７　ST31遺物（27）出土状況、ST33完掘状況
PL.８　ST34完掘状況、ST36遺物（45・50）出土状況
PL.９　ST37完掘状況、ST37遺物（53～55）出土状況
PL.10　SB81完掘状況、SK126完掘状況
PL.11　SK128完掘状況、SK131遺物出土状況
PL.12　SK131完掘状況、SK142セクション
PL.13　SK142完掘状況、SK143完掘状況
PL.14　SK146セクションおよび遺物出土状況、SK146遺物出土状況
PL.15　SK146遺物出土状況、SK146完掘状況
PL.16　SK147完掘状況、P173遺物（222）出土状況
PL.17　第27次調査　調査前全景（東より）、第27次調査完掘状況（北より）
PL.18　SK125出土遺物（１・３～７）
PL.19　SK127出土遺物（10～13・16・17）
PL.20　SK127（18・19）、ST36（45）、SK128（73）、SK131（96・97）出土遺物
PL.21　SK131（99～101）、SK142（126）、SK146（160）、SK147（177）出土遺物
PL.22　ST31（26・27）、ST36（46・48～50）、ST37（53・54）、SB80（59・61）出土遺物
PL.23　SB82（64）、SK128（66）、SK129（75）、SK130（76）、SK131（83・84・86・88・90・91）出土遺物
PL.24　SK131（92～94・102）、SK132（105・106）、SK136（109）、SK140（116・117）、SK142（118）出土遺物
PL.25　SK142（120・125）、SK143（131）、SK146（142・158・159・162・165）、SK147（174・176）
PL.26　ピット出土遺物（187・202・211・215・217・220）、包含層出土遺物（227～229・234）
PL.27　包含層出土遺物（235～237・239・240・242・243・249～251）
PL.28　石製品（104・180・268）、金属器（22・23・223～225・263～265）

第Ⅰ章　これまでの経過と調査の方法

1．これまでの調査の成果

土佐国衙跡の発掘調査は、市道や排水路の改良工事に伴う緊急調査や、昭和54年～平成２年までの重要遺跡確認調査など計25次にわたる調査が高知県教育委員会や南国市教育委員会によって行われている。その結果、国衙関連遺構とみられる掘立柱建物数棟が検出されたが、国庁など中枢施設の検出には至らなかった。そしてその候補地については、ビニールハウスが建ち並び、調査の実施が困難な比江地区中央部が最有力視された。

2．調査の契機

平成２年以来長らく中断していた土佐国衙跡の発掘調査を再開した経緯は、以下のとおりである。平成11年は当地の史跡整備・維持管理などに積極的に活動を続けられてきた「国府史跡保存会」の発足40周年にあたる。史跡保存会からは記念行事の一環として「伝紀貫之邸跡」の隣接地に記念碑を建立する旨の要望が南国市に対してあった。市当局は協議の結果、隣接地の買い上げ、事前の発掘調査後の記念碑の建立と公園整備の計画などを決定した。南国市教育委員会ではこれを受けて、南国市内重要遺跡試掘確認調査として平成11年４月６日より調査を行った。

3．調査の方法

発掘調査区の遺構検出面は浅く、耕作土の直下であった。そのため調査の手順としては、重機を用いて耕作土を除去した後、手作業で遺構の検出・完掘作業を行った。包含層遺物取り上げ、遺構の実測については、公共座標に基づいて調査区全体に４ｍ方眼をかけ、東西方向にＡ，Ｂ，Ｃ…、南北方向に１，２，３，……の№を付して、地点の記録および実測を行った。平面測量および地層断面図については、20分の１を基本に適宜任意の縮尺を用いた。

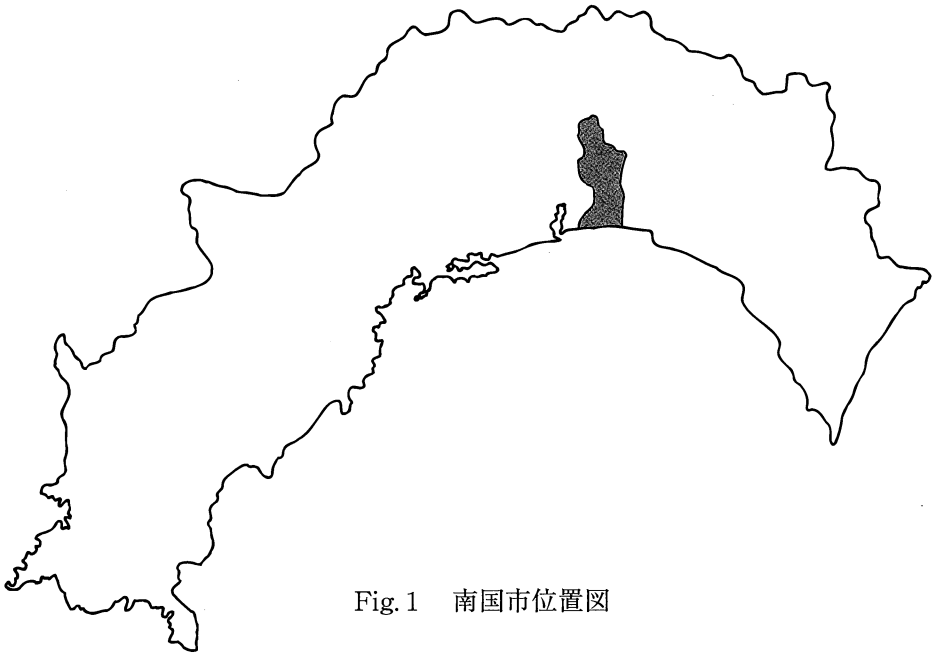


Fig.１　南国市位置図

調査次数	期　間	調査地区	調査の種類	検出遺構			出土遺物
				掘立柱建物跡	溝　跡	その他	
1	1977.2.1～ 1977.2.3	新ラ田	緊急発掘調査 (市道改良工事)			柱穴	緑釉陶器
2	1979.1.27～ 1979.2.1	松ノ下	〃	2 (中世)		柱穴	
3	1979.2.13～ 1979.3.1	太郎三郎屋敷	〃	3 (平安２)	2	土器溜１	黒色土器・瓦器・土師器・ 鉄釘
4	1979.4.20～ 1979.5.2	神ノ木戸	重要遺跡確認調査		3 (奈良末１・平安中２)	土坑３	円面硯・黒色土器・ 須恵器・土師器
5	1979.8.20～ 1979.9.12	宮ノ西	緊急発掘調査 (市道改良工事)	2 (平安末～鎌倉)	4	土坑２ (奈良末)	円面硯・転用硯・風字硯・ 墨書土器・緑釉陶器
6	1979.11.6～ 1979.12.11	クゲ、国庁	重要遺跡確認調査	1 (奈良末)	2 (平安前１)	柱穴 (中世)	円面硯・青磁・白磁
7	1980.9.28～ 1980.10.4	クボノヤシキ、 荷鞍、左ガ内	緊急発掘調査 (市道改良工事)		1	土坑１	須恵器・青磁・常滑
8	1980.11.17～ 1980.12.15	内裏	重要遺跡確認調査	5 (平安３)	1	竪穴住居３・ 貯蔵穴２	須恵器（横瓮）・ 緑釉陶器
9	1981.9.10～ 1981.11.4	内日吉 (府中)	重要遺跡確認調査	7	5	竪穴住居２・ 土坑７	円面硯・緑釉陶器
10	1981.10.8～ 1981.10.19	神ノ木・内日吉	緊急発掘調査 (市道改良工事)		1	柱穴	
11	1982.9.17～ 1982.11.6	内日吉・ 太郎三郎屋敷	重要遺跡確認調査	11 (奈良６・平安２)	13 (奈良５)	竪穴住居２・ 土坑16	円面硯・瓦器・青磁・ 白磁
12	1983.10.5～ 1983.11.7	内裏・堂ヶ内	〃	6 (奈良～平安)	1 (６C～７C初)	竪穴住居５・ 土坑５	須恵器・土師器
13	1983.11.22～ 1983.12.10	内日吉・クゲ	〃	2 (奈良)	2 (中世)	井戸１・土坑８	須恵器・瓦器
14	1984.10.1～ 1984.11.1	一ノ坪	重要遺跡確認調査	5 (奈良～平安)	3	竪穴住居１・柵列５ (奈良～平安)	須恵器・土師器
15	1984.11.16～ 1984.11.22	鍛冶給	〃	1 (奈良～平安)		土坑１	〃
16	1984.11.30～ 1985.1.10	松ノ下	〃	6 (奈良～平安)		竪穴住居１・ 土坑４・柵列１	〃
17	1986.10.16～ 1986.11.29	〃	〃	4 (奈良～平安)	4	竪穴住居１・ 土坑10(平安３)	刻書土器 (須恵器)
18	1986.11.12～ 1986.12.19	南屋敷	〃		1 (奈良)	土坑15	須恵器・土師器
19	1986.11.20～ 1986.12.15	内日吉	緊急発掘調査 (排水路改修工事)		1 (平安～中世)		〃
20	1987.11.16～ 1987.12.18	松ノ下 (横マクラ)	重要遺跡確認調査	2 (奈良～平安)	3 (奈良～平安)	竪穴住居３・ 土坑３	〃
21	1987.12.1～ 1988.1.8	金屋	〃	5 (奈良～平安)	3 (奈良～平安)	竪穴住居３・ 土坑７・柵列６	須恵器・土師器・ 緑釉陶器
22	1988.10.12～ 1988.12.10	〃	〃	3 (平安)		竪穴住居３・ 土坑22・塀跡１	須恵器・土師器・ 緑釉陶器・円面硯
23	1989.11.1～ 1989.12.27	〃	〃	9 (奈良～平安)	5 (平安)	竪穴住居３・ 土坑７・塀跡３	〃
24	1989.11.29～ 1989.12.27	神ノ木戸	〃	1 (平安)	1 (平安)	土坑５	〃
25	1990.10.8～ 1990.12.7	金屋	〃	8 (奈良～平安)	7 (平安～中世)	塀跡５・土坑12	須恵器・土師器・ 鉄刀子・常滑
26	1999.4.6～ 1999.8.13	内裏 (宮ノ前)	〃	8 (奈良～平安)	5 (奈良～平安)	竪穴住居７・ 土坑23	須恵器・土師器・ 瓦器・緑釉陶器
27	2000.10.4～ 2000.10.10	本屋敷	〃			柱穴	須恵器・土師器

表１　土佐国衙跡発掘調査一覧表

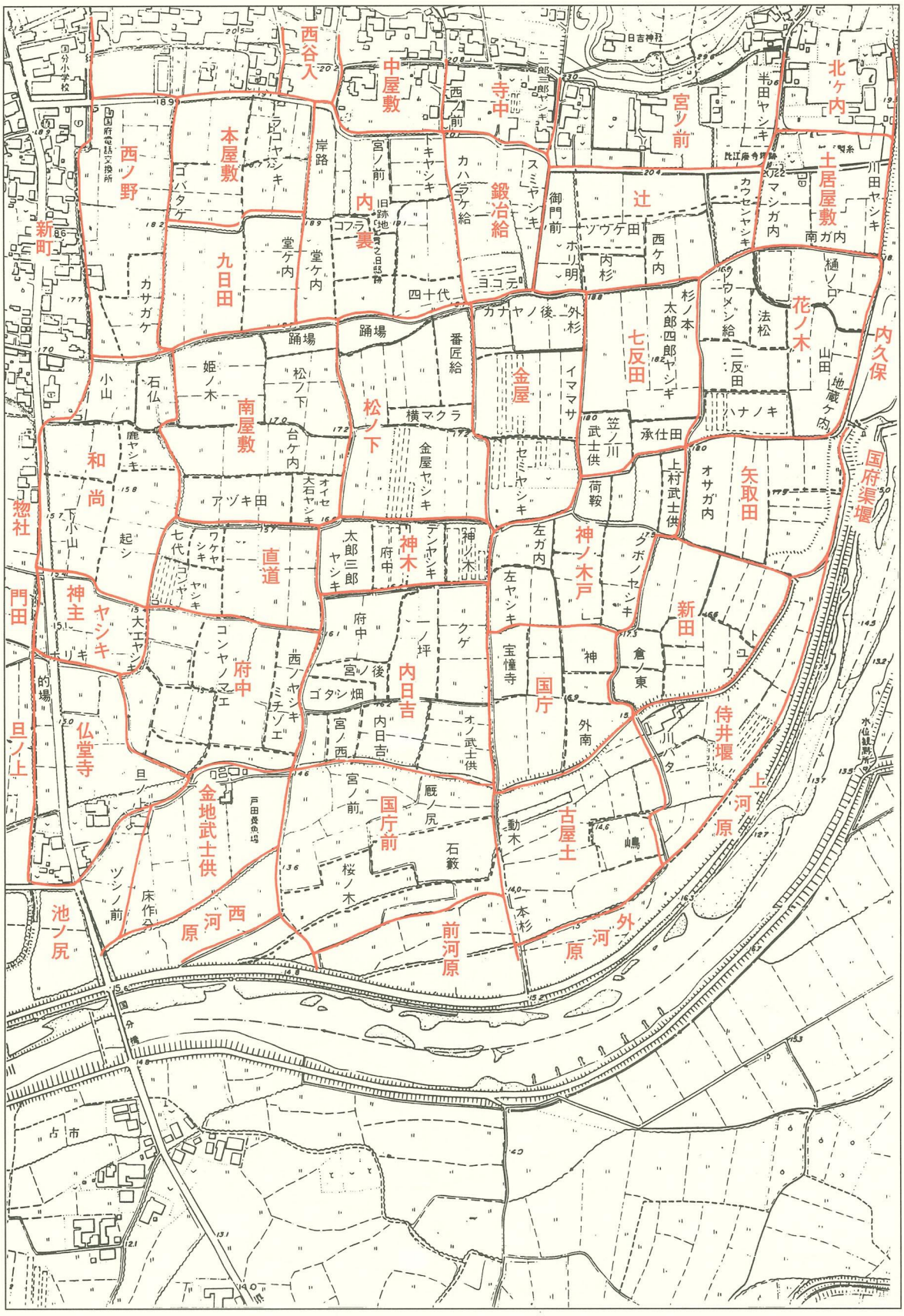


Fig. 2　土佐国府跡地名図

番号	調査年月	調　査　地　区
1	S52. 2	新ラ田
2	S54. 1	松ノ下
3	S54. 2	太郎三郎ヤシキ
4	S54. 4	神ノ木戸
5	S54. 8	宮ノ西
6	S54. 11	クゲ・国庁
7	S55. 9	クボノヤシキ・荷鞍・左が内
8	S55. 11	内　裏
9	S56. 9	府　中
10	S56. 10	神ノ木・内日吉
11	S57. 9	府中・太郎三郎ヤシキ
12	S58. 10	堂ヶ内
13	S58. 11	ク　ゲ
14	S59. 10	一ノ坪
15	S59. 11	鍛冶給
16	S59. 11	松ノ下
17	S61. 10	松ノ下
18	S61. 11	南屋敷
19	S61. 11	宮ノ西
20	S62. 11	松ノ下（横マクラ）
21	S62. 12	金　屋
22	S63. 11	金　屋
23	H 1. 11	金　屋
24	H 1. 12	神ノ木戸
25	H 2. 10	金　屋
26	H11. 4	内　裏
27	H12. 10	本屋敷

Fig. 3　土佐国衙跡第１次～27次発掘調査区位置図

第Ⅱ章　周辺の地理的・歴史的環境

1．地理的環境

土佐国衙跡の所在する南国市は、北緯33度34分、東経133度38分に位置し、東西約12km、南北約23km、面積125.35km²を測る。東西に長い弓状の海岸線を有する高知県のほぼ中央部にあたり、高知市の東隣、人口は約５万人を有する。主な産業は農業であり、かつては米の二期作の中心地であった。国の減反政策もあって今ではその姿を消したが、７月の中旬には刈り入れを始める早場米の産地として知られている。海岸部では施設園芸が盛んなほか、十市のヤマモモ、白木谷のタケノコなどの特産品も有名である。近年、高知空港の拡張、高速道路の延伸、阿佐線の整備、高知新港の開港など高知県の物流拠点都市としての役割のほか、高知市のベットタウンとしても発展してきている。

市域の北半分は四国山地より連なる山地で占められる。その大部分は古生代ペルム紀の上八川層と白木谷層によって形成される。市域の北境界線付近では、上八川層の標高は約800mに達するが、南下するに従って次第に高度を下げ、白木谷層では標高300～400mとなり、やがて標高150m前後の丘陵となって、ついには平野に没してゆく(1)。

市域の南半分を占める平野部は、物部川や国分川・舟入川の堆積作用により形成された扇状地であるが、高知平野の東部を占め、長岡郡と香美郡にまたがることから香長平野とも呼ばれている。香長平野は、舟入川を境に北側を古期扇状地、南側を新期扇状地に二分できる。古期扇状地は洪積世の最終氷期に形成された礫層堆積物でおおわれており、長岡台地と呼ばれている。土佐国衙跡や土佐国分寺跡、比江廃寺跡などは長岡台地上に立地している。一方、新期扇状地は物部川の堆積作用による沖積平野であり、香長平野の大部分を占める。ここでは自然堤防がよく発達し、その上には南四国における弥生時代の拠点的集落である田村遺跡群をはじめ、弥生時代の集落跡が多数分布している。

2．歴史的環境

南国市は洪積平野と沖積平野を有し、古くから人々の生活に適した地であった。その営みの痕跡である遺跡の数は280余りにのぼる。これは高知県の遺跡総数の約１割を占め、県下で最も遺跡の分布が集中する地域である。平野部を中心に旧石器時代以降の各時代の遺跡の存在が知られており、それぞれの時代について概観する。

①　旧石器時代

高知県の旧石器時代については、「旧石器の空白地帯」と称されるほどその様相はほとんど判明していなかった。近年の調査によって高知県西部では宿毛市池ノ上遺跡、大月町ナシケ森遺跡など徐々に遺跡数が増加しているものの、高知平野周辺では南国市との境である高知市介良の高間原古墳群１号墳の石室流入土中より出土した１点の細石器(2)が知られるのみであった。

このような状況下にあって奥谷南遺跡（南国市岡豊町）の発見は画期的なものであった。四国横断自動車道の建設に伴う発掘調査が平成６～８年にかけて行われたが、岩陰より細石刃400点、細石核150点、ナイフ形石器50点などが出土した。AT上層にナイフ形石器の２枚の文化層があり、旧石器時代終末の細石器文化期の遺物が集中し、層中から植物食利用を示す叩石が共伴することが明らかになった(3)。

② 縄文時代

縄文時代の遺跡は県西部の四万十川流域に比べて少なく、数ヶ所が確認されているにすぎない。奥谷南遺跡では草創期～中期の土器、中期末の堅果類の貯蔵穴が出土した(4)。奥谷南遺跡の南麓である栄エ田遺跡（南国市岡豊町）からは後期初頭～晩期終末の土器と共に30点程の磨製石斧が出土した(5)。これらの遺跡は、丘陵部が平野部に接する地に立地しており、狩猟・採集に適した地域であった。

南の平野部では、田村遺跡群（南国市田村）の第１期調査（1980～1983年）で後期の彦崎ＫＩ式土器が(6)、第２期調査（1997～2000年）で鐘崎式土器が出土し(7)、九州との関連が窺える。

高知平野における縄文時代の資料は徐々に増加しているものの、遺構はほとんど検出されておらず、今後の資料の追加が望まれる。

③ 弥生時代

弥生時代になると遺跡数とその規模は、急激に発展する。稲作に適した広大な沖積平野を有することから、平野部のほぼ全域に遺跡が展開している。

なかでも田村遺跡群は、その規模において群を抜いており、高知平野における拠点的母村集落と考えられる。第１期調査では前期初頭の集落跡と小区画水田跡、中期末から後期前半の集落跡が出土し、検出された竪穴住居跡は60棟、掘立柱建物跡も14棟にのぼる(8)。第２期調査では前期の環濠集落と前期末～中期前半の集落、中期後半～後期中葉の集落が移動を伴って変遷している様子が確認された(9)。検出された竪穴住居跡は453棟、掘立柱建物跡は198棟にものぼる。

田村遺跡群周辺の地域や中小河川流域では、前期後半～末葉にかけて小規模ながら遺跡が散見されるようになる。すなわち、大篠小学校校庭遺跡（南国市大埇）(10)、栄エ田遺跡、岩村遺跡（南国市福船）(11)、香我美町十万遺跡(12)、香我美町拝原遺跡(13)などである。

中期になると遺跡数は一転して激減し、特に中期前半の遺構は高知平野ではほとんど見られなくなる。香我美町下分遠崎遺跡(14)や田村遺跡群(15)で土坑や竪穴住居が少数確認されているのみである。中期後半になると、平野部周辺の独立丘陵上に高地性集落が点在するようになる。高知市朝倉城山遺跡(16)、伊野町バーガ森北斜面遺跡(17)、野市町本村遺跡(18)などが挙げられる。

中期後半～後期中葉にピークを迎えた田村遺跡群を拠点とする一方、周辺部の中小集落は後期中葉から終末にかけて成立し、高知平野一帯に爆発的に展開していく。すなわち、東崎遺跡（南国市東崎）、岩村遺跡、小籠遺跡（南国市岡豊町）(19)、野市町下ノ坪遺跡(20)、香我美町拝原遺跡などである。

④　古墳時代

南国市岡豊町・久礼田・植田の平野と接する丘陵部は高知県最大の後期古墳の密集地である。なかでも小蓮古墳は県下最大の横穴式石室をもつ円墳であり、香長平野北部を中心とする有力豪族の墳墓と考えられ、22基の古墳からなる県下最大の群集墳である舟岩古墳群もこの地域に築造されている。従来、高知平野における前期古墳はその存在が全く知られてなかったが、平成６年の四国横断自動車道に伴う長畝古墳群（南国市岡豊町）の調査で、同一丘陵上から４世紀前半・５世紀後半・６世紀前半の古墳（長畝２～４号墳）が確認された(21)。

集落は弥生時代後期終末から引き続き営まれる古墳時代初頭の集落は香長平野で数多く調査されている。古墳時代中期以降の調査例は少ないが、土佐国衙跡（南国市比江）(22)ではこれまでの調査で30棟の竪穴住居跡が出土している。

⑤　古代

古代の律令制度のもとでの土佐国を伝える遺跡として、比江廃寺跡や土佐国衙跡、土佐国分寺跡が所在しており、古代土佐の政治・文化の中心地であったことを示している。

比江廃寺跡（南国市比江）は白鳳時代の寺院跡であり、現存している塔心礎は原位置を保っていることが発掘調査により確認された(23)。

土佐国衙跡では、昭和54年から11次にわたる確認調査が行われ、官衙を構成すると考えられる掘立柱建物群などが検出されているが、政庁などの国衙中枢の遺構は確認できていない(24)。土佐国衙跡の北方１㎞に位置する白猪田遺跡（南国市久礼田）では地鎮祭祀の跡や緑釉輪花皿が出土し、「国府集落」としての性格づけがなされている(25)。

土佐国分寺跡（南国市国分）では東側に寺域を区画するとみられる土塁が現存している。現状変更に伴う調査および伽藍配置確認のための調査が行われ、礎石建物跡、掘立柱建物跡などが検出されている(26)。

また、野市町下ノ坪遺跡では庇を有する大型の掘立柱建物跡から四仙騎獣八稜鏡が出土し、他の掘立柱建物跡からも緑釉単彩陶器が出土するなど官衙関連の遺跡として注目される(27)。

⑥　中世

中世になると遺跡数も増加し、分布も平野部の城館跡や山麓部の山城跡などほぼ全域にわたる。現在確認されている南国市内の中世城館跡は47ヶ所にのぼる(28)。これらに伴い生活域も拡散し、現在我々が目にするような景観の基礎がほぼ形成された。

田村遺跡群では溝に囲まれた屋敷跡が31ヶ所検出されており、南北朝期に機能したもの、守護代細川氏の入部後に機能したもの、長宗我部氏の台頭期に機能したものの３時期に区分することができる(29)。

田村城館跡は14～15世紀の細川氏の居館であり、城郭は３重の濠で囲まれた複合城郭である。郭内には区画溝や掘立柱建物跡が存在しており、外濠の幅は４～５ｍ、深さ3.5ｍを測り、この中からは土師質土器や護符が出土している(30)。

岩村土居城跡（南国市福船）では城を囲む２重の堀が発掘された。この堀は出土遺物から14～15世紀に機能していたと考えられる(31)。

長宗我部氏の居城であった岡豊城は詰、二ノ段、三ノ段などから礎石建物跡が検出され、史跡公園として整備されている(32)。

⑦　近世以降

山内氏の土佐入国による高知城築城以降、土佐の中心地は高知市域に移った。長岡台地は当時未墾の荒地であったが、藩政初期の新田開発の際、諸役・諸税御免として入植を奨励し、御免町が生まれた。御免は今は後免と改められ、南国市の中心街となっている。近世における長岡台地の村落の様相については、陣山遺跡（南国市陣山）(33)、小籠遺跡(34)、岩村遺跡(35)、など近年発掘調査例は増えつつある。

近年戦争遺跡を平和学習に積極的に活用していこうという動きが全国的に見られているなか、陣山遺跡では海軍の送信所跡地が発掘され、砲弾類が多数出土した(36)。また南国市前浜には、旧高知海軍航空隊所属の飛行機の格納庫であった掩体が今なお７基たたずんでいる。

註

（１）島田豊寿「地理」『南国市史 上巻』南国市教育委員会　1979年

（２）岡本健児「原始」『南国市史 上巻』南国市教育委員会　1979年

（３）松村信博『奥谷南遺跡Ⅰ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　1999年

（４）　（３）に同じ

（５）松村信博『栄エ田遺跡』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　1995年

（６）『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第１分冊 高知県教育委員会　1986年

（７）『平成10年度 高知空港発掘調査 田村遺跡群 現地説明会資料』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　1999年

（８）『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第１～15分冊 高知県教育委　員会　1986年

（９）『平成11年度 高知空港発掘調査 田村遺跡群 現地説明会資料』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　2000年

(10)　（２）に同じ

(11) 三谷民雄『岩村遺跡群Ⅳ』南国市教育委員会　1999年

(12) 出原恵三・高橋啓明・吉原達生『十万遺跡発掘調査報告書』香我美町教育委員会　1988年

(13) 出原恵三『拝原遺跡』香我美町教育委員会　1993年

(14) 高橋啓明・出原恵三『下分遠崎遺跡発掘調査報告書(1)』香我美町教育委員会　1989年

(15)『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第４分冊 高知県教育委員会　1986年

(16) 岡本健児『高知県史 考古編』高知県　1968年

(17) 伊藤 強『バーガ森北斜面遺跡』伊野町教育委員会　1999年

(18) 坂本憲昭『野市町本村遺跡調査報告書』野市町教育委員会　1993年
(19) 出原恵三「弥生時代から中世における小籠遺跡の変遷」『小籠遺跡Ⅲ』(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター　1997年
(20) 出原恵三「下ノ坪遺跡の弥生後期土器と集落」『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会　1998年
(21) 廣田佳久・池澤俊幸『長畝古墳群 高知自動車道（南国～伊野）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター　1996年
(22)『土佐国衙跡発掘調査報告書 第1～11集』高知県教育委員会・南国市教育委員会　1980～1991年
(23)『埋文こうち 第9号』高知県教育委員会　1996年
(24)　(22) に同じ
(25) 三谷民雄『白猪田遺跡』南国市教育委員会　1997年
(26) 山本哲也『土佐国分寺跡 第1～3次発掘調査概報』南国市教育委員会　1988～1991年
(27) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会　1998年
(28) 宅間一之『高知県南国市 中世城館跡』南国市教育委員会　1985年
(29)『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群』第10分冊 高知県教育委員会　1986年
(30)　(28) に同じ
(31) 三谷民雄『岩村遺跡群Ⅲ』南国市教育委員会　1998年
(32) 森田尚宏・松田直則・岡本桂典『岡豊城跡』高知県教育委員会　1990年
(33) 出原恵三・吉成承三・浜田恵子・佐竹 寛『陣山遺跡、陣山北三区遺跡』(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター　1997年
(34) 浜田恵子「小籠遺跡、近世村落の景観復原」『小籠遺跡Ⅲ』(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター　1997年
(35)　(11) に同じ
(36) 出原恵三「陣山海軍送信所と爆発事故」『陣山遺跡、陣山北三区遺跡』(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

番号	名　称	種　別	時　代	番号	名　称	種　別	時　代	番号	名　称	種　別	時　代	番号	名　称	種　別	時　代
1	土佐国府跡	官衙跡	弥生～中世	21	中ノ土居城跡	城館跡	中　世	41	ニタ丸遺跡	散布地	弥生～近世	61	古流曽遺跡	散布地	古墳～平安
2	比江廃寺跡	寺院跡	白鳳～奈良	22	前鳴遺跡	散布地	平安～中世	42	土島田遺跡	〃	〃	62	寺ノ前遺跡	〃	弥生～中世
3	比江山城跡	城館跡	中　世	23	上岡越遺跡	〃	奈良・平安	43	舟岩古墳群(1~16号)	古　墳	古　墳	63	横落遺跡	〃	弥生～平安
4	乾家墓所	古　墓	近　世	24	鯛ノ骨　1・2号墳	古　墳	古　墳	44	小蓮古墳	〃	〃	64	高添遺跡	〃	〃
5	土佐国分寺跡	寺院跡	奈良～平安	25	五反田ヤコヅエ遺跡	散布地	古墳～中世	45	岡豊城跡	城館跡	中　世	65	門田遺跡	〃	古墳～中世
6	国分寺遺跡群	散布地	古墳～近世	26	陣山遺跡	〃	中世～近代	46	奥谷南遺跡	散布地	旧石器～弥生	66	修理田遺跡	〃	弥生～平安
7	国分大塚古墳	古　墳	古　墳	27	白山遺跡	〃	古墳～平安	47	宮ノ前遺跡	〃	弥生～平安	67	大篠小学校　校庭遺跡	〃	弥　生
8	渕ノ上遺跡	散布地	弥生～平安	28	東弥一遺跡	〃	〃	48	千頭屋敷遺跡	屋敷跡	中　世	68	若宮ノ東遺跡	〃	弥生～中世
9	三添遺跡	〃	弥生～近世	29	神明遺跡	〃	〃	49	小野古城跡	城館跡	〃	69	忠兵衛遺跡	〃	中　世
10	池ノ上遺跡	〃	古墳～中世	30	金地遺跡	〃	弥生・平安~中世	50	栄エ田遺跡	散布地	縄文～近世	70	北泉遺跡	〃	弥生～平安
11	福重遺跡	〃	奈良～中世	31	野村丸遺跡	〃	弥生～平安	51	長畝古墳群(2~4号)	古　墳	古　墳	71	明見彦山(1~3号)墳	古　墳	古　墳
12	水通遺跡	〃	弥生～平安	32	五反地遺跡	〃	古墳～中世	52	吉田土居城跡	城館跡	中　世	72	田村城館跡	城館跡	中　世
13	三畠遺跡	〃	〃	33	末松遺跡	〃	〃	53	吉田遺跡	散布地	古墳～中世	73	田村遺跡群	集落跡	縄文～近世
14	南神母遺跡	〃	古　墳	34	八反地遺跡	〃	古墳～平安	54	小籠遺跡	〃	弥生～近世	74	千屋城跡	城館跡	中　世
15	三畠城跡	城館跡	中　世	35	中屋遺跡	〃	〃	55	岩村遺跡	集落跡	〃	75	岡の上組遺跡	散布地	弥生～中世
16	ハザマダ遺跡	散布地	古墳～平安	36	米屋の東遺跡	〃	古墳～近世	56	岩村土居城跡	城館跡	中　世	76	中組遺跡	〃	〃
17	畑ヶ田遺跡	〃	〃	37	包末井ノ内遺跡	〃	縄文・古墳~平安	57	垣添遺跡	散布地	古墳～中世	77	片山土居城跡	城館跡	中　世
18	泉ヶ内遺跡	〃	〃	38	後藤丸遺跡	〃	弥生～近世	58	芝田遺跡	〃	〃	78	里改田遺跡	散布地	弥生～中世
19	沖ノ土居城跡	城館跡	中　世	39	辺路石南遺跡	〃	平安～中世	59	ムロカ内遺跡	〃	弥生～中世	79	西ノ芝遺跡	〃	〃
20	白猪田遺跡	散布地	古墳～平安	40	久保遺跡	〃	古墳～近世	60	東崎遺跡	集落跡	弥生～中世	80	下田土居城跡	城館跡	中　世

Fig. 4　土佐国府跡の位置と周辺の遺跡

第Ⅲ章　調査の成果

1．第26次調査（内裏地区）

（1）第26次調査の概要と基本層序

① 概　要（Fig. 5）

第26次調査は平成11年4月6日～平成11年8月13日まで行った。調査地は南国市比江字内裏389・392番地の水田で、土佐国府跡推定域の中央部北端にあたる。調査区は畦畔と用水路で南北に分かれている。北側を北区、南側を南区とする。北区の面積は1,009㎡、標高は18.6m前後を測る。南区の面積は458㎡、標高は18.2m前後を測る。

遺構検出面は両区とも浅く、耕作土直下の褐灰色ないしは黒褐色粘質土を掘り込んで形成している。検出された主な遺構は、弥生時代中期の土坑2基、古墳時代後期の竪穴住居7棟、古代の掘立柱建物8棟・土坑21基・溝6条などである。

② 基本層序（Fig. 7）

北区北壁（A～B）、南区西壁（C～D）、南区南壁（E～F）で観察した。3地点とも耕作土下に粘質土層が堆積しているが、（C～D）の北側では礫混じりの粘質土層と砂層が堆積している。

【北区北壁（A～B）】

Ⅰ層：耕作土。層厚16cm前後を測る。

Ⅱ層：黒褐色粘質土（7.5YR3/1）。安定した堆積であり、古代の遺物を包含する。層厚20cm前後を測る。

Ⅲ層：褐灰色粘質土（7.5YR4/1）に明褐色粘質土（7.5YR5/6）がブロック状に混じる。安定した堆積であり、遺構検出面である。層厚20cm前後を測る。

Ⅳ層：褐灰色粘質土（7.5YR4/1）。安定した堆積であり、層厚36cm前後を測る。

Ⅴ層：褐色粘質土（7.5YR4/6）。安定した堆積であり、層厚36cm以上を測る。

a：黒褐色粘質土（7.5YR3/1）。ピット埋土である。

【南区西壁（C～D）】

Ⅰ層：耕作土。層厚12cm前後を測る。

Ⅱ層：褐灰色粘質土（7.5YR5/1）。安定した堆積であり、層厚12cm前後を測る。

Ⅲ層：黒褐色粘質土（7.5YR3/1）。調査区の南側2/3に堆積しており、層厚40cm前後を測る。

Ⅳ層：灰褐色粘質土（7.5YR4/2）に5cm～拳大の礫が多量混じる。調査区の北側1/3に堆積しており、層厚12cm前後を測る。

Ⅴ層：にぶい褐色粘質土（7.5YR5/3）。調査区中央部の部分的な堆積であり、層厚32cm以上を測る。

Ⅵ層：灰オリーブ砂層（5YR5/2）。調査区の北側1/3に堆積しており、層厚60cm以上を測る。

Ⅶ層：灰色砂礫層（5YR4/1）。調査区北端での部分的な堆積であり、層厚20cm以上を測る。

a：黒色粘質土（7.5YR2/1）。SD65の埋土である。

b：黒褐色粘質土（7.5YR3/1）に明赤褐色粘質土（5YR5/6）が混じる。SD65の埋土である。

【南区西壁（E～F）】

Ⅰ層：耕作土。層厚20cm前後を測る。

Ⅱ層：褐灰色粘質土（7.5YR5/1）。安定した堆積であり、層厚12cm前後を測る。

Ⅲ層：黒褐色粘質土（7.5YR3/1）。安定した堆積であり、層厚24～56cmを測る。

Ⅳ層：にぶい褐色粘質土（7.5YR5/3）。安定した堆積であり、層厚44cm以上を測る。

（2）弥生時代の遺構と遺物

① 土 坑

SK125（Fig. 8）

南区の東側で検出した土坑である。隅丸長方形のプランを呈し、長軸1.86m、短軸1.2m前後、深さ40cmを測る。床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）の単純一層である。遺物は礫埋土の上～中層から出土している。弥生中期土器片が拳大～人頭大の円礫と重なりあうように出土している。出土状況から弥生土器と円礫とは同時に廃棄されたものと考えられる。弥生土器は全て広口壺で、図示し得た3例（1・3・6）では指頭で押圧を施した扁平な粘土帯を頸部に貼付している。（3・6）は口縁部に凹線文を巡らし、（4）は斜格子と円形浮文を貼付している。これらの土器はⅣ－1様式の一括資料である。　（出原）

SK127（Fig. 9）

北区の南東部に位置する。不整形なプランをしているが、南側のテラス状の部分は古墳時代ないしは古代の掘り込みと考えられる。本来は長軸1.5m前後、短軸1.1m、深さ50cmを測る隅丸方形プランを呈するものである。床面は平坦で、壁は斜めに直線的に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）の単純一層である。SK125と同様に拳大～人頭大の円礫と共に弥生中期土器片が数多く出土している。SK125では埋土の上～中層で出土したのに対して、本例では下層および床面から多く出土している。土器は壺と甕で、壺が多い。壺は、広口壺（9・10・12・16）と長頸壺（11）がある。前者の内（10・16）は口縁部外面に扁平な粘土帯を貼付している。後者は口縁部に凹線文、頸部下端にハケ状原体による列点文を施している。前者と後者では胎土も異なっている。甕は口縁部が「く」字状に屈曲するタイプ（17）といわゆる土佐型（18・19）が見られる。後者は口縁部外面に微隆起帯（18）や扁平な粘土帯（19）を貼付し、上胴部には櫛描直線文や微隆起帯、浮文を貼付した飾られた甕である。土佐型甕2点を除くと、総じてヘラミガキ調整が丹念になされている。これらの土器もⅣ－1様式の一括資料とすることができる。

なお、埋土中より鉄器が2点出土している。紡錘車（22）とその軸棒（23）である。前者は径5.4cm、厚さ0.2cm。後者は長さ11.6cm、断面径0.3cmを測り、先端を曲げている。これらは古墳時代～古代の掘り込みの混入である。　（出原）

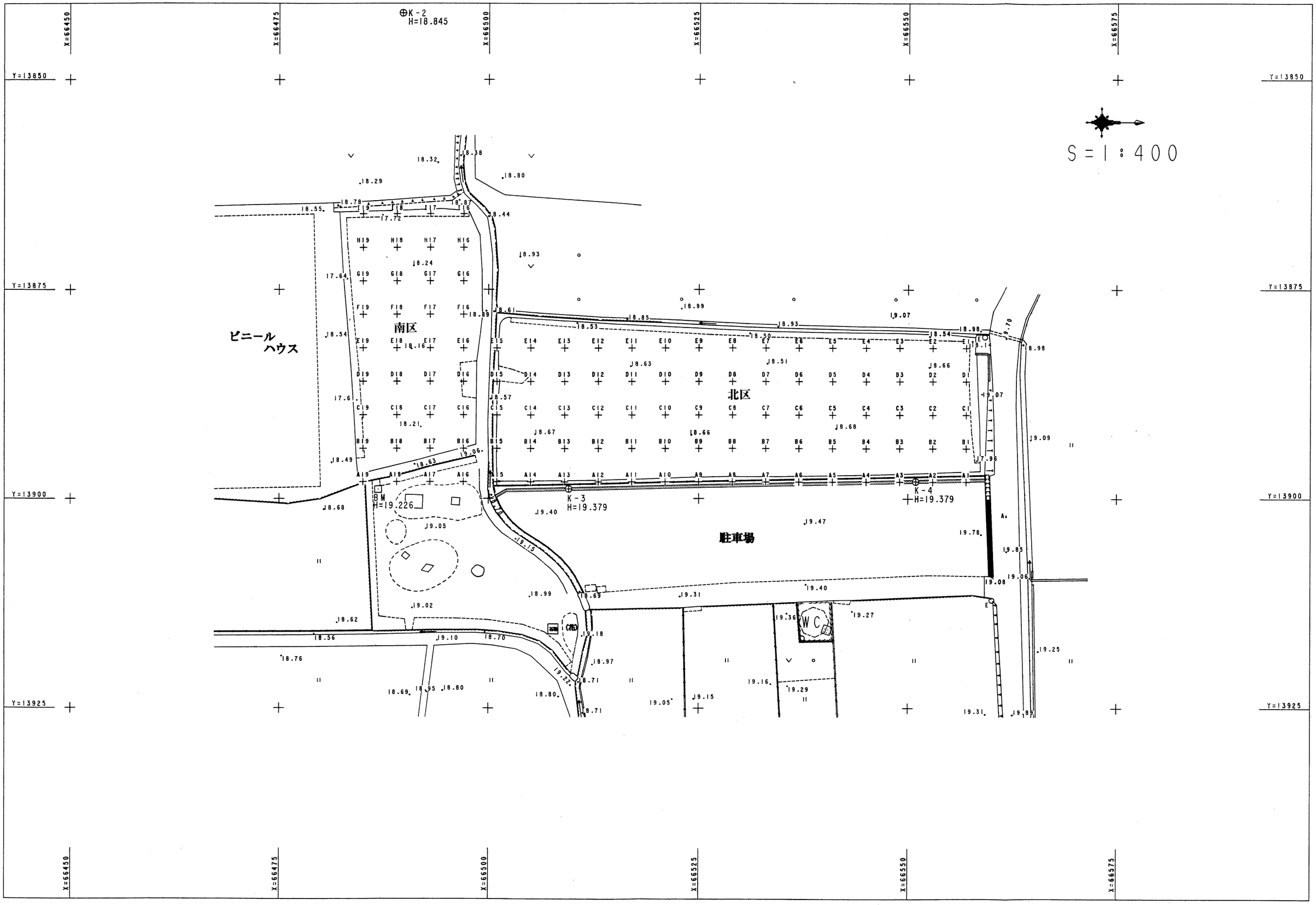
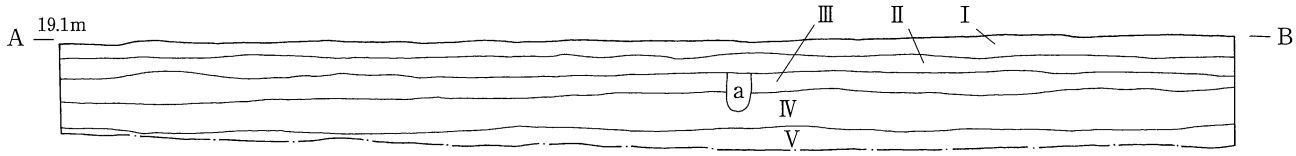
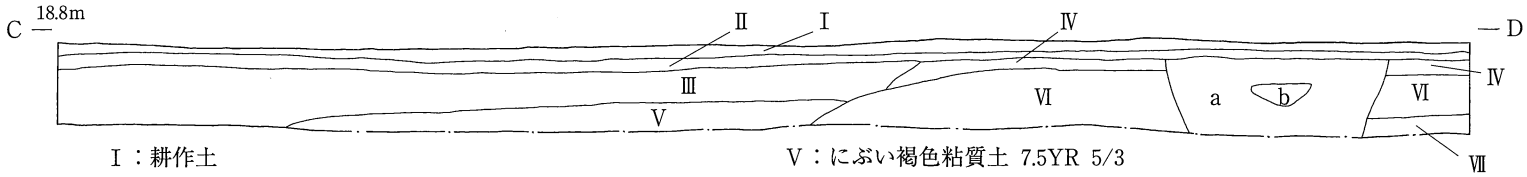


Fig. 5　第26次調査区設定図

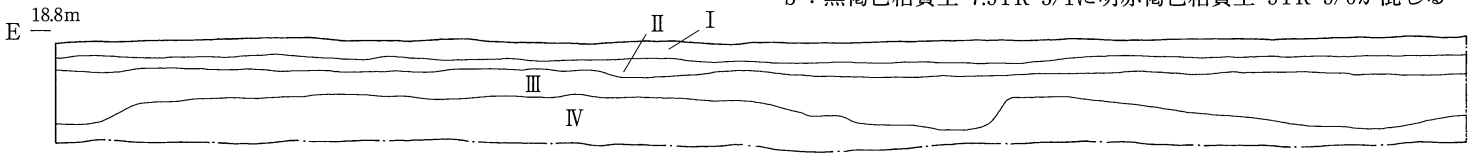
Fig. 6　第26次調査区検出遺構全体図

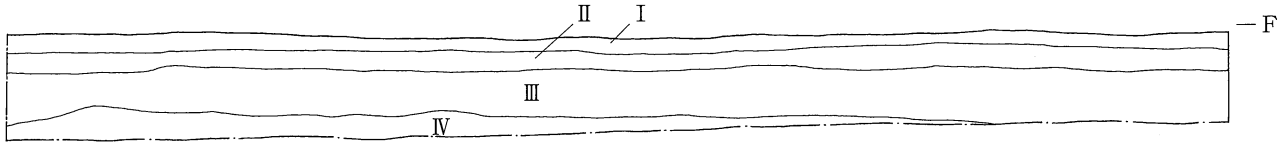


Ⅰ：耕作土
Ⅱ：黒褐色粘質土 7.5YR 3/1（古代遺物包含層）
Ⅲ：褐灰色粘質土 7.5YR 4/1に明褐色粘質土 7.5YR 5/6がブロック状に混じる
Ⅳ：褐灰色粘質土 7.5YR 4/1
Ⅴ：褐色粘質土 7.5YR 4/6
a：黒褐色粘質土 7.5YR 3/1（P埋土）



Ⅰ：耕作土
Ⅱ：褐灰色粘質土 7.5YR 5/1
Ⅲ：黒褐色粘質土 7.5YR 3/1
Ⅳ：灰褐色砂礫層 7.5YR 4/2に5cm～拳大の礫が多量に混じる
Ⅴ：にぶい褐色粘質土 7.5YR 5/3
Ⅵ：灰オリーブ色砂層 5YR 5/2
Ⅶ：灰色砂礫層 5YR 4/1
a：黒色粘質土 7.5YR 2/1（SD65埋土）
b：黒褐色粘質土 7.5YR 3/1に明赤褐色粘質土 5YR 5/6が混じる





Ⅰ：耕作土
Ⅱ：褐灰色粘質土 7.5YR 5/1
Ⅲ：黒褐色粘質土 7.5YR 3/1
Ⅳ：にぶい褐色粘質土 7.5YR 5/3

0　4m

Fig. 7　基本層序

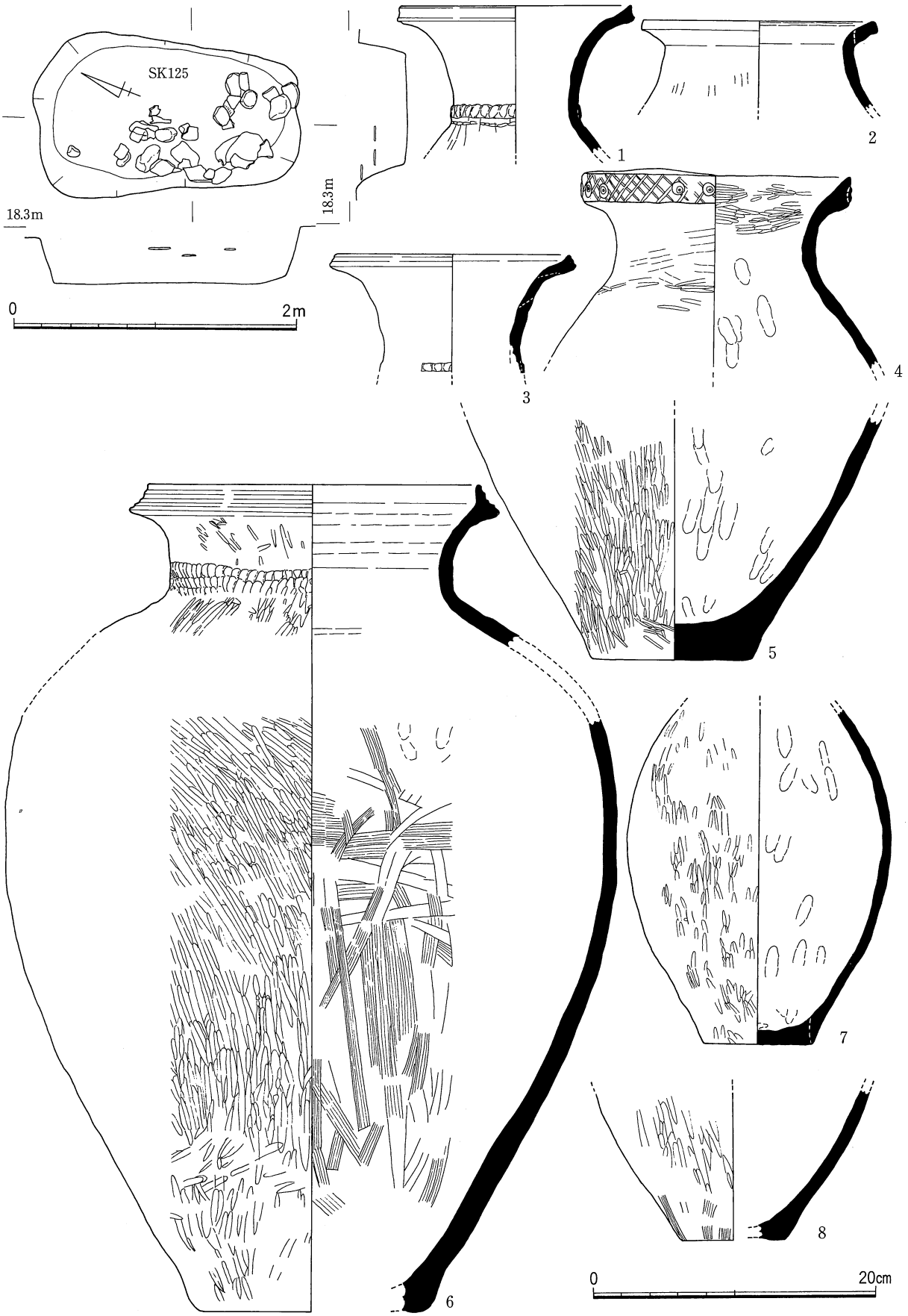


Fig. 8　SK125平面、エレベーション、出土遺物実測図

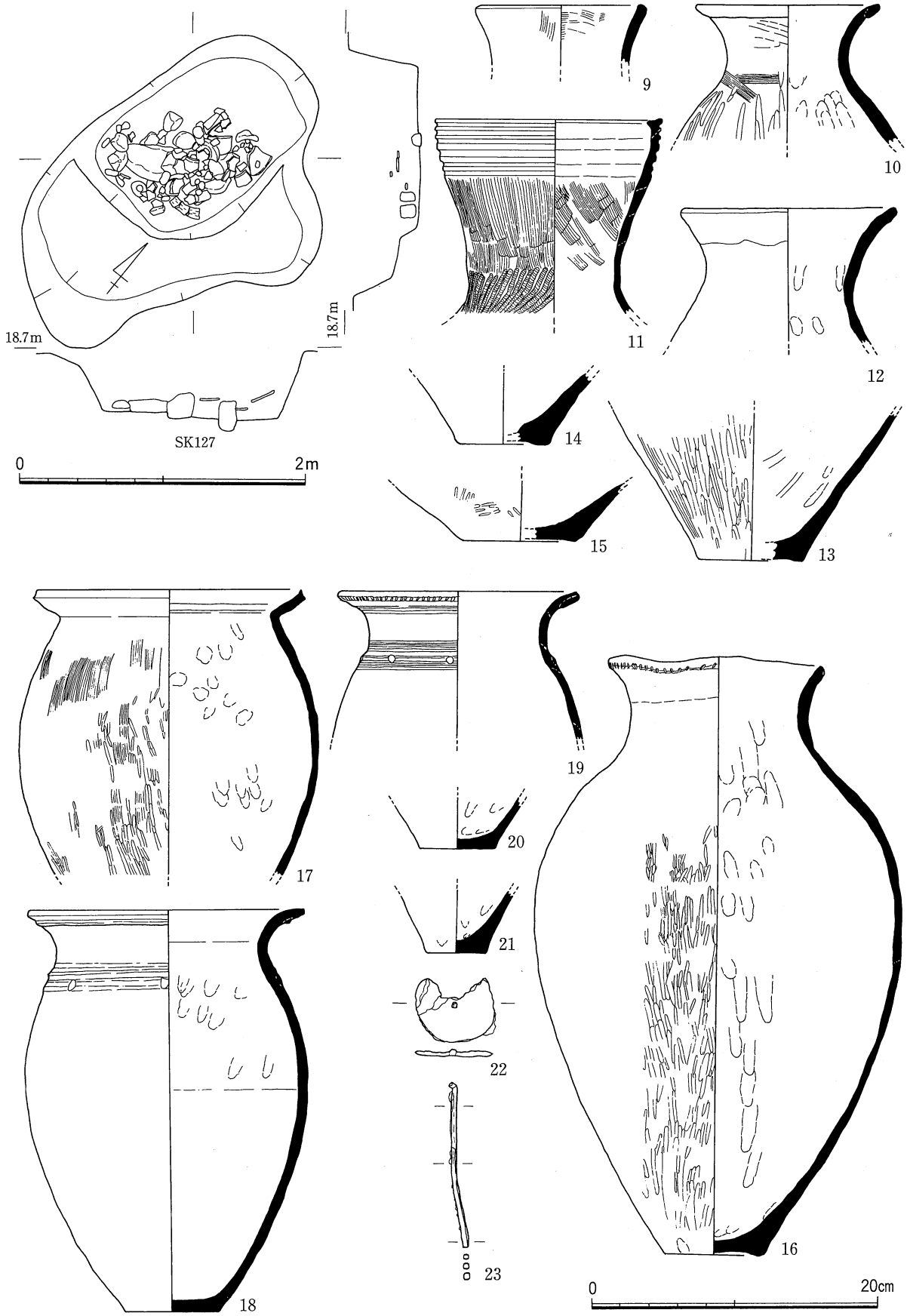


Fig. 9　SK127平面、エレベーション、出土遺物実測図

（3）古墳時代の遺構と遺物

① 竪穴住居

ST31（Fig.10）

北区の南東部で検出した隅丸方形を呈する竪穴住居址で、長軸5.37m、短軸5.34mを測る。SK143・144に切られている。また、東側の一部は調査区外のため明らかにすることができなかった。検出面から床面までの深さは20cm前後を測る。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）の単純一層である。

出土遺物のうち図示し得たのは13点（土師器坏：28～31、土師器甕：24・32、土師器甑：25、須恵器蓋：33、須恵器坏：26・34、須恵器高坏：27、黒色土器椀：35、土錘36）である。そのうちST31に伴うものは（24～27）であり、特に（26・27）は床面よりの出土である。その他の出土遺物はSK143・144等からの混入品であると考えられる。ST31は古墳時代後期に属する。

ST32（Fig.11）

北区の中央部東側で検出した一辺が4.95mの方形の竪穴住居址である。SK148に切られている。また、東側半分は調査区外のため明らかにすることができなかった。検出面から床面までの深さは20cm前後を測る。埋土は褐灰色粘質土（5YR4/1）の単純一層である。

出土遺物のうち図示し得たのは6点（土師器坏：37～40、土師器椀：41、須恵器坏：42）であり、(42) 以外は混入品と考えられる。ST32は古墳時代後期に属する。

ST33（Fig.11）

北区の北東部で検出した方形の竪穴住居址で、長軸4.5m、短軸4.32mを測る。SB81－P9とSD69に切られている。検出面から床面までの深さは10cm前後と、削平が激しい。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）の単純一層である。住居址東壁に沿って一辺が63cm、床面からの深さが11cmの方形の落ち込みが確認された。カマドの存在が推定できる。

遺物は土師器坏、須恵器甕の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。遺構の切り合い関係からST33は古墳時代後期に属する。

ST34（Fig.12）

北区の北西部で検出した方形の竪穴住居址で、長軸5.88m、短軸4.92mを測る。北西隅部をSD69に切られる。検出面から床面までの深さは10cm前後と、削平が激しい。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）の単純一層である。付属遺構として16個のピットを検出したが、深さが10～20cmと浅く、またその配置等から主柱穴と考えられるピットは確認できなかった。また、東壁部に長軸123cm、短軸90cm、深さ16cmの楕円形の落ち込みが確認されたが、焼土を含んでおり、カマドの存在が推定できる。

遺物は土師器の皿・坏・甕、須恵器の坏等が出土しているが、細片が多く、図示できたのは2点（土師器皿：43、須恵器坏：44）のみである。(43) は混入品である。ST34は古墳時代後期に属する。

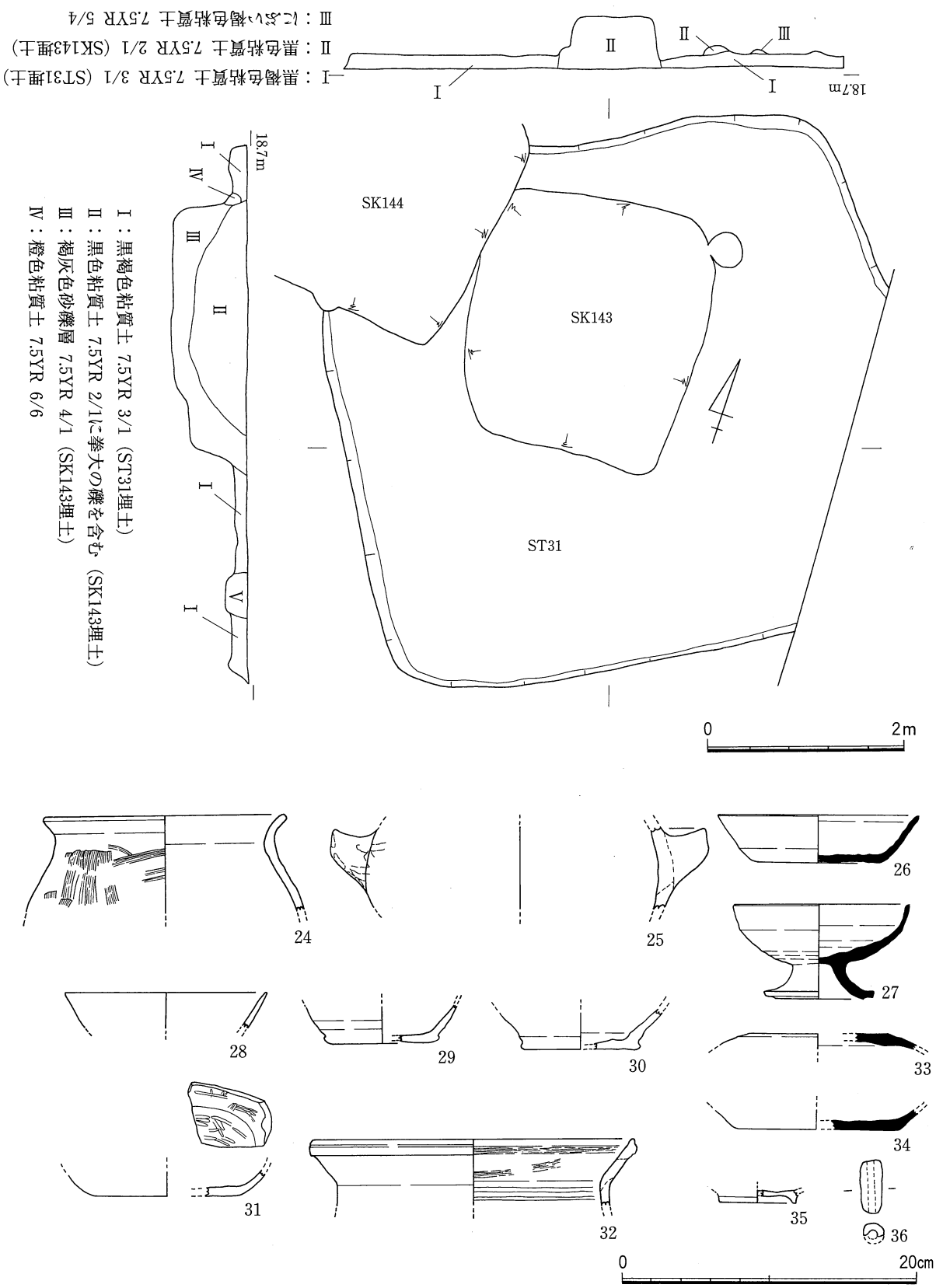


Fig.10　ST31平面、セクション、出土遺物実測図

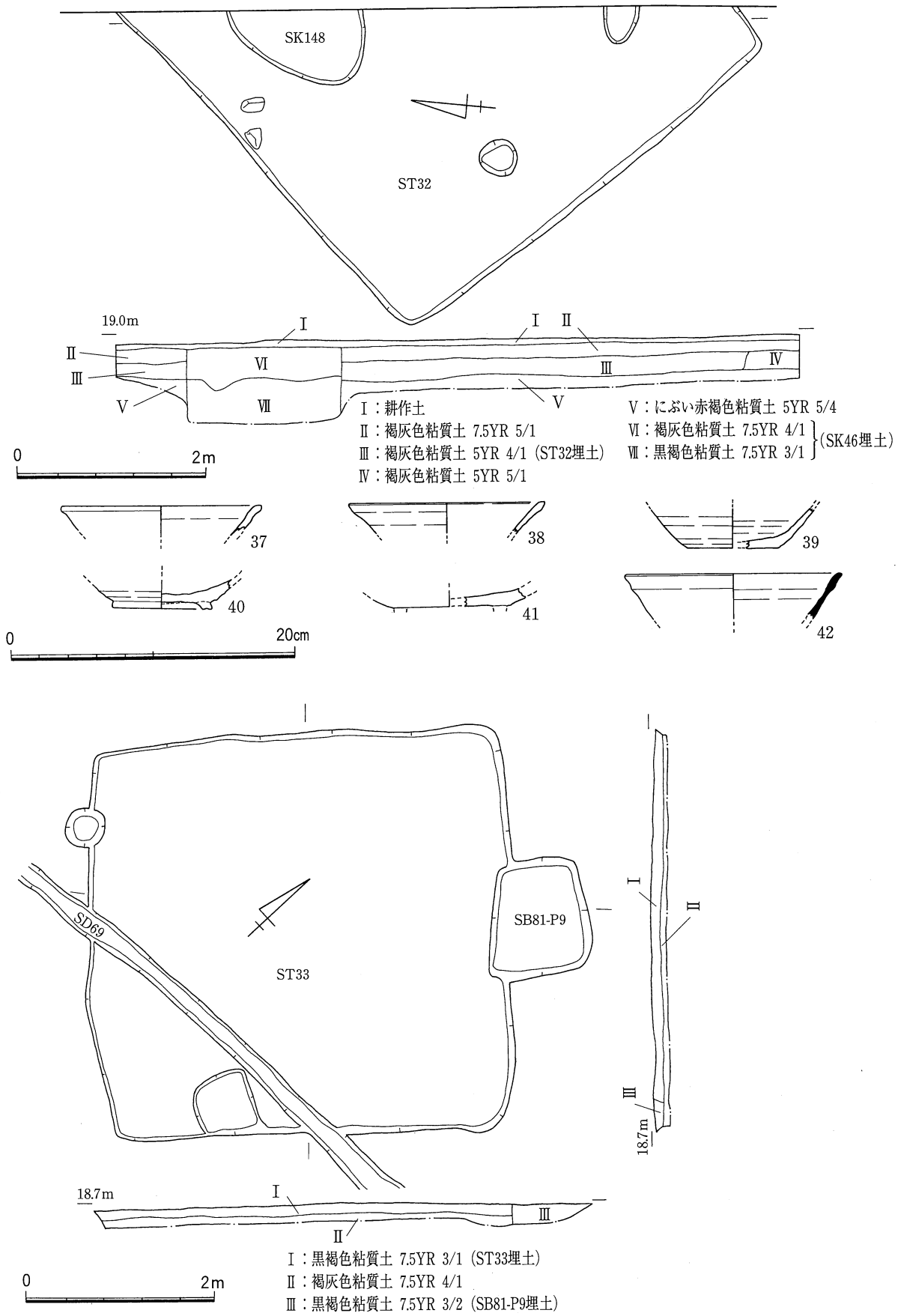


Fig.11　ST32・33平面、セクション、出土遺物実測図

ST35（Fig.12）

北区の北東部で検出した方形の竪穴住居址であるが、東側の大部分が調査区外のためその規模は明らかにすることができなかった。検出面から床面までの深さは10cm前後と削平が激しい。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）の単純一層である。

出土遺物は皆無であった。ST35は古墳時代後期に属すると思われる。

ST36（Fig.13）

北区の中央部で検出した方形の竪穴住居址で、長軸5.85m、短軸4.92mを測る。SK143・146・147に切られている。検出面から床面までの深さは18cm前後を測る。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/1）の単純一層である。

出土遺物のうち図示し得たのは８点（須恵器提瓶：45、須恵器坏蓋：46～49、須恵器坏：50、土師器甑：51、土師器皿：52）である。そのうち、（45・47～50・51）は床面よりの出土である。（48）の蓋と（50）の身はセットのものである。（52）は混入品である。ST36は古墳時代後期に属する。

ST37（Fig.13）

北区の中央部西側で検出した隅丸方形の竪穴住居址で、一辺が5.4m前後を測る。南東隅部はSK128に切られており、また西側は調査区外のため明らかにすることができなかった。検出面から床面までの深さは５cm前後と削平が大変激しい。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。付属遺構として３個のピットを検出したが、深さが10cm前後と浅く、またその配置等から主柱穴と考えられるピットは確認できなかった。

出土遺物のうち図示し得たのは３点（須恵器坏蓋：53、須恵器坏：54、土師器甑：55）は、床面よりの出土である。ST37は古墳時代後期に属する。

② 溝

SD68（Fig.23）

北区の西側で検出した東西方向（N－95°－E）の溝で、ST34に切られている。全長248cm、幅22cm、深さ６cmを測る。断面形は逆台形で、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。

出土遺物は皆無であった。

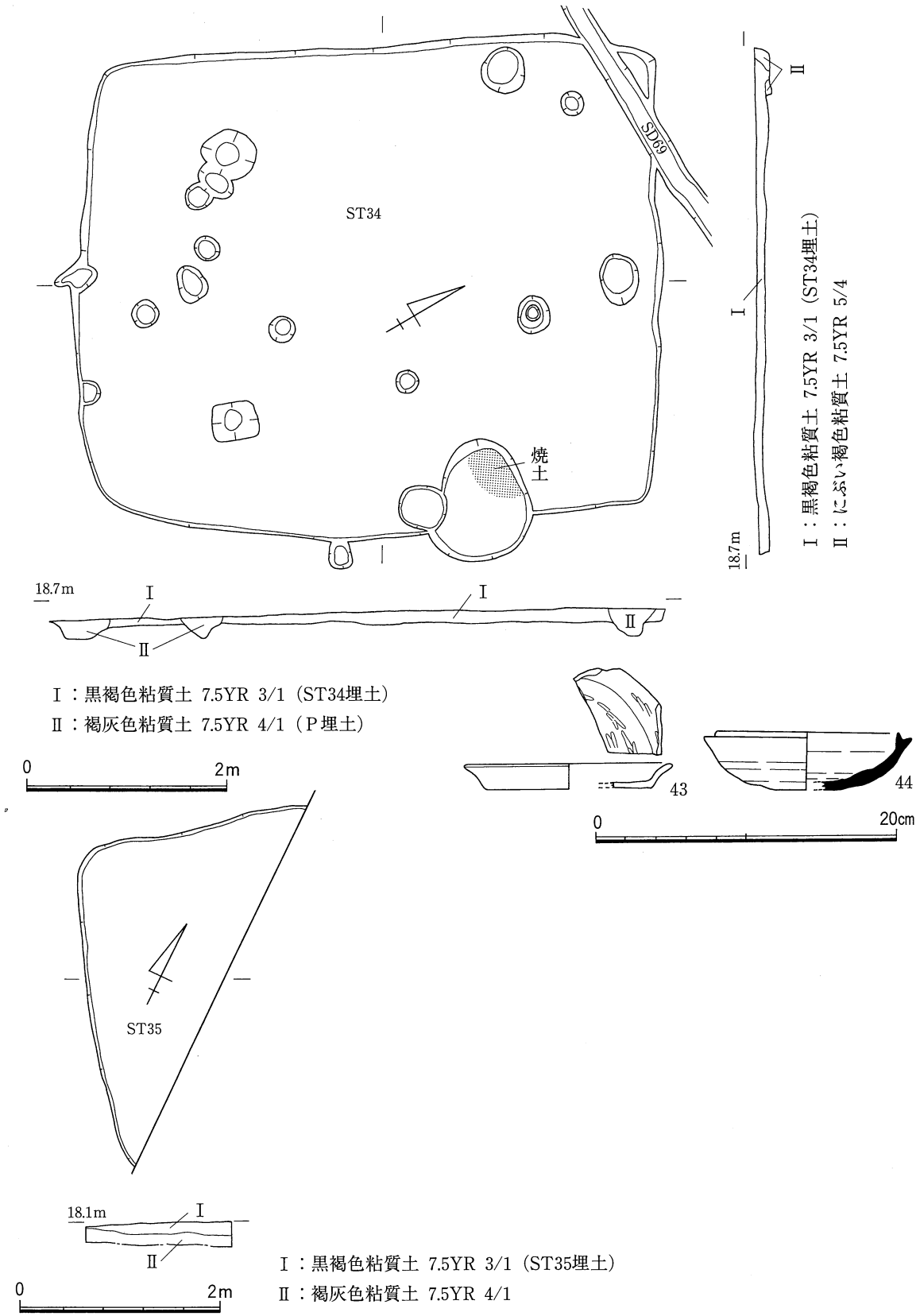


Fig.12　ST34・35平面、セクション、出土遺物実測図

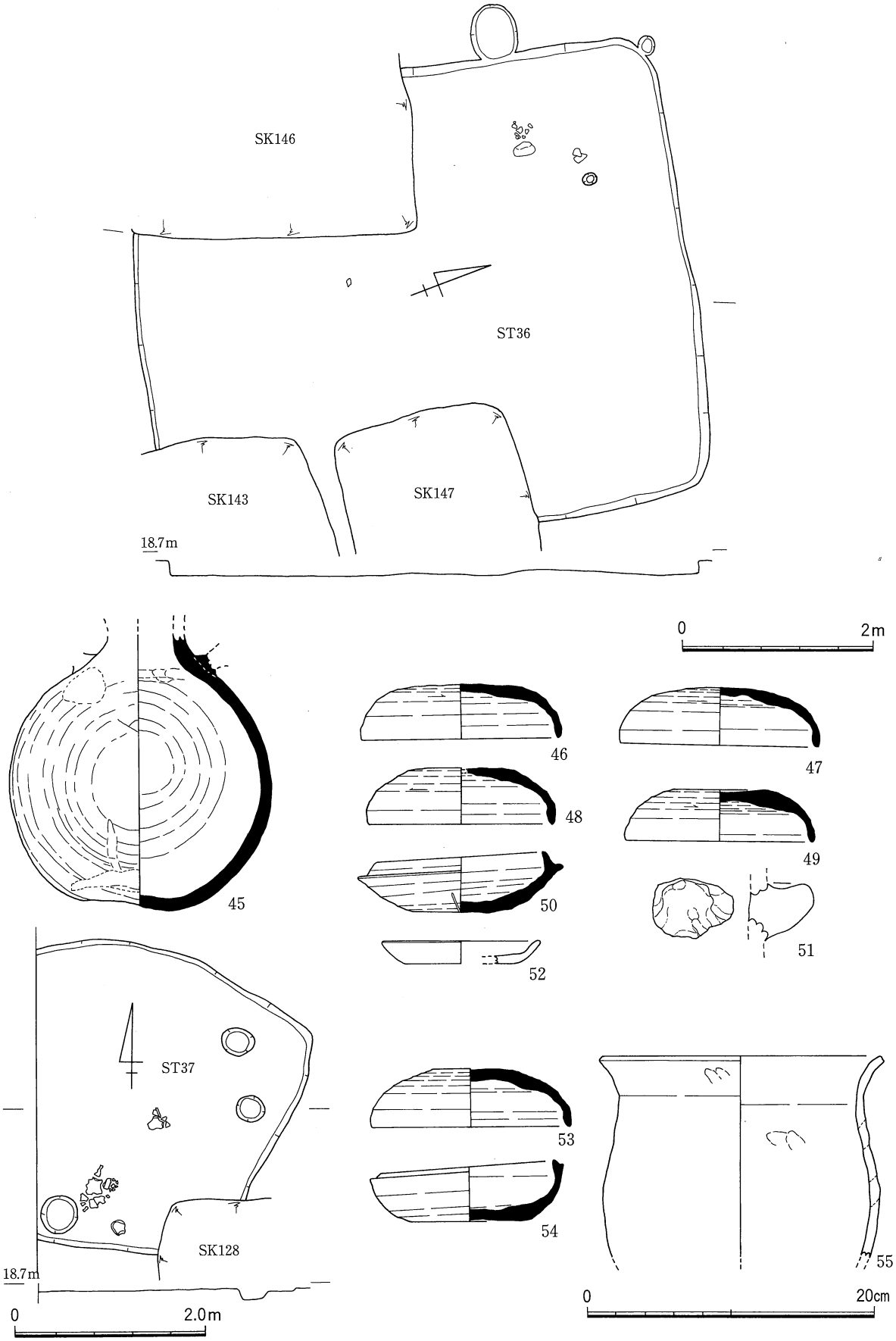


Fig.13　ST36・37平面、エレベーション、出土遺物実測図

（4）古代の遺構と遺物

① 掘立柱建物

SB76（Fig.14）

南区の南側で検出した総柱建物跡で、桁行2間（3.2m）以上、梁間2間（3.28m）の南北棟である。南側は調査区外のため明らかにすることができなかった。棟方向はN－10°－E、柱間距離は160cm前後を測る。柱穴の掘形は隅丸方形で、一辺52～68cm、深さ28～36cmを測る。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。

遺物は土師器の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

SB77（Fig.14）

南区の南側で検出した桁行1間（1.72m）以上、梁間2間（3.72m）の南北棟の掘立柱建物跡である。南側は調査区外のため明らかにすることができなかった。棟方向はN－2°－Eとほぼ真北に建てられている。柱間距離は桁行が140cmと172cm、梁間が180cmと200cmである。柱穴の掘形は隅丸方形と不整形な円形で、一辺または径は60cm前後、深さ20～36cmを測る。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。

遺物は土師器の細片が少量出土したが、図示できたのはP5出土の土師器小皿（56）のみである。

SB78（Fig.14）

北区の南側で検出した桁行3間（4.6m）、梁間2間（3.52m）の東西棟の掘立柱建物跡である。SB79と切り合っているが、先後関係は不明である。棟方向はN－100°－Eである。柱間距離は、桁行が140～160cm、梁間が160～180cmである。柱穴の掘形は隅丸方形と不整形な円形で、一辺または径は48～72cm、深さ20～36cmを測る。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。

遺物は土師器皿・甕、須恵器坏などが出土したが、図示できたのはP1出土の須恵器坏（58）とP3出土の須恵坏（57）のみである。

SB79（Fig.15）

北区の南側で検出した桁行3間（4.64m）、梁間2間（3.48m）の東西棟の掘立柱建物跡である。SB78と切り合っているが、先後関係は不明である。棟方向はN－77°－Eである。柱間距離は、桁行が136～168cm、梁間が180cmである。柱穴の掘形は不整形な円形で、径56～88cm、深さ8～64cmを測る。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。

遺物は土師器皿・坏・椀・羽釜などが出土したが、いずれも細片のため図示できなかった。

SB80（Fig.15）

北区の西側で検出した総柱建物跡で、桁行4間（5.0m）、梁間2間（3.32m）の東西棟である。棟方向はN－72°－Eであり、隣接するSB79と方向をほぼ同じくする。柱間距離は、桁行が116～128cm、梁間が172cmである。柱穴の掘形は不整形な円形で、径44～104cm、深さ12～60cmを測る。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）である。P6はSK134を切っている。

遺物は土師器・須恵器の細片が出土しているが、図示できたのはP7出土の須恵器坏（63）、P9出土の土師器小皿（59）、P12出土の土師器坏（60～62）の5点である。

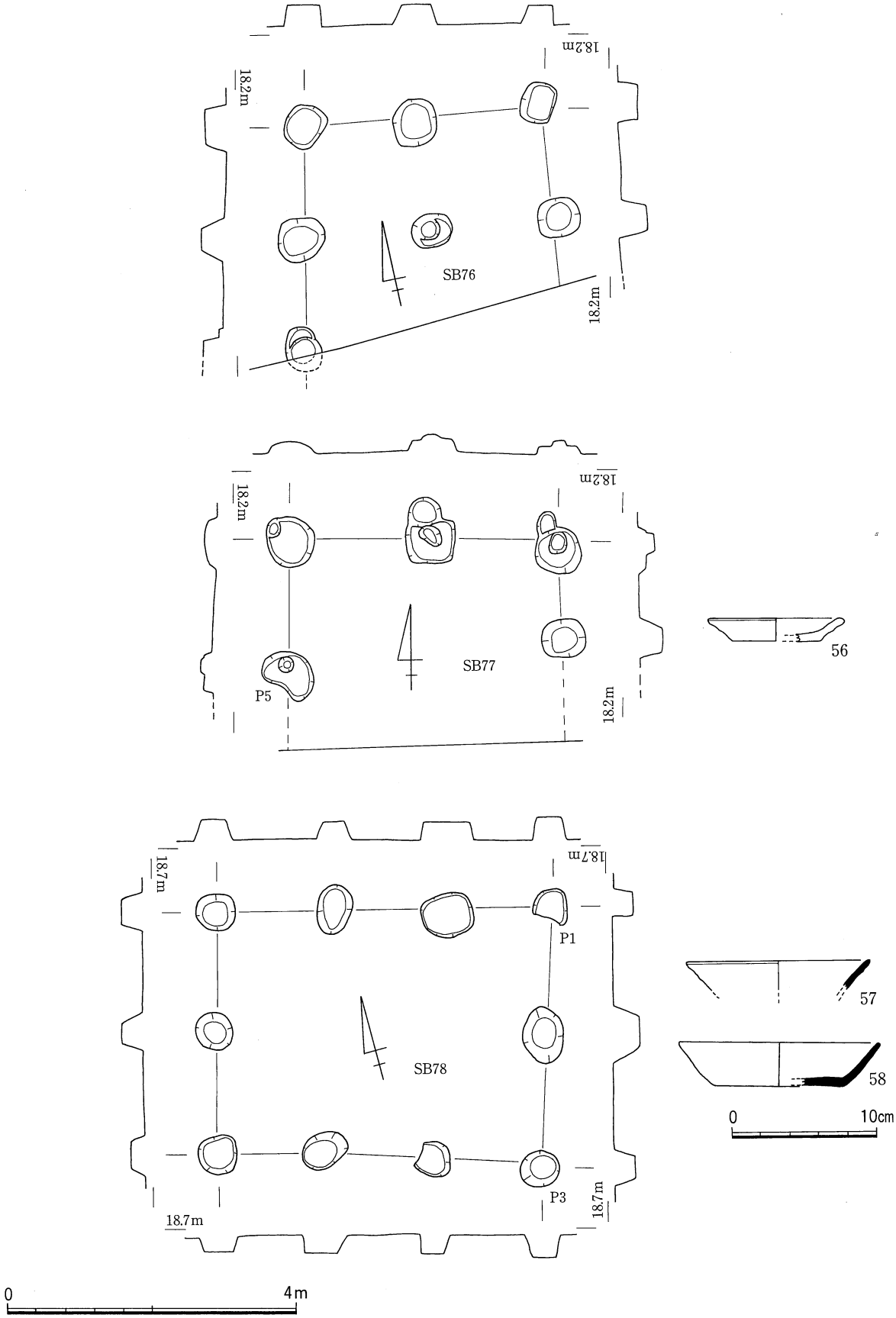


Fig.14　SB76～78平面、エレベーション、出土遺物実測図

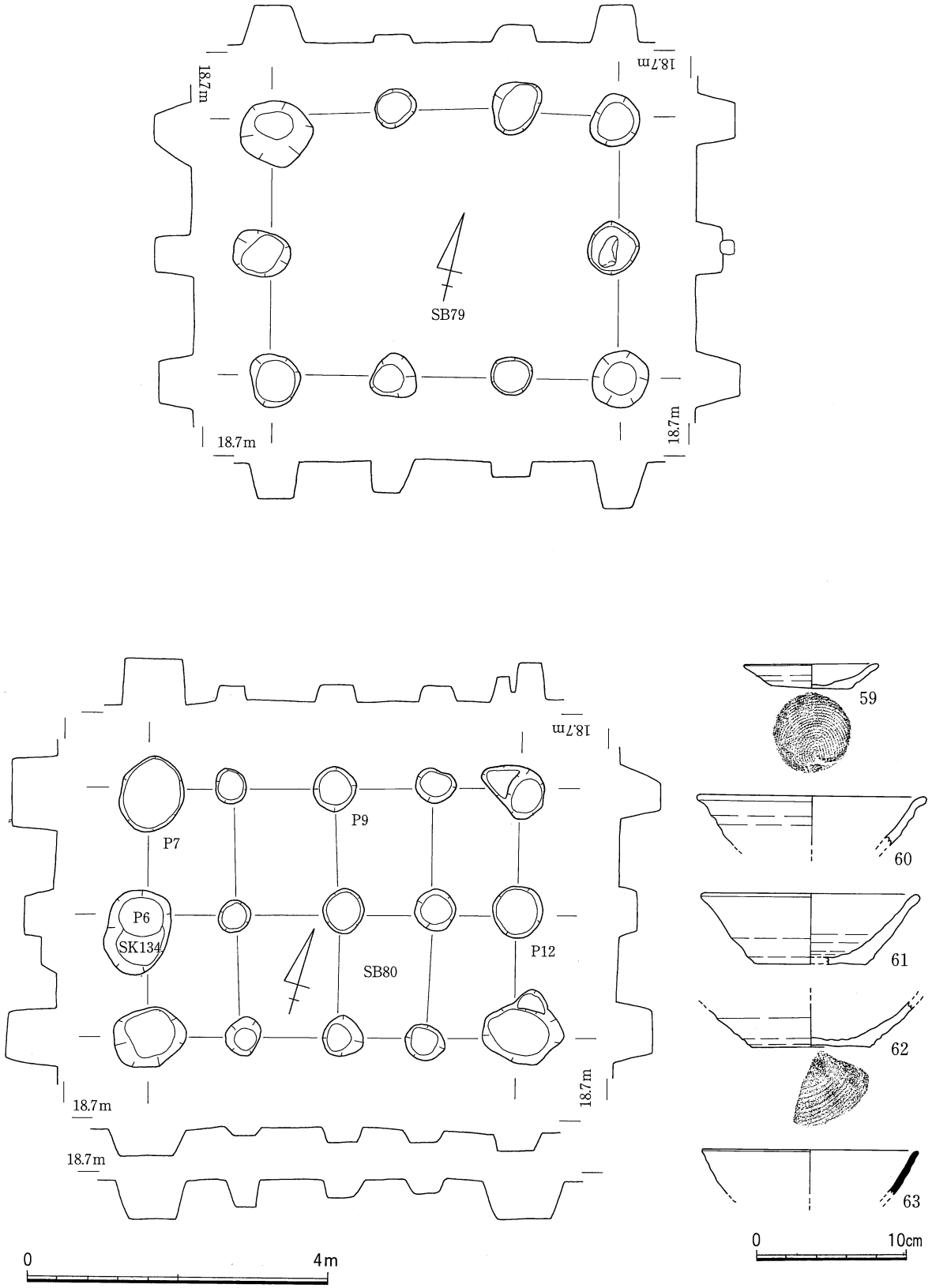


Fig.15　SB79・80平面、エレベーション、出土遺物実測図

SB81（Fig.16）

北区の東側で検出した南北棟の掘立柱建物で、桁行５間（10.32m）、梁間２間（4486m）と今次調査での最大規模の遺構である。東側は調査区外のため明らかにすることができなかった。P9はST33を切っている。棟方向はＮ－８°－Ｅである。柱間距離は、桁行が200cm前後、梁間が228～248cmである。柱穴の掘形は方形で、一辺88～132cm、深さ16～44cmを測る。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。

遺物は土師器坏、須恵器蓋・坏・甕などが出土したが、いずれも細片であり、図示できなかった。

SB82（Fig.17）

北区の北側で検出した桁行３間（4.88m）、梁間２間（4.7m・4.2m）の南北棟の掘立柱建物跡である。棟方向はＮ－５°－Ｅである。柱間距離は、桁行が160cm、梁間が220～260cmである。柱穴の掘形は不整形な円形で、径40～72cm、深さ16～52cmを測る。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）である。

遺物は土師器の細片が出土しているが、図示できたのはP8出土の土師器坏（64）のみである。

SB83（Fig.17）

北区の北側で検出した桁行２間（5.36m）、梁間２間（4.2m）の東西棟の掘立柱建物跡である。棟方向はＮ－88°－Ｅである。柱間距離は、桁行が268cm、梁間が180・232cmである。柱穴の掘形は不整形な円形で、径40cm前後、深さ32～48cmを測る。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。

遺物は土師器の細片が出土しているが、図示できたものはなかった。

② 土　坑

SK126（Fig.18）

SK126は南区の南東部で検出した。平面形は方形で、東壁の一部をピットに切られる。一辺1.9m、深さ26cm前後を測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な底面から垂直に近い角度で上がる。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。付属遺構として４個のピットと南壁に階段状に掘り残された小テラスを有している。ピットは柱穴と考えられ、平面形は不整形な円形で、径14～28cm、土坑の床面からの深さは約10cmである。

遺物は土師器の皿・坏・甕、須恵器の坏・甕等が出土しているが、全て細片であり、図示できるものはなかった。

SK128（Fig.18）

北区の西側で検出したST37を切る土坑である。平面形は方形で、長辺は1.68m、短辺は1.6mで、深さは約15cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は斜めに立ち上がる。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。東側の床面では炭化物が確認された。付属遺構として５個のピットを有している。ピットの平面形は不整形な円形で、径30～54cm、深さは8.5～23.6cmを測る。遺物の多くは床面よりの出土であり、図示し得たのは10点（土師器皿：65・66、土師器坏：67・68、土師器椀：69、須恵器坏：70、須恵器甕：71・72、弥生土器甕：73・74）である。（73・74）は混入品であると考えられる。

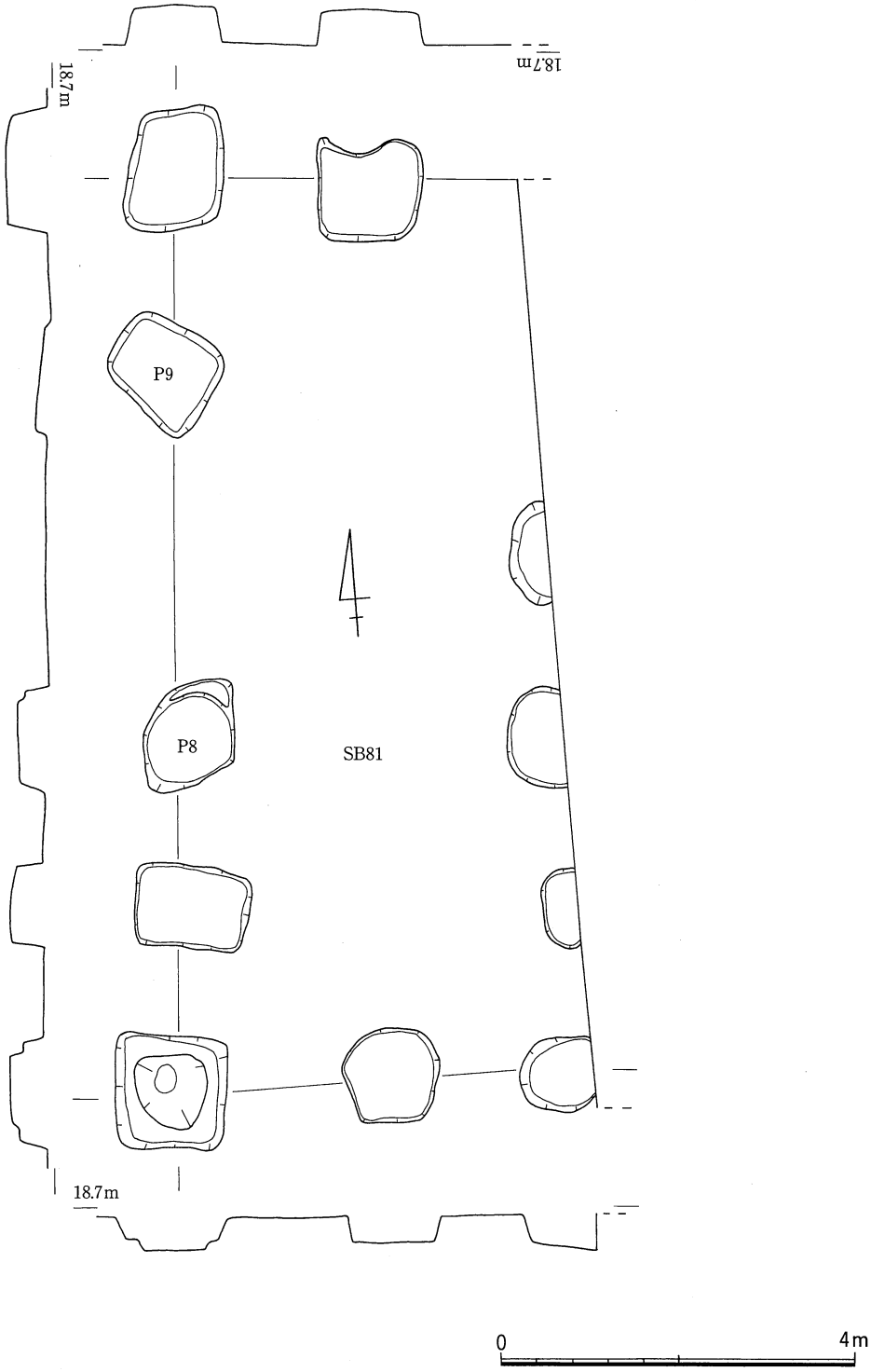
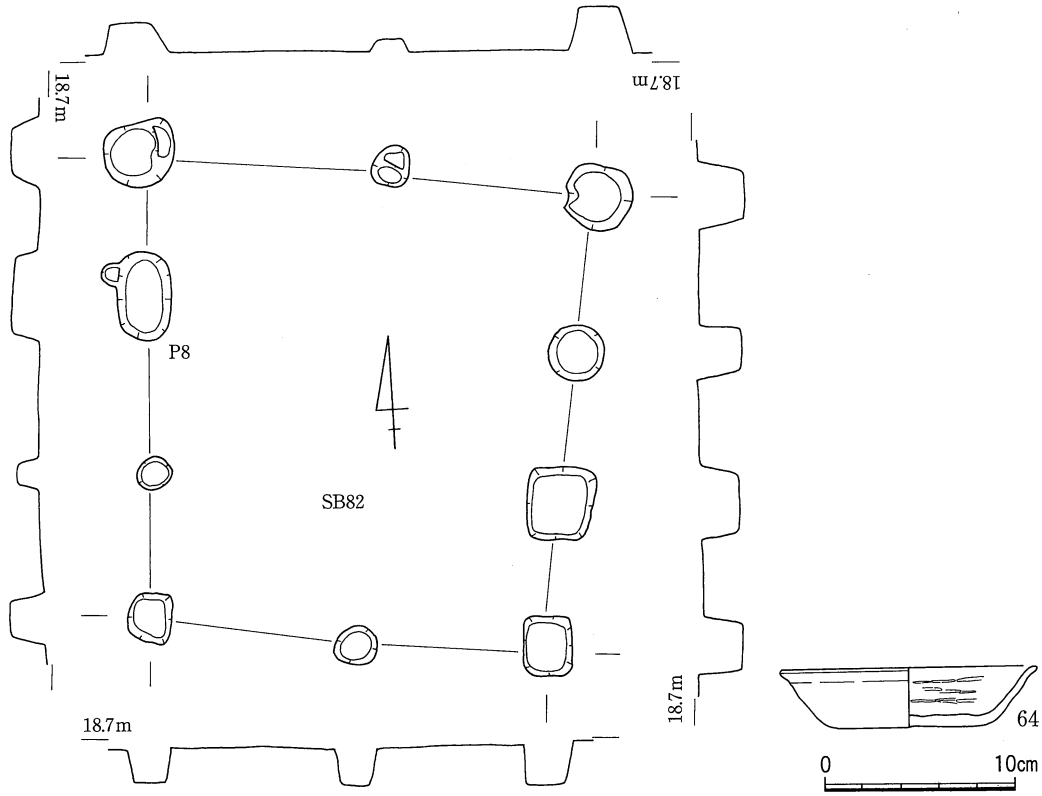


Fig.16　SB81平面、エレベーション図



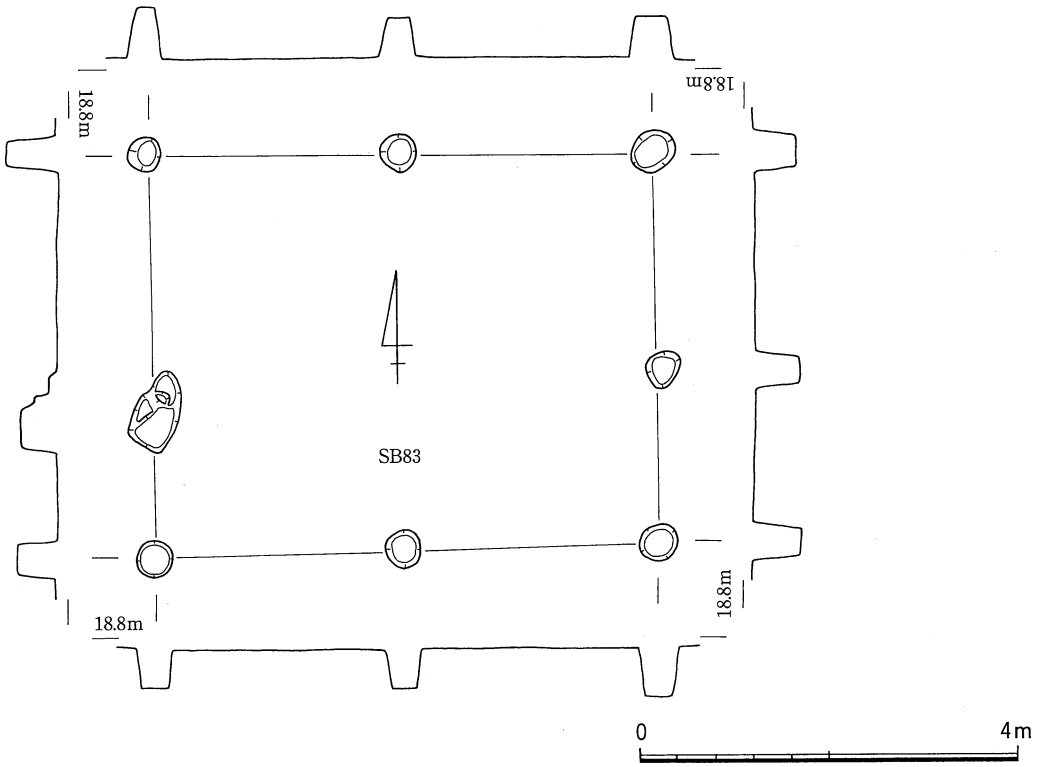


Fig.17　SB82・83平面、エレベーション、出土遺物実測図

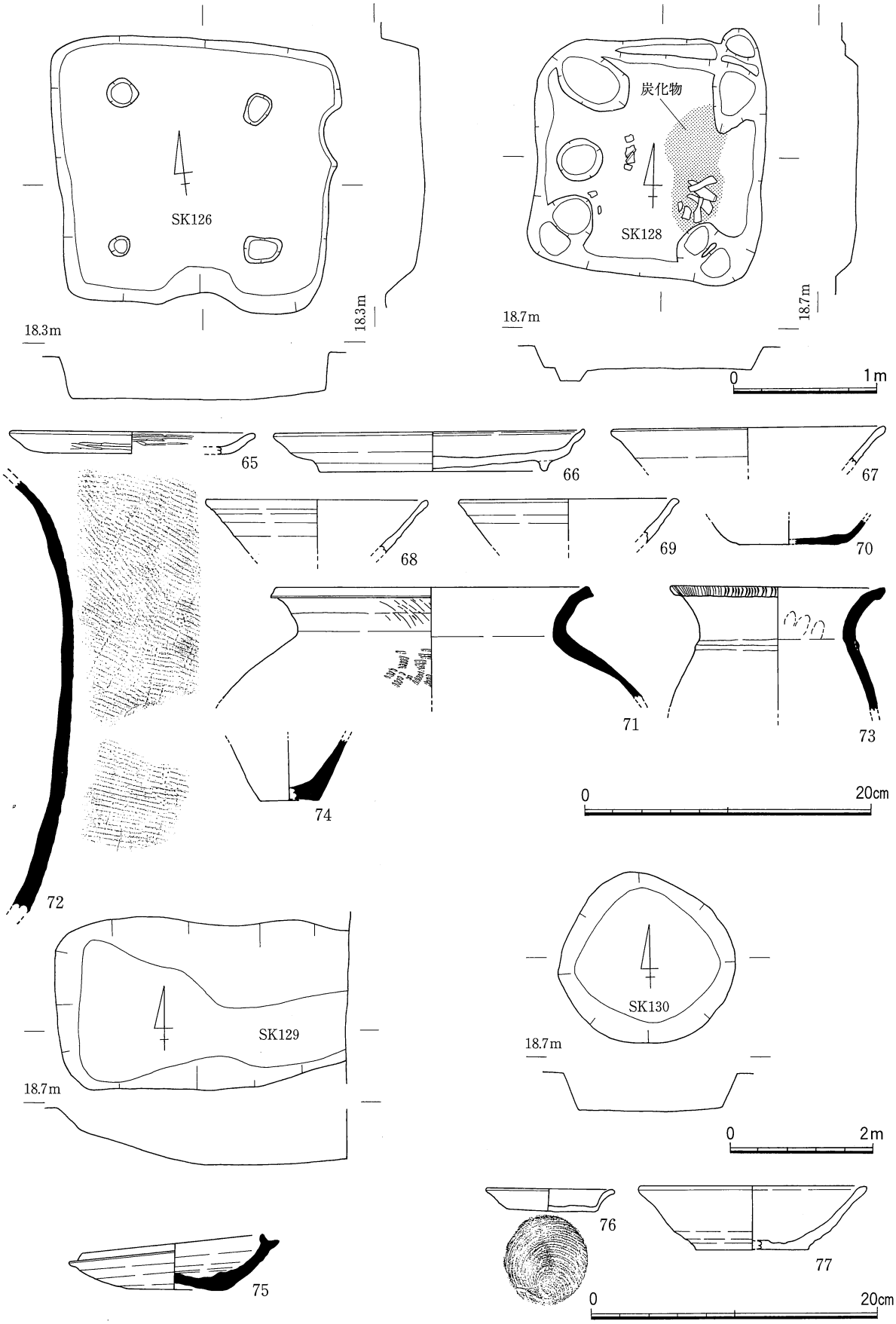


Fig.18　SK126・128～130平面、エレベーション、出土遺物実測図

SK129（Fig.18）

北区の南東部で検出した隅丸方形の平面形を呈する土坑である。東側は調査区外のため明らかにすることができなかった。確認できた長辺は204cm、短辺は120cm、深さは34cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は床面より緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。

遺物は土師器・須恵器の細片が少量出土しているが、図示し得たのは須恵器坏（75）のみである。

SK130（Fig.18）

北区の北西部で検出した円形の平面形を呈する土坑である。径120cm、深さは24cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁はやや斜めに立ち上がる。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器・須恵器の細片が少量出土しているが、図示し得たのは土師器小皿（76）、土師器椀（77）のみである。

SK131（Fig.19）

北区の中央部で検出した方形の平面形を呈する土坑である。長辺は196cm、短辺は178cm、深さは38cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な底面から垂直に近い角度で上がる。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。付属遺構として、西壁に掘り残された階段状の段部を確認した。段部の高さは底面から16cmである。

遺物は埋土の上～中層より土師器・須恵器等が多量出土した。そのうち図示できたのは27点（土師器皿：78～80、土師器坏：81～94、土師器甕：95～101、須恵器高坏：102、砥石：103・104）である。

SK132（Fig.20）

北区の南側で検出した隅丸方形の土坑である。長軸は136cm、短軸は114cm、深さは８cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。南壁と東壁の一部をピットに切られる。

遺物は土師器・須恵器の細片が少量出土しているが、図示できたのは３点（土師器坏：105・106、須恵器高坏：107）のみである。（107）は混入品と思われる。

SK133（Fig.20）

北区の南側で検出した不整形な円形の土坑である。径86cm、深さ16cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。

遺物は土師器の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

SK134（Fig.20）

北区の西側で検出した不整形な楕円形の土坑である。長軸は142cm、短軸は88cm、深さは16cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。北側はSB80－P6に切られている。

遺物は土師器坏、須恵器坏・甕の細片が出土しているが、図示できるものはなかった。

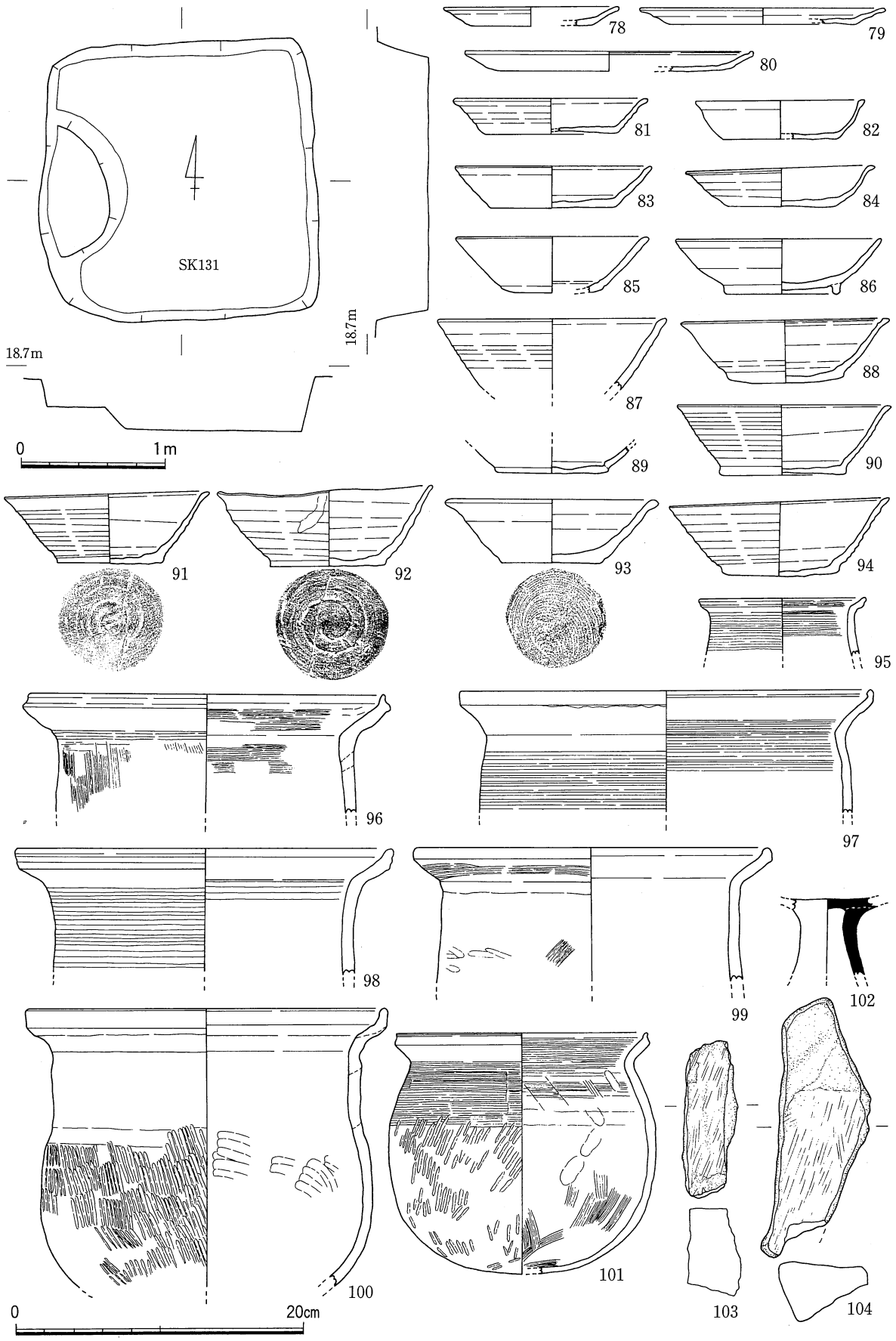


Fig.19　SK131平面、エレベーション、出土遺物実測図

SK135（Fig.20）

北区の東側で検出した不整形な土坑である。長軸は160cm、短軸は106cm、深さは22cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。西壁の一部をピットに切られている。

遺物は土師器の細片が少量出土しているが、図示できたのは椀（108）のみである。

SK136（Fig.20）

北区の北部で検出した円形の土坑である。径102cm、深さ26cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器の細片が少量出土しているが、図示できたのは3点（土師器小皿：109・110、土錘：111）のみである。

SK137（Fig.20）

北区の東側で検出した楕円形の土坑である。長軸96cm、短軸76cm、深さ32cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

SK138（Fig.20）

北区の中央部で検出した方形の土坑である。長辺118cm、短辺104cm、深さ12cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器坏・甕、須恵器甕の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

SK139（Fig.20）

北区の北側で検出した円形の土坑で、ピットに切られ、SK140を切っている。径88cm、深さ26cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器坏・甕の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

SK140（Fig.20）

北区の北側で検出した円形の土坑で、SK139に切られている。径126cm、深さ28cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器坏・椀、須恵器坏・甕、瓦器椀の細片が少量出土しているが、図示できたのは2点（土師器椀：116、瓦器椀：117）のみである。

SK141（Fig.20）

北区の北側で検出した円形の土坑である。径94cm、深さ28cmを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器坏・椀、須恵器甕の細片が少量出土しているが、図示できたのは4点（土師器坏：112～114、土師器椀：115）のみである。

SK142（Fig.21）

北区の南東部で検出した方形の平面形を呈する土坑である。長辺は261cm、短辺は237cm、深さは59cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な底面から垂直に近い角度で上がる。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。付属遺構として、西壁に掘り残された階段状の段部を確

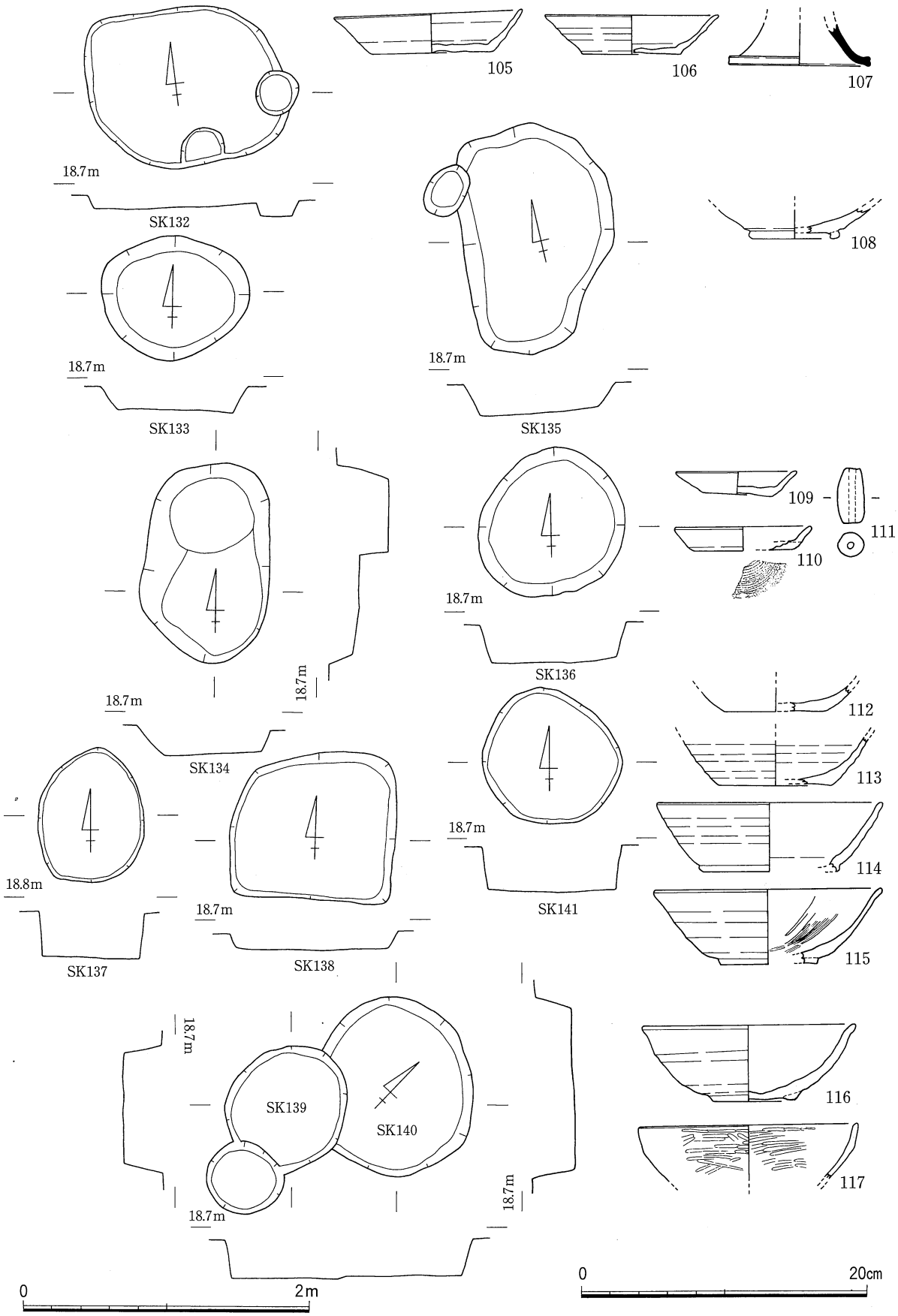


Fig.20　SK132～141平面、エレベーション、出土遺物実測図

認した。段部の高さは底面から42cmである。床面中央部からは、この土坑を廃棄する際に意図的に投げ込まれたと思われる円礫が集中して出土した。

遺物は埋土の中～下層より土師器・須恵器等が出土した。そのうち図示できたのは13点（土師器皿：118・119、土師器坏：120～122、土師器椀：124・125土師器壺：126、須恵器皿：127、須恵器坏128・129、砥石：130）である。そのうち床面よりの出土は（126・128）である。

SK143（Fig.21）

北区の中央部で検出した方形の平面形を呈する土坑である。長辺は303cm、短辺は273cm、深さは27cmを測る。断面形は逆台形を呈し、壁は平坦な底面からやや斜めに立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。付属遺構として7個のピットが検出されたが、主柱穴と考えられるのはP1～P4である。主柱穴は不整形な円形で、径48cm前後、土坑の床面よりの深さは25～39cmである。

遺物は土師器・須恵器が出土した。そのうち図示できたのは7点(土師器皿：131、土師器坏：132・133、土師器甕：137、須恵器坏134・135、須恵器椀：136）である。

SK144（Fig.21）

北区の中央部で検出した不整形な土坑である。SK143・147に切られており、その規模を明らかにすることはできなかった。検出面からの深さは27cmを測る。埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。

遺物は弥生土器・土師器・須恵器が少量出土しているが、図示できたのは1点（弥生土器甕：138）のみである。この（138）は混入品と思われる。

SK145（Fig.22）

北区の東側で検出した不整形な円形の土坑で、ST32を切っている。東側は調査区外であり、規模を明らかにすることはできなかった。断面形は舟底形で、深さは54cmを測る。埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

出土遺物は皆無であった。

SK146（Fig.22）

北区の中央部で検出した方形の土坑で、ST36を切っている。長辺は3.2m、短辺は2.9m、深さは36cm前後を測る。断面形は舟底形で、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。付属遺構は、四隅に4個のピットを検出した。いずれも不整形な円形のプランを呈し、径24cm、深さ23cm前後を測る。

遺物は多くの土師器・須恵器が上～中層から出土している。そのうち図示できたのは33点（土師器小皿：139～141、土師器皿：142～149、土師器坏：150～159、土師器甕：160、土師器高坏：161・162、須恵器坏：163～167、須恵器甕168、土錘：169～171）である。（139～141）は混入品と思われる。床面よりの出土は（150、161、168）の3点である。

SK147（Fig.21・23）

北区の中央部で検出した方形の土坑で、ST36・SK144を切っている。一辺は192cm、深さは37cmを測る。断面形は逆台形で、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。付属遺構は南

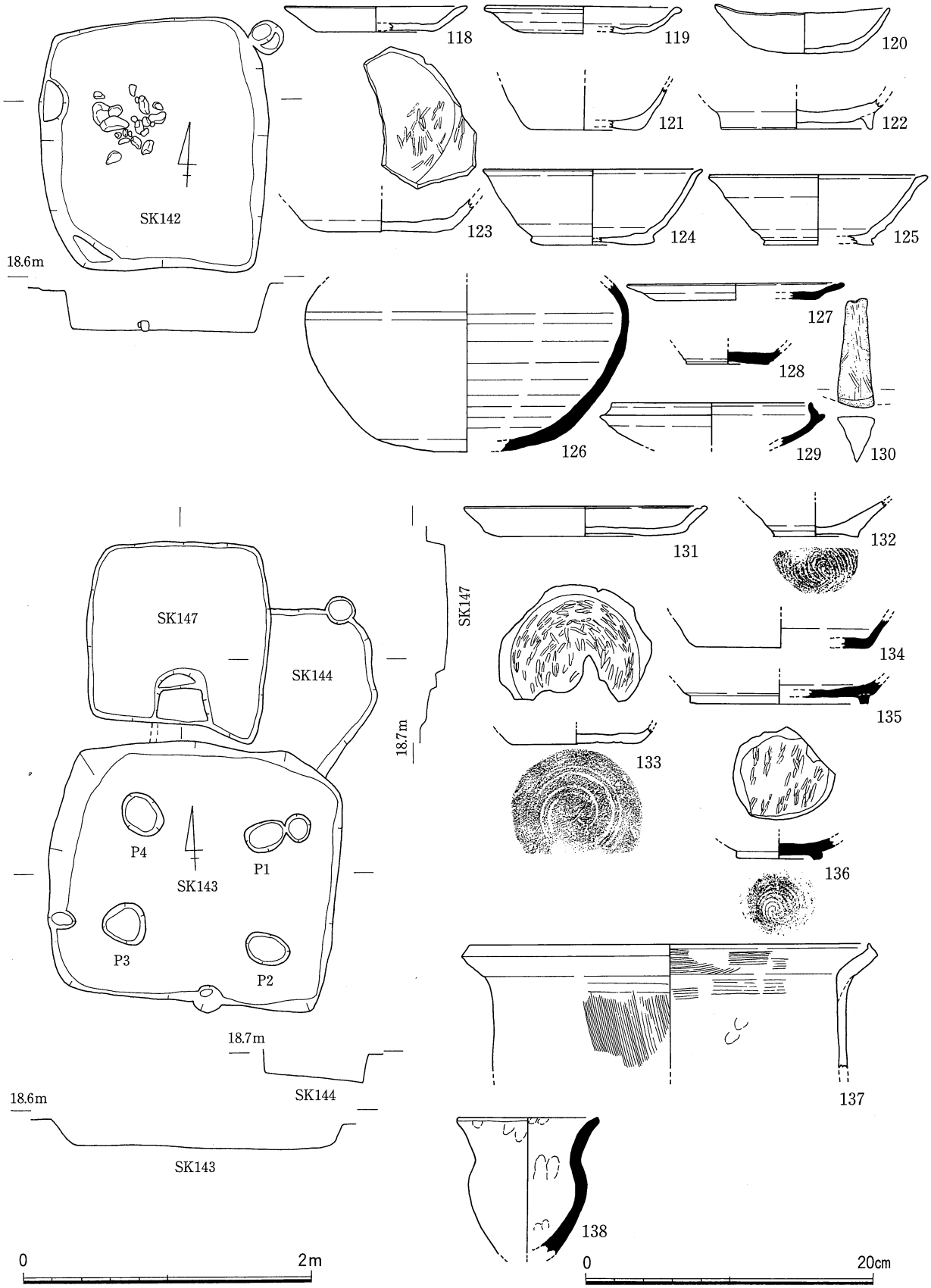


Fig.21　SK142～144・147平面、エレベーション、出土遺物実測図

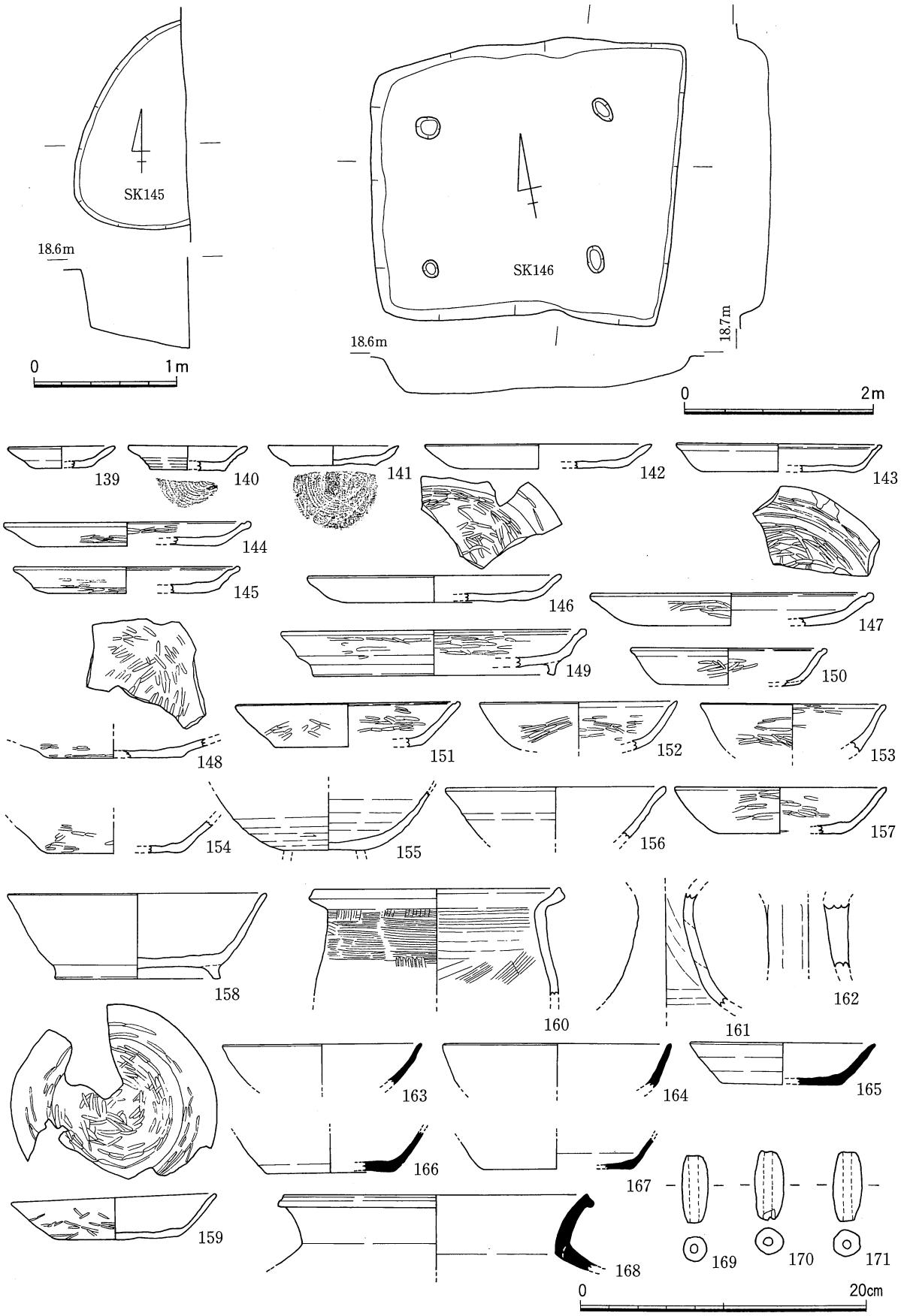


Fig.22　SK145・146平面、エレベーション、出土遺物実測図

壁に階段状の段部を検出した。段部は２段で、底面からの高さは下段面が26cm、上段面が39cmである。

遺物は土師器・須恵器などが出土しており、そのうち図示できたのは９点（土師器坏：172・173、土師器甕：174、土師器坏：175、須恵器高坏：176、須恵器甕：177、弥生壺:：178、土錘：179、砥石：180）である。

③　溝

SD65（Fig.23）

南区の西側トレンチで検出したが、平面形はその東端がわずかに検出されたにとどまった。検出面での236cm、深さは84cm以上を測る。埋土は大部分が黒褐色粘質土（7.5YR2/1）で、中層の一部に黒褐色粘質土（7.5YR3/1）に明赤褐色粘質土（5YR5/6）が混じる層が含まれている。

出土遺物は皆無であった。

SD66（Fig.23）

北区の西側で検出した東西方向（N－87°－E）の溝で、全長264cm、幅46cm、深さ10cmを測る。断面形は逆台形で、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器坏の細片が少量出土しているが、図示できるものはなかった。

SD67（Fig.23）

北区の中央部で検出した東西方向（N－92°－E）の溝で、確認できた全長は136cm、幅22cm、深さ20cmを測る。断面形は逆台形で、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器・須恵器の細片が少量出土しているが、図示できたのは須恵器坏（181）のみである。

SD69（Fig.23）

北区の中央部で検出した東西方向（N－85°－E）の溝で、ST33・34を切っている。確認できた全長は16.8m、幅28cm、深さ10cmを測る。断面形は逆台形で、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）の単純一層である。

遺物は土師器・須恵器・瓦器の細片が少量出土しているが、図示できたのは瓦器椀（182）のみである。

SD70（Fig.23）

北区の東側で検出した東西方向（N－108°－W）の溝で、確認できた全長は248cm、幅38cm、深さ８cmを測る。断面形は逆台形で、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）の単純一層である。

出土遺物は皆無であった。

④　ピット

今次の調査では多くのピットが検出したが、大半は掘立柱建物を復元するに至らなかった。その数は446個を数える。分布は北区では調査区の北側3/4、南区では調査区の南側1/4の範囲で平均して広がっている。

遺物は土師器・須恵器の細片が多く、また摩耗が激しかったため、図示できたのは僅かであった。

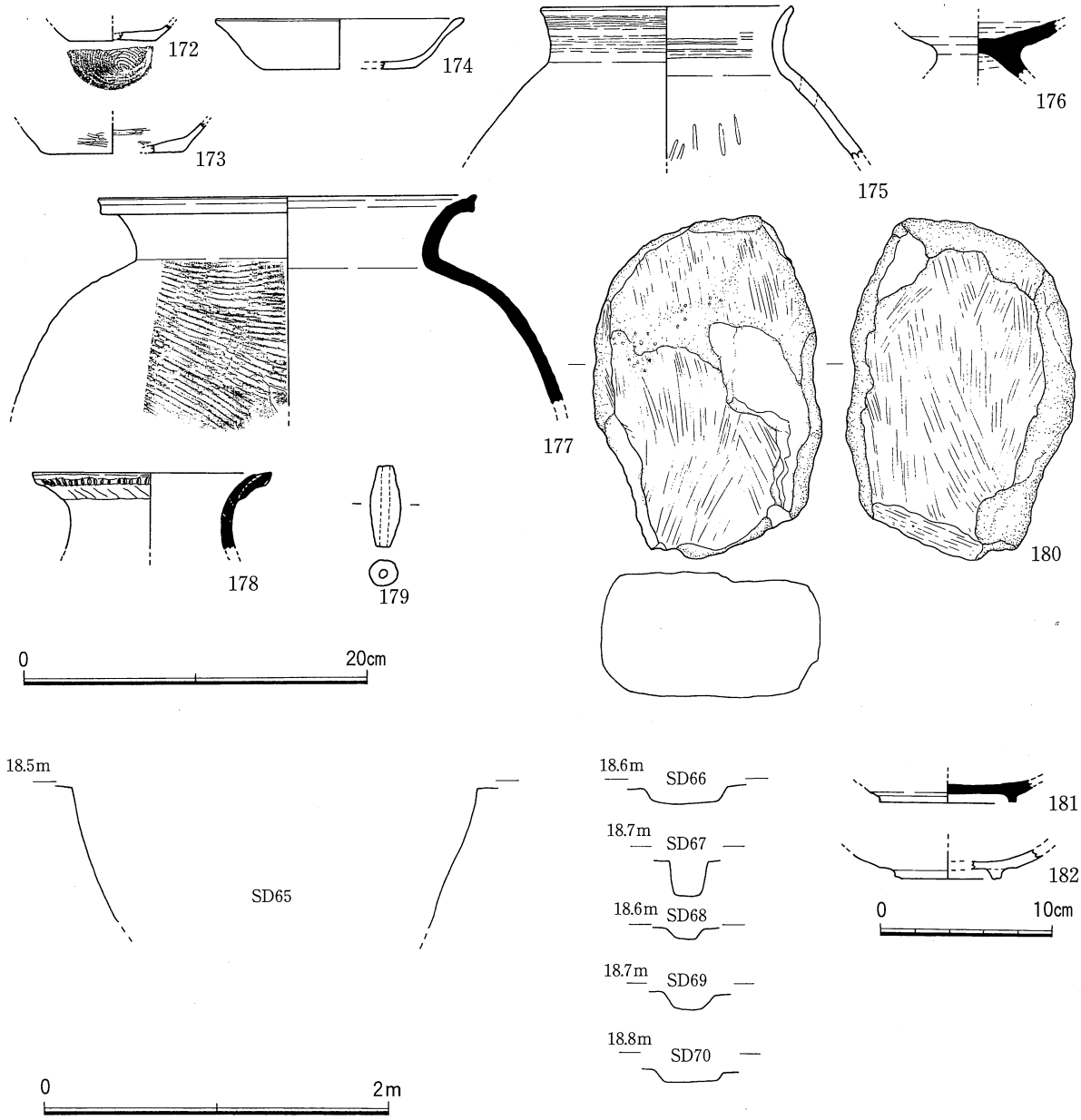


Fig.23　SK147出土遺物実測図・SD67～70エレベーション、出土遺物実測図

P6（Fig. 6 ・24）

南区の南側中央部、SB76の東側で検出した円形のピットで、径82cm、深さ20cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（212）の１点のみである。

P13（Fig. 6 ・24）

南区の南側、SB77の北東で検出した不整形な円形のピットで、径60cm、深さ11cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（190）の１点のみである。

P17（Fig. 6 ・24）

南区の南側、SB77の東で検出した不整形な円形のピットで、径84cm、深さ16cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（214）の１点のみである。

P19（Fig. 6 ・24）

南区の南側、SB77の東で検出した円形のピットで、径44cm、深さ28cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（202・208）の２点のみである。

P23（Fig. 6 ・24）

南区の南側、SB77の東で検出した隅丸方形のピットで、一辺58cm、深さ22cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは須恵器坏（219）の１点のみである。

P25（Fig. 6 ・24）

南区の南東部、SK126の東で検出した楕円形のピットで、長軸70cm、短軸44cm、深さ20cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器皿（193）の１点のみである。

P33（Fig. 6 ・24）

北区の南部で検出した円形のピットで、径56cm、深さ11cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器皿（192）、土師器坏（213）の２点のみである。

P42（Fig. 6 ・24）

北区の南部、SB78の東側で検出した不整形な楕円形のピットで、長軸110cm、短軸68cm、深さ10cm、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（215）の１点のみである。

P47（Fig. 6 ・24）

北区の南部、SB79の南側で検出した円形のピットで、径56cm、深さ10cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは鉄釘（225）の１点のみである。

P54（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SB80の南側で検出した円形のピットで、径24cm、深さ15cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（209）の１点のみである。

P66（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SB79の東側で検出した円形のピットで、径52cm、深さ22cm、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（207）の１点のみである。

P73（Fig. 6 ・24）

北区の東部、ST31の南側で検出した円形のピットで、東半分は調査区外である。径64cm、深さ29cm、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（206）の１点のみである。

P76（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SK143の南側で検出した方形のピットで、一辺は54cm、深さ24cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（200）の１点のみである。

P79（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SB80の東側で検出した円形のピットで、径34cm、深さ21cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（186）の１点のみである。

P86（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SB80の北側で検出した円形のピットで、径36cm、深さ23cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（180）の１点のみである。

P96（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SK146の南側で検出した円形のピットで、径42cm、深さ18cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（204）の１点のみである。

P100（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SB79の北側で検出した円形のピットで、径42cm、深さ28cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（189）、土師器坏（210）の２点のみである。

P113（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK128の東側で検出した円形のピットで、径40cm、深さ23cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは瓦器椀（220）の１点のみである。

P115（Fig. 6 ・24）

北区の西部、ST37の東側で検出した円形のピットで、径34cm、深さ20cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土錘（221）の１点のみである。

P116（Fig. 6 ・24）

北区の西部、ST37の東側で検出した円形のピットで、径39cm、深さ10cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器椀（215）の１点のみである。

P128（Fig. 6 ・24）

北区の西部、ST34の西側で検出した円形のピットで、径49cm、深さ28cm、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器皿（194・195）の２点のみである。

P133（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK131の西側で検出した円形のピットで、径54cm、深さ24cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（185）、土師器坏（199・205）の３点のみである。

P147（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK131の西側で検出した円形のピットで、径42cm、深さ18cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（197）の１点のみである。

P148（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK131の西側で検出した円形のピットで、径44cm、深さ25cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器甕（218）の１点のみである。

P151（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK131の西側で検出した円形のピットで、径60cm、深さ33cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは鉄製刀子（223）の１点のみである。

P152（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK131の西側で検出した楕円形のピットで、長軸106cm、短軸72cm、深さ11cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（203）の１点のみである。

P153（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK131の西側で検出した方形のピットで、長軸78cm、短軸66cm、深さ11cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（198）、土師器椀（216）の２点のみである。

P154（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK131の西側で検出した円形のピットで、径26cm、深さ21cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（188）の１点のみである。

P159（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SK140の東側で検出した円形のピットで、径40cm、深さ37cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは鉄製刀子（224）の１点のみである。

P162（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SK140の西側で検出した円形のピットで、径42cm、深さ40cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（191）の１点のみである。

P168（Fig. 6 ・24）

北区の西部、SK130の西側で検出した円形のピットで、径36cm、深さ17cm、埋土は黒褐色粘質土（7.5YR3/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（201）の１点のみである。

P173（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SK141の西側で検出した円形のピットで、径40cm、深さ40cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは緑釉陶器椀（222）の１点のみである。

P178（Fig. 6 ・24）

北区の東部、SB81の北側で検出した楕円形のピットで、長軸48cm、短軸26cm、深さ43cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（183・187）の２点のみである。

P182（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SB83の南側で検出した円形のピットで、径40cm、深さ35cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器坏（196）の１点のみである。

P198（Fig. 6 ・24）

北区の中央部、SB82の東側で検出した円形のピットで、径34cm、深さ40cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器椀（217）の１点のみである。

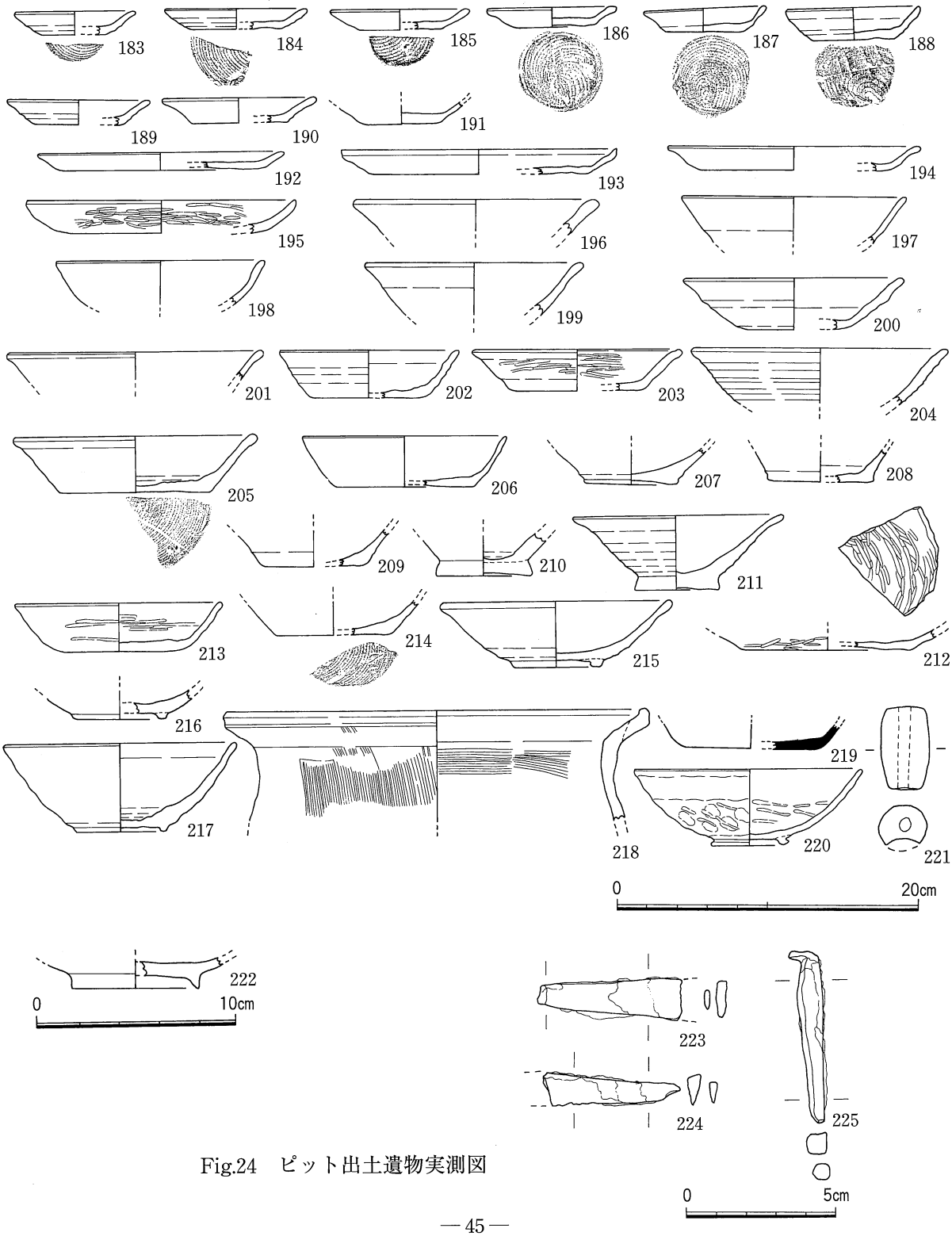


Fig.24　ピット出土遺物実測図

⑤　包含層出土遺物

各包含層より多量に出土している遺物から、抽出した一部を示す。

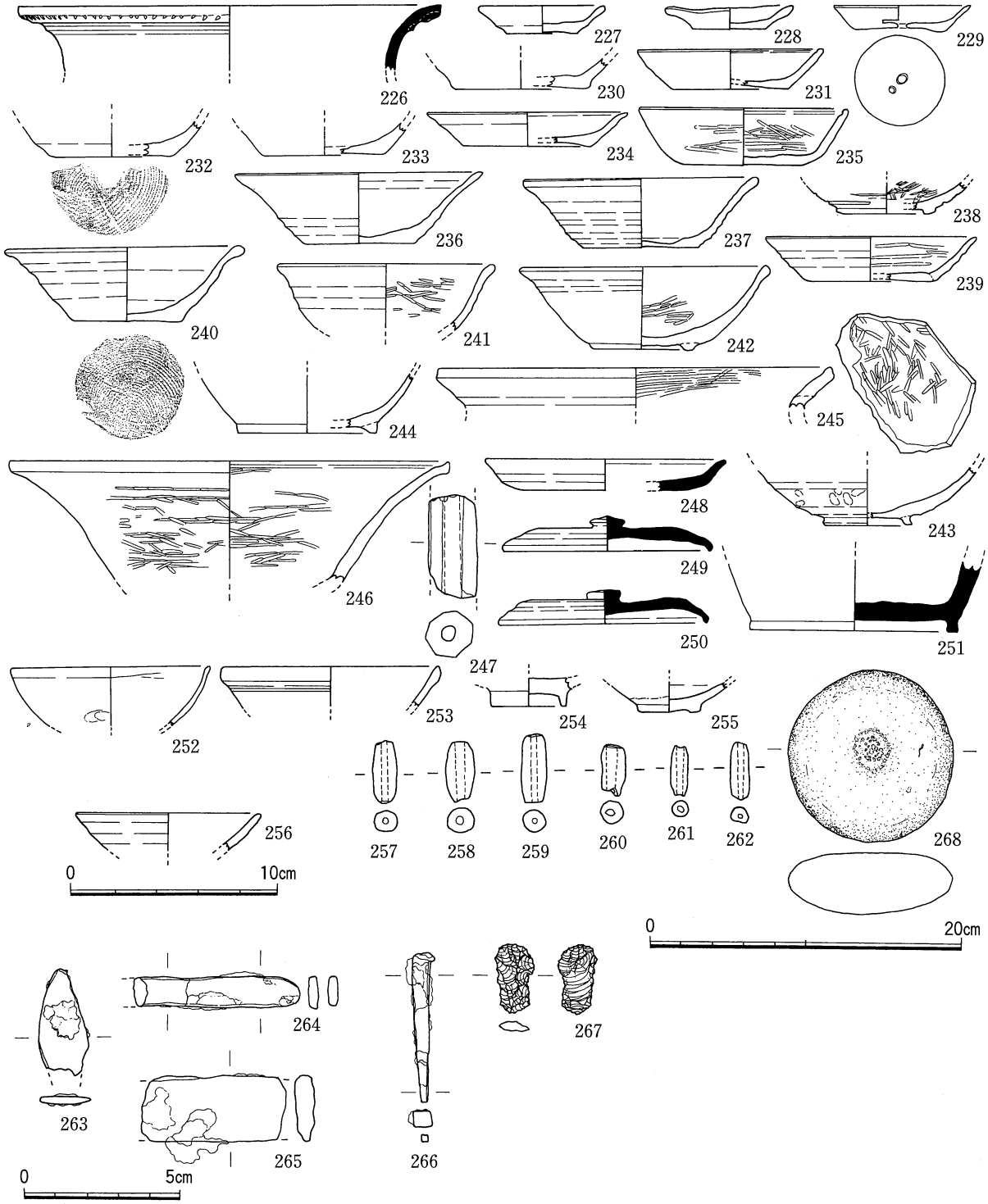


Fig.25　包含層出土遺物実測図

2．第27次調査（本屋敷地区）

（1）第27次調査の概要と基本層序

① 概　要（Fig.26）

第27次調査は平成12年10月４日～平成12年10月10日まで行った。調査地は南国市比江字本屋敷380・381番地の水田で、土佐国府跡推定域の北西部にあたる。調査面積は260㎡、標高は18.3m前後を測る。

遺構検出面は浅く、耕作土直下の褐灰色ないしは黒褐色粘質土を掘り込んで形成している。検出された遺構は古代の柱穴22個である。

② 基本層序（Fig.26）

調査区西壁（A～B）で観察した。

Ⅰ層：耕作土。層厚12cm前後を測る。

Ⅱ層：褐灰色粘質土（7.5YR5/1）。安定した堆積であり、古墳時代後期の遺物を包含する。層厚10cm前後を測る。

Ⅲ層：黒褐色粘質土（7.5YR3/1）に拳大～人頭大の礫を多く含む。安定した堆積であり、層厚25cm前後を測る。遺構検出面である。

Ⅳ層：灰褐色砂礫層（7.5YR4/2）。安定した堆積であり、層厚15cm以上を測る。

（2）古代の遺構と遺物

① ピット

今次調査での検出遺構は調査区北側で古代のピット22個を検出したにすぎない。調査区の南側はその大部分で撹乱を受けていたこともあり、遺構は検出できなかった。遺物は土師器の細片が多く、また摩耗が激しかったため、図示できたのは僅かであった。

P17（Fig.26）

調査区の北側中央部で検出した円形のピットで、径40cm、深さ27cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR 4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器甕（273）のみである。

P22（Fig.26）

調査区の北側中央部で検出した円形のピットで、径110cm、深さ22cm、埋土は灰褐色粘質土（5YR4/2）である。出土遺物のうち図示し得たのは土師器小皿（269）、土師器坏（270・271）である。

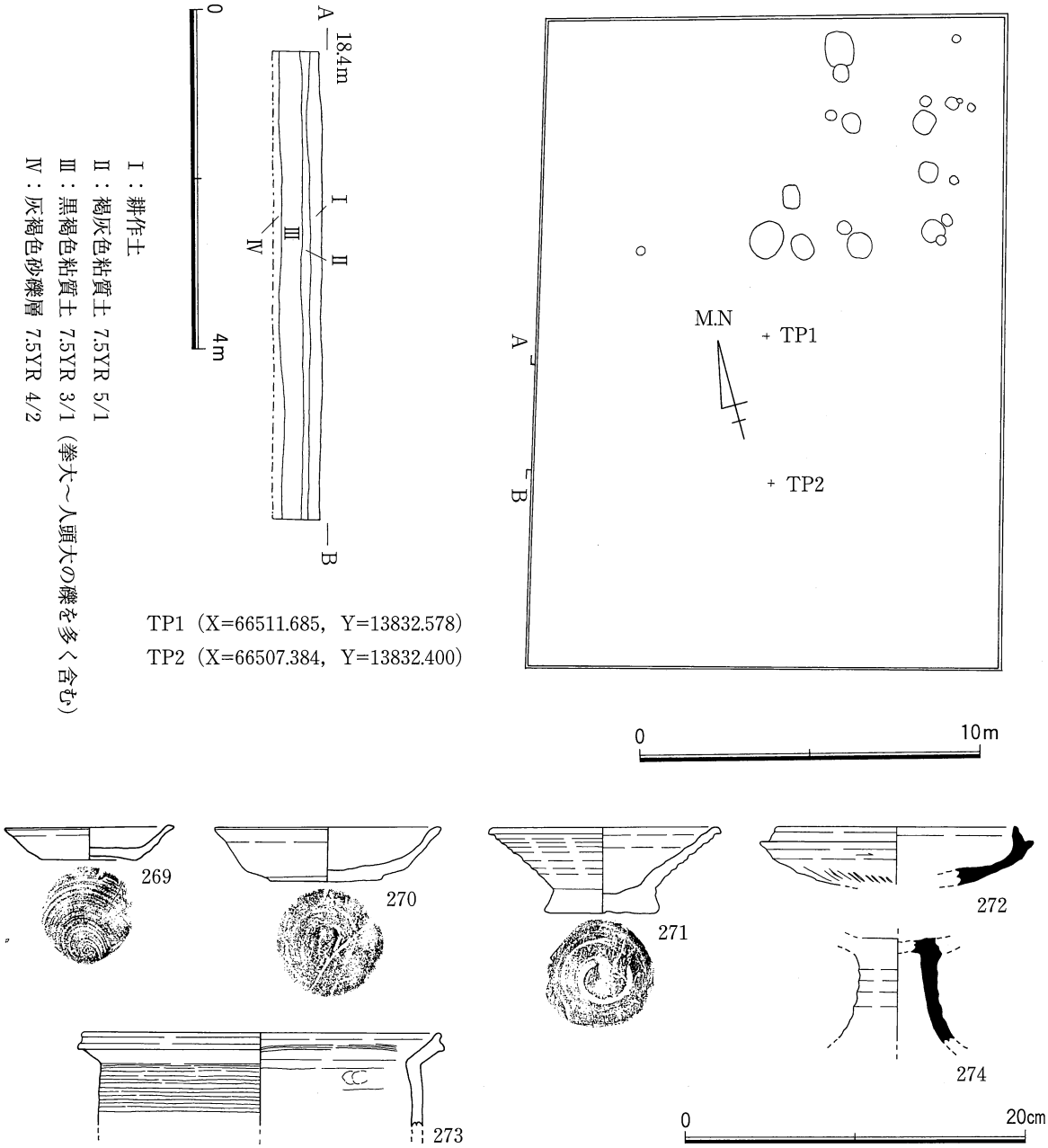


Fig.26　第27次調査区検出遺構平面、セクション、出土遺物実測図

第Ⅳ章　考　察

1．弥生時代

弥生時代の遺構はSK125・127である。両者とも隅丸長方形のプランを呈し、円礫と共に弥生中期後葉の土器片が数多く出土する等の共通点がみられる。SK125は実測可能であった８点全てが壺であり、SK127は壺８点、甕５点であった。これらの土器はⅣ－１様式の一括資料である。凹線文土器の盛行期であるこの時期は中部瀬戸内からの影響を色濃く受け、田村遺跡が最盛期を迎える時期である。その一方で、周辺の平野部での遺跡は少なく、伊野町バーガ森北斜面遺跡(1)や野市町本村遺跡(2)など平野周辺の独立丘陵上に築かれた高地性集落が知られているのみであった。土佐国衙跡の立地する長岡台地においては、この時期の遺構に伴う一括性の高い遺物の出土は初めてであり、今後の資料の追加が望まれる。

2．古墳時代

第26次調査で検出された７棟の竪穴住居（ST31～37）とST34に切られるSD68が古墳時代の遺構である。各遺構とも削平が激しく、遺物の出土量が少ないが、概ね６世紀末～７世紀初頭に位置付けられよう。

高知県では弥生時代終末～古墳時代初頭の集落の調査例は、香長平野を中心に数多く知られているが、古墳時代中期以降の例はごく少ない。後期になると土佐国衙跡以外では小籠遺跡(3)、田村遺跡群(4)、ひびのきサウジ遺跡(5)、深渕遺跡(6)、下ノ坪遺跡(7)、拝原遺跡(8)、などで竪穴住居が数棟出土しているのみである。そのような状況のなか、土佐国衙跡で検出された竪穴住居はこれまでの調査分を含めると37棟となり、現在確認されている中では本県最大級の古墳時代の集落が営まれていたこととなる。土佐国衙跡より西へ２～３㎞の山麓は高知県最大の後期古墳の密集地であり、県下最大の横穴式石室を有する小蓮古墳や最多数の古墳から成る舟岩古墳群が所在している。古墳時代の土佐国衙跡はこれらの古墳の被葬者の支配基盤であった集落として位置付けることができるであろう。

3．古代

（1）時期区分

第26次調査で確認された古代の遺構は掘立柱建物８棟、土坑21基、溝５条、ピット多数である。これらの遺構は出土遺物や棟方向等から大きく３期に区分される。遺物の編年は池澤俊幸氏の成果(9)に基づく。

まずⅠ期は、池澤氏の編年でⅠ－６～７期に相当する時期で、８世紀末～９世紀前葉にあたる。この時期に属するのはSB78・81・82、SK128・143・146・147である。土師器坏・皿は、全て回転台成形によるもので占められる。ミガキは残るが、法量の低下や器壁の薄手化、土師器口縁部形態の退化などがみられる時期である。

Ⅱ期は池澤氏の編年でⅡ－２期に相当する時期で、９世紀末から10世紀初頭にあたる。この時期に属するのはSK126・131・132・142である。土師器坏・皿のミガキや口縁部の屈曲あるいは凹線状の処理はほぼ廃される。立ち上がり外面が段状あるいはやや円盤状に突出する底部や、若干外反

あるいは直行して丸くおさめる口縁部を特徴とする「D相」と呼ばれる坏が定着している。土師器甕では、外面にタタキ痕があり胴部が球形化した小ぶりの甕が出土している。特にSK131では、この時期の基準資料となった小籠遺跡のSK130・136(10)と酷似したものが出土している。土佐国衙跡の南西3kmに位置する同遺跡とは同じ工人の手による土器が流通していた可能性が推定される。

Ⅲ期は池澤氏の編年でⅢ－2～3期に相当する時期で、11世紀後葉から12世紀前葉にあたる。この時期に属するのはSB76・77・79・80、SK130・135・136・140・141である。池澤編年のⅢ－1期で新出する椀型態が引き続き出土し、平安時代をとおして縮小傾向をたどるⅢの口径は、Ⅲ－2期で9.3cm、Ⅲ－3期で8.0cmとなる。

（2）遺構

第26次調査で確認された古代の遺構のうち、特徴的なものとしてまずSB81があげられる。桁行5間（10.32m）梁間2間（4.48m）、面積46.23㎡とこれまで土佐国衙跡で調査された例をみても最大規模のものである。また棟方向はN－8°－Eと真北に近く、規格性が意識されている。
また調査地は「内裏」地区の「宮ノ前」という小字に所在することや、調査地東南の隣接地が江戸中期以降「国司館跡」と推定されていることなどから、国司館を構成する建物の一つであった可能性が高い。中心的殿舎や周囲と区画する溝や塀など国司館跡と確定できる遺構が、今後この付近で検出されることを期待したい。

次にSK126・128・131・142・143・146・147といった一辺1.6～3.2mの方形の竪穴状土坑をあげることができる。これらの土坑のうち、残存状態の良いものは4隅にピットと一方の壁に階段状の段部を有している。同様の遺構は調査区より南東へ約1,800mの金屋地区の調査でのSX1～15(11)や小籠遺跡のSK130・136(12)があげられる。出土遺物は坏・Ⅲなどの供膳具とともに甕が比較的多く出土するという共通の特徴を有する。金屋地区の調査では、兵舎とそれに伴う室（貯蔵穴）という性格付けがなされたが、あるいは厨房跡という可能性も提示しておきたい(13)。

（3）遺物

古代を特徴付ける遺物として、2点出土した緑釉陶器の椀（222・256）をとりあげたい。(222)はP173からの出土であり、内外面に淡緑色の施釉を施し、削り出し高台を有する。近江産で平安土器編年のⅢ期古段階（930～960年頃）である。(256)は南区の包含層よりの出土で濃緑色紬を内外面に施す。東海産で平安土器編年のⅡ期新段階（900～930年頃）である(14)。

（4）まとめ

今次の調査によっても国庁など国衙中枢施設の検出には至らなかった。しかし、その推定地については一定の結論が出たと思う。即ち2つの候補地「北部の内裏地区付近」と「比江地区中央部」のうち、前者は「国司館跡」の可能性が強く、国庁は後者と言わざるを得ない。「比江地区中央部」はビニールハウスが建ち並び調査が困難な地であるが、是が非でも調査の実施が望まれる。

註

（1）伊藤　強『バーガ森北斜面遺跡』伊野町教育委員会　1999年

（2）坂本憲昭『野市町本村遺跡』野市町教育委員会　1993年

（3）出原恵三・泉幸代・浜田恵子・藤方正治『小籠遺跡Ⅱ』（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター　1996年

（4）『高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　田村遺跡群』第6分冊　高知県教育委員会　1986年

（5）高橋啓明『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会　1990年

（6）高橋啓明・出原恵三・吉原達生『深渕遺跡発掘調査報告書』野市町教育委員会　1989年

（7）出原恵三・池澤俊幸『下ノ坪遺跡Ⅰ』野市町教育委員会　1997年

（8）出原恵三『拝原遺跡』香我美町教育委員会　1993年

（9）池澤俊幸「土佐からみた平安時代の土器」『中近世土器の基礎研究XV』　2000年

(10)　（3）に同じ

(11) 廣田佳久『土佐国衙跡発掘調査報告書 第9集』高知県教育委員会　1989年

(12)　（3）に同じ

(13) 奈良国立文化財研究所　山中敏史氏のご教示による。

(14) (財) 京都市埋蔵文化財研究所　平尾政幸氏のご教示による。

遺物観察表 1

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
〃	1	SK125	弥生壺	16.6				チャート、石英の細・粗粒砂を含む。にぶい褐色。内・外面ナデ調整。頸部に厚い粘土帯を貼付し、指頭によってヒダ状の圧痕をつける。その直下よりヘラケズリとヘラ先による圧痕紋を施す。	
8	2	〃	弥生壺	16.4	(6.2)			チャート、石英の粗粒砂・小礫をわずかに含む。にぶい橙色。外面にハケ調整がわずかに残る。	
〃	3	〃	弥生壺	16.4	(8.3)			チャートの細粒砂を少量含む。明褐灰色。内・外面ナデ調整。頸部に厚い粘土帯を貼付し、指頭によってヒダ状の圧痕をつける。	
〃	4,5	〃	弥生壺	18.5			11.0	チャートの細・粗粒砂を含む。灰褐色。内・外面丁寧なヘラミガキ。内面指頭圧痕顕著。口縁部外面に格子状の凹線を施し、浮紋を貼付する。	
〃	6	〃	弥生壺	23.6	59.3	43.2	16.6	チャートの細・粗粒砂を含む。灰褐色。外面ヘラミガキ。内面ハケ。口縁端部に4条の凹線紋を施す。頸部に厚い粘土帯を貼付し、指頭によってヒダ状の圧痕をつける。	
〃	7	〃	弥生壺		(24.0)	18.6	7.6	精選された胎土。にぶい褐色。外面丁寧なヘラミガキ。内面指頭圧痕顕著。平底。外底部に植物繊維の圧痕あり。	
〃	8	〃	弥生壺		(10.4)		7.6	チャート、石英の細・粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。外面ヘラミガキ、ハケ。	
9	9	SK127	弥生壺	10.8	(4.2)			チャート、石英の粗粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面ハケ調整。	
〃	10	〃	弥生壺	12.8	(9.7)			チャートの細・粗粒砂を含む。にぶい橙色。口縁部外面に粘土帯を貼付する。外面はヘラケズリ、ヘラミガキ。内面は指頭圧痕顕著。	
〃	11	〃	弥生壺	15.8	(13.5)			精選された胎土。にぶい橙色。口縁部に6条の凹線を施す。頸上部外面ハケ、頸下部外面にヘラ圧痕紋を施す。内面はハケ調整。	
〃	12	〃	弥生壺	15.0	(9.5)			チャートの粗粒砂を少量含む。橙色。内面指頭圧痕顕著。	
〃	13	〃	弥生壺		(10.4)		7.6	精選された胎土。灰褐色。外面丁寧なヘラミガキを施す。平底。	
〃	14	〃	弥生壺		(5.0)		6.8	チャートの細・粗粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	15	〃	弥生壺		(4.1)		7.8	チャートの細粒砂をわずかに含む。にぶい褐色。外面ミガキ。	
〃	16	〃	弥生壺	14.8	42.2	25.7	6.7	チャートの細・粗粒砂を含む。にぶい褐色。外面ヘラミガキ。内面指ナデ、指頭圧痕顕著。口縁部に刻目を施す。胴部外面に黒斑あり。	
〃	17	〃	弥生甕	18.6	(20.0)			精選された胎土。にぶい褐色。外面ハケ、ヘラミガキ。内面指頭圧痕顕著。	搬入品？
〃	18	〃	弥生甕	19.1	28.4	19.7	6.6	チャートの粗粒砂を多く含む。明褐灰色。口縁部に突帯貼付。頸部に8条の沈線を施し、浮紋を貼付する。外面煤ける。	
〃	19	〃	弥生甕	16.6	(10.3)			チャートの細粒砂を少量含む。灰褐色。口縁部に刻目を施し、その下部に櫛描沈線を施す。頸部は微隆起帯と円形浮紋を貼付して区画し、櫛描沈線を巡らす。	
〃	20	〃	弥生甕		(3.6)		5.3	チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。内・外面の器表の荒れが激しい。内面に指頭圧痕あり。外底部被熱赤変し、煤ける。	
〃	21	〃	弥生甕		(4.4)		4.5	チャート、石英、長石、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。内・外面に指頭圧痕あり。	
〃	22	〃	鉄製品紡錘車	全長4.7	全幅5.2	全厚0.4	重量18g		
〃	23	〃	鉄製品紡錘車軸	全長11.7	全幅0.4	全厚0.4	重量5g		
10	24	ST31	土師器甕	16.4	(6.6)			チャートの粗粒砂・小礫を含む。外面粗いハケ。口唇部丸くおさめる。	
〃	25	〃	土師器甑		(5.8)			チャート、石英、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。把部外面に指頭圧痕あり。	
〃	26	〃	須恵器坏	13.5	3.2		9.1	精選された胎土。灰黄色。内・外面丁寧な横ナデ。外底部ヘラ起こしをナデ消す。	

遺物観察表 2

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
10	27	ST31	須恵器高坏	11.9	6.4		7.2	チャート、石英の細粒砂を含む。口縁部は上方へ屈曲し、端部は丸くおさめる。脚部は短く、裾端部は上方へ反り上がる。回転台右回り。	
〃	28	〃	土師器坏	13.8	(2.4)			精選された胎土。明黄褐色。内・外面横ナデ。	
〃	29	〃	土師器坏		(2.5)		7.8	精選された胎土。橙色。内・外面横ナデ。外底部に並行圧痕あり。	
〃	30	〃	土師器坏		(2.6)		8.1	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	31	〃	土師器坏		(1.7)		10.0	精選された胎土。橙色。内面ヘラミガキ。外底部横ナデ。	
〃	32	〃	土師器甕	21.8	(4.5)			精選された堅緻な胎土。にぶい褐色。内・外面横ナデ。頸部に接合痕あり。	
〃	33	〃	須恵器蓋		(1.1)		9.4	精選された胎土。黄灰色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	34	〃	須恵器坏		(1.4)	11.5		精選された胎土。黄灰色。焼成軟らかい。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	35	〃	黒色土器椀		(0.9)		5.2	精選されたにぶい橙色の胎土。内・外面黒色。内底ミガキ。	
〃	36	〃	土錘	全長 3.6	全幅 1.4	孔径 0.6	重量 5g	精選された胎土。灰白色。	
11	37	ST32	土師器坏	14.0	(2.2)			精選された胎土。にぶい橙色。口縁部はわずかに外反し、端部を丸くおさめる。内・外面横ナデ。	
〃	38	〃	土師器坏	14.0	(2.2)			精選された胎土。橙色。内・外面横ナデ。	
〃	39	〃	土師器坏		(2.8)		6.4	精選された胎土。橙色。内・外面横ナデ。外底部に糸切り痕あり。	
〃	40	〃	土師器坏		(2.1)		高台径 6.9	精選された胎土。にぶい橙色。内面丁寧なミガキ。外面ケズリ＋ミガキ。貼付高台。	
〃	41	〃	土師器椀		(1.2)		8.1	精選された胎土。黄橙色。内面ケズリ＋丁寧なミガキ。外底部糸切り。高台部は剥離している。	
〃	42	〃	須恵器坏	15.0	(3.2)			精選された胎土。灰褐色口縁部は外反する。内・外面横ナデ。外面に火襷あり。	
12	43	ST34	土師器皿	13.6	1.7		11.2	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ。内面ヘラミガキ。	
〃	44	〃	須恵器坏	12.2	3.9			チャートの細粒砂を含む。灰白色。焼成は軟らかい。	
13	45	ST36	須恵器提瓶		(19.0)	18.3		チャートの細粒砂を含む。灰色。肩部外面に自然釉がかかる。内・外面横ナデ。肩部に2個体の鈎状の吊手が認められる。	
〃	46	〃	須恵器蓋	13.7	3.8			チャートの粗粒砂を含む。灰色。回転台右回り。	
〃	47	〃	須恵器蓋	13.8	3.9			チャートの細・粗粒砂を含む。灰色。回転台右回り。	
〃	48	〃	須恵器蓋	12.7	3.9			チャート、石英の粗粒砂を含む。灰色。回転台右回り。	
〃	49	〃	須恵器蓋	13.2	3.6			精選された胎土。灰色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	50	〃	須恵器坏	11.7	3.9		5.2	チャート、石英の粗粒砂・小礫を含む。灰色。回転台左回り。外底部にヘラ描き沈線あり。48と一対。	
〃	51	〃	土師器甑					チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい橙色。指頭圧痕が顕著。	

遺物観察表 3

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
13	52	ST36	土師器 皿	11.0	1.6		8.0	チャートの細粒砂をわずかに含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。底部糸切り。	
〃	53	ST37	須恵器 蓋	13.8	4.1			チャート、石英の粗粒砂・小礫を含む。灰色。回転台右回り。	
〃	54	〃	須恵器 坏	12.0	3.8		8.4	チャートの細粒砂を含む。灰白色。焼成はやや軟らかい。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	55	〃	土師器 甑	19.6				チャート、石英の細・粗粒砂を多く含む。橙色。内・外面に指頭圧痕あり。粘土紐による接合痕顕著。	
14	56	SB77 P5	土師器 小皿	9.4	1.6		6.0	チャート、雲母の細粒砂を少量含む。にぶい橙色。外面横ナデ調整。	
〃	57	SB78 P1	須恵器 坏	12.6	(2.0)			精選された胎土。灰黄色。内・外面横ナデ調整。	
〃	58	SB78 P3	須恵器 坏	13.9	3.0		9.2	チャートの細・粗粒砂を含む。灰色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
15	59	SB80 P9	土師器 小皿	8.7	1.6		5.4	精選された胎土。明褐灰色。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	60	SB80 P12	土師器 坏	15.0	(3.4)			チャート、石英、雲母の細粒砂を少量含む。浅黄橙色。内・外面横ナデ調整。口縁部外反する。	
〃	61	SB80 P12	土師器 坏	13.1	4.7		6.8	チャートの細粒砂を少量含む。明褐灰色。内・外面横ナデ調整。外面煤ける。外底部に糸切り痕あり。	
〃	62	SB80 P12	土師器 坏		(3.0)		8.0	チャートの細粒砂を少量含む。灰白色。内・外面横ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	63	SB80 P7	須恵器 坏	14.4	(3.0)			精選された胎土。黄灰色。内・外面横ナデ調整。	
17	64	SB82 P8	土師器 坏	14.2	3.1		9.2	精選された胎土。橙色。内面ヘラミガキ。外面横ナデ調整。	
18	65	SK128	土師器 皿	17.0	1.5		14.8	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面ヘラミガキ。	
〃	66	〃	土師器 皿	21.6	2.8		16.0	精選された胎土。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	67	〃	土師器 坏	19.0	(2.6)			チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	68	〃	土師器 坏	15.6	(3.6)			精選された胎土。浅黄橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	69	〃	土師器 椀	15.2	(3.1)			チャート、雲母の細粒砂を少量含む。橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	70	〃	須恵器 坏		(1.7)		7.4	精選された胎土。灰白色。外底部丁寧なナデ。焼成軟らかい。	
〃	71	〃	須恵器 甕	22.0	(7.8)			チャートの細粒砂をわずかに含む。褐灰色。外面ヘラ削り、叩き。焼成やや軟らかい。	
〃	72	〃	須恵器 甕		(30.2)			精選された胎土。褐灰色。焼成は良。外面全体に叩き。	
〃	73	〃	弥生 甕	15.0	(8.7)			チャートの細・粗粒砂を含む。にぶい橙色。口縁部に粘土帯を貼付し、刻目を施す。頸部に一条の突帯を巡らす。外面煤けて被熱赤変する。	
〃	74	〃	弥生 甕		(4.2)		4.3	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。内・外面の調整不明。	
〃	75	SK129	須恵器 坏	12.6	3.2		6.7	チャートの粗粒砂を少量含む。灰色。内・外面横ナデ。	
〃	76	SK130	土師器 小皿	8.9	1.6		6.3	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。口縁部大きく外反する。外底部に糸切り痕あり。	

遺物観察表 4

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
18	77	SK130	土師器 椀	15.9	4.4		8.0	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。口縁部外反する。外底部に糸切り痕あり。	
19	78	SK131	土師器 皿	12.3	1.3		8.7	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	79	〃	土師器 皿	17.9	1.2		13.0	精選された胎土。橙色。内・外面強い横ナデ調整。内面砂粒が動く。口縁部外反する。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	80	〃	土師器 皿	20.2	1.4		17.0	チャートの細粒砂をわずかに含む。にぶい褐色。内・外面横ナデ調整。口縁端部が屈曲し、内面が凹む。内・外面煤ける。	
〃	81	〃	土師器 坏	13.6	2.5		9.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面ロクロ目顕著。口縁部外反する。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	82	〃	土師器 坏	11.8	2.7		8.0	精選された胎土。橙色。内・外面横ナデ調整。口縁部外反する。	
〃	83	〃	土師器 坏	13.5	2.9		9.0	精選された胎土。内・外面横ナデ。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	84	〃	土師器 坏	13.2	2.7		7.8	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ。口縁部外反する。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	85	〃	土師器 小皿	13.4	3.9		7.1	精選された胎土。にぶい褐色。内・外面横ナデ調整。外底部ヘラ起こし痕あり。	
〃	86	〃	土師器 坏	14.3	3.9		8.0	精選された胎土。にぶい橙色。内面ヘラミガキ、外面横ナデ。	
〃	87	〃	土師器 坏	15.8	(5.0)			チャートの細・粗粒砂を少量含む。橙色。外面ロクロ目顕著。	
〃	88	〃	土師器 坏	14.6	4.5		8.4	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	89	〃	土師器 坏		(1.9)		7.9	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外面煤ける。体部接合部で剥離する。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	90	〃	土師器 坏	14.9	4.9		8.9	精選された胎土。外面丁寧な横ナデ。内面ミガキ＋ナデ。口縁部わずかに外方へ肥厚する。外面煤ける。	
〃	91	〃	土師器 坏	14.2	4.8		7.5	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ。口縁部わずかに外反する。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	92	〃	土師器 坏	14.9	5.3		8.2	精選された胎土。明褐灰色。内・外面横ナデ。断面形は底部より椀状に立ち上がる。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	93	〃	土師器 坏	14.2	4.5		7.0	精選された胎土。灰白色。内・外面横ナデ調整。口縁部外反する。外底部糸切り痕あり。	
〃	94	〃	土師器 坏	15.4	5.2		8.1	精選された胎土。橙色。内・外面横ナデ。外底部ヘラ起こし痕あり。	
〃	95	〃	土師器 甕	11.6	(4.1)			チャート、石英の粗粒砂を含む。にぶい褐色。内・外面横ハケ。外面煤ける。	
〃	96	〃	土師器 甕	24.6	(8.2)			赤色風化礫、チャート、雲母、石英の細・粗粒砂を含む。褐灰色。口縁部はナデ調整。胴部内・外面ハケ調整。	
〃	97	〃	土師器 甕	28.6	(8.6)			赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面粗い横ハケ調整。	
〃	98	〃	土師器 甕	26.2	(8.7)			赤色風化礫・チャートの細・粗粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面粗い横ハケ調整。内・外面煤ける。	
〃	99	〃	土師器 甕	24.6	(9.4)			チャートの粗粒砂をわずかに含む。内・外面ナデ調整。内・外面煤ける。	
〃	100	〃	土師器 甕	25.0	(19.1)			チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。にぶい褐色。口縁部内・外面強い横ナデ。胴部外面叩き。内・外面煤ける。	
〃	101	〃	土師器 甕	17.6	16.8	18.7		精選された胎土。にぶい橙色。外面の口縁部から中胴部にかけて粗いハケ。中胴部から底部にかけては叩き。内面は口縁部から中胴部にかけては粗い横ハケ。中～下胴部は粗い縦ハケ。指頭圧痕顕著。口縁端部は摘み出し。外面煤ける。	

遺物観察表 5

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
19	102	SK131	須恵器高坏		(5.3)			チャート、石英の細・粗粒砂を含む。灰白色。内・外面の調整不明。	
〃	103	〃	砥石	全長 10.9	全幅 3.7	全厚 5.9	重量 252g	砂岩製。使用痕1面。	
〃	104	〃	砥石	全長 16.9	全幅 4.2	全厚 4.3	重量 570g	砂岩製。使用痕2面。	
20	105	SK132	土師器坏	13.3	2.8		8.6	精選された胎土。橙色。内・外面横ナデ調整。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	106	〃	土師器坏	12.1	2.7		6.8	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。口縁部外反する。	
〃	107	〃	須恵器高坏		(3.0)		10.0	チャートの細・粗粒砂を含む。灰色。内・外面横ナデ調整。内面に自然釉がかかる。	
〃	108	SK135	土師器椀		(2.1)		6.3	チャートの細粒砂を少量含む。灰白色。内面丁寧なヘラミガキ。外面強い横ナデ、砂粒が動く（左→右）。	
〃	109	SK136	土師器小皿	8.5	1.6		5.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。2次的に被熱赤変する。	
〃	110	〃	土師器小皿	9.5	1.7		7.0	精選された胎土。浅黄橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	111	〃	土錘	全長 3.9	全幅 1.9	孔径 0.5	重量 12g	チャートの細粒砂を含む。褐色。	
〃	112	SK141	土師器坏		(1.8)		7.0	チャートの細・粗粒砂を含む。浅黄橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	113	〃	土師器坏		(3.3)		8.0	チャートの細・粗粒砂を含む。にぶい黄橙色。内・外面ロクロ目顕著。外底部に糸切り痕あり。	
〃	114	〃	土師器坏	15.9	4.9		9.9	チャートの細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	115	〃	土師器椀	15.6	5.3		6.8	精選された胎土。にぶい黄橙色。断面形は底部より内湾気味に立ち上がる。内面ミガキ、外面ロクロ目顕著。外底部に糸切り痕あり。	
〃	116	SK140	土師器坏	15.0	5.3		5.9	精選された胎土。明褐灰色。口縁部丁寧なナデによりわずかに外反する。内面一部ミガキ。	
〃	117	〃	瓦器椀	15.4	(3.8)			精選された褐灰色の胎土。内・外面はオリーブ黒色。内・外面ヘラミガキ。	和泉型
21	118	SK142	土師器皿	13.5	1.5		8.5	赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい褐色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	119	〃	土師器皿	13.4	1.9		9.7	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	120	〃	土師器坏	12.2	2.8		7.5	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。内・外面横ナデ調整。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	121	〃	土師器坏	15.2	4.9		7.6	精選された胎土。灰黄褐色。内・外面丁寧な横ナデ調整。口縁部外反する。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	122	〃	土師器坏		(2.1)		10.6	赤色風化礫の細粒砂を少量含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	123	〃	土師器坏		(2.4)		10.0	チャート、石英、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。外面横ナデ。内面ヘラミガキ。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	124	〃	土師器坏		(3.1)		8.0	チャートの細・粗粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	125	〃	土師器坏	15.0	5.3		8.6	精選された胎土。明赤褐色。内・外面横ナデ。口縁部は内傾する面をなす。	
〃	126	〃	須恵器壺			22.7	12.6	チャートの粗粒砂をわずかに含む。灰黄色。焼成は軟らかい。内・外面の器表の荒れが激しい。	

遺物観察表 6

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
21	127	SK142	須恵器 皿	15.2	1.1		11.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。明褐灰色。口縁部内面に2条のにぶい沈線を施す。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	128	〃	須恵器 坏		(1.1)		5.7	チャートの細粒砂を含む。灰オリーブ色。内・外面横ナデ調整。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	129	〃	須恵器 坏	13.6	(3.0)			精選された胎土。灰白色。内・外面丁寧な横ナデ調整。	
〃	130	〃	砥石	全長 7.6	全幅 2.6	全厚 3.2	重量 56g	砂岩製。使用痕1面。	
〃	131	SK143	土師器 皿	17.0	2.0		14.0	チャートの粗粒砂を少量含む。橙色。口縁部に凹線を巡らす。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	132	〃	土師器 坏		(2.5)		6.0	チャートの細粒砂を少量含む。橙色。内外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	133	〃	土師器 坏		(1.1)		9.0	チャートの粗粒砂を含む。橙色。内・外面ヘラミガキ。外底部ヘラ起こし、ナデ＋ミガキ。	
〃	134	〃	須恵器 坏		(2.0)		12.7	チャートの細粒砂を少量含む。褐灰色。内・外面横ナデ調整。	
〃	135	〃	須恵器 坏		(1.7)		12.5	チャート、石英の粗粒砂を含む。灰黄褐色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部丁寧なナデ。	
〃	136	〃	須恵器 椀		(1.5)		6.0	赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい橙色。内面ヘラミガキ。外底部に糸切り痕あり。	
〃	137	〃	土師器 甕	28.0	(8.8)			チャート、石英の粗粒砂を多く含む。にぶい赤褐色。口縁部内面横ナデ。胴部外面縦ハケ、内面横ハケ。内面に指頭圧痕あり。	
〃	138	SK144	弥生 甕	9.9	(9.5)			チャートの細粒砂をわずかに含む。灰褐色。内・外面の器表の荒れが激しいが、指頭圧痕は顕著。	
22	139	SK146	土師器 小皿	7.4	1.5		4.0	精選された胎土。灰白色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	140	〃	土師器 小皿	8.4	1.7		5.3	精選された胎土。灰白色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	141	〃	土師器 小皿	9.2	1.4		6.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。橙色。内・外面横ナデ調整。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	142	〃	土師器 皿	15.9	1.7		11.3	チャートの細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面ナデ調整。	
〃	143	〃	土師器 皿	14.4	2.0		10.8	チャートの粗粒砂・小礫を含む。橙色。口縁端部は外反する。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	144	〃	土師器 皿	17.2	1.7		12.6	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。橙色。内・外面ヘラミガキ。	
〃	145	〃	土師器 皿	15.6	1.9		13.2	精選された胎土。橙色。口縁端部が屈曲し、内面が凹む。外面ヘラミガキ。	
〃	146	〃	土師器 皿	17.6	1.9		14.6	精選された胎土。橙色。外面丁寧なナデ。内面ヘラミガキ。	
〃	147	〃	土師器 皿	19.8	2.3		14.6	精選された胎土。にぶい橙色。口縁端部が屈曲し、内面が凹む。内・外面ヘラミガキ。外面煤ける。	
〃	148	〃	土師器 皿		(1.3)		9.8	精選された胎土。橙色。内・外面ヘラミガキ。	
〃	149	〃	土師器 皿	21.2	3.1		17.0	精選された胎土。にぶい褐色。内・外面丁寧なヘラミガキ。	
〃	150	〃	土師器 坏	13.8	2.6		10.0	精選された胎土。にぶい橙色。口縁端部が屈曲し、内面に凹線を巡らす。内・外面ヘラミガキ。	
〃	151	〃	土師器 坏	15.6	3.1		10.5	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ＋ヘラミガキ。	

遺物観察表 7

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
22	152	SK146	土師器坏	13.8	(3.4)			精選された胎土。橙色。内・外面ヘラミガキ。	
〃	153	〃	土師器坏	15.0	(3.3)			精選された胎土。橙色。口縁端部外反する。内・外面ヘラミガキ。	
〃	154	〃	土師器坏		(2.3)		10.0	チャートの粗粒砂を含む。橙色。外面ヘラミガキ。	
〃	155	〃	土師器坏		(4.2)		5.6	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を少量含む。橙色。内面ヘラミガキ。外面体部下半削り（砂粒は右→左）。高台剥離面より糸切り痕を認める。	
〃	156	〃	土師器坏	15.4	(3.7)			チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。浅黄橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外面ロクロ目顕著。	
〃	157	〃	土師器坏	14.6	3.2		8.6	チャートの細粒砂を含む。橙色。内・外面ヘラミガキ。	
〃	158	〃	土師器坏	18.2	6.0		11.6	チャートの粗粒砂を少量含む。灰黄色。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は丸くおさめる。しっかりとした高台を有する。	
〃	159	〃	土師器坏	14.4	2.9		8.9	精選された胎土。橙色。内・外面丁寧なナデ、ヘラミガキ。	
〃	160	〃	土師器甕	17.2	(7.5)			チャートの粗粒砂、小礫を含む。橙色。口縁部内・外面強い横ナデ。上胴部外面木目の粗い縦ハケ＋横ハケ。外面煤ける。	
〃	161	〃	土師器高坏		(8.1)			チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を少量含む。橙色。内・外面丁寧な横ナデ調整。	
〃	162	〃	土師器高坏		(4.5)			チャートの細粒砂を含む。明赤褐色。外面弱い削り。面取り11面。	搬入品
〃	163	〃	須恵器坏	14.0	(2.9)			赤色風化礫の細粒砂を少量含む。褐灰色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	164	〃	須恵器坏	16.0	(3.1)			チャートの細粒砂を含む。灰色。内・外面横ナデ調整。	
〃	165	〃	須恵器坏	13.0	3.0		8.4	精選された胎土。灰オリーブ色。内・外面丁寧な横ナデ。外底部ヘラ切り＋ナデ。	
〃	166	〃	須恵器坏		(2.8)		9.0	チャートの細粒砂を少量含む。灰色。内・外面横ナデ調整。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	167	〃	須恵器坏		(2.2)		11.0	チャートの細粒砂を含む。灰色。内・外面横ナデ調整。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	168	〃	須恵器坏		(2.8)		9.0	チャートの細粒砂を含む。灰色。内・外面横ナデ。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	169	〃	土錘	全長 4.7	全幅 1.9	孔径 0.6	重量 14g	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい橙色。	
〃	170	〃	土錘	全長 4.9	全幅 2.0	孔径 0.6	重量 14g	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい橙色。	
〃	171	〃	土錘	全長 4.9	全幅 2.0	孔径 0.6	重量 16g	チャート、赤色風化礫、雲母の細粒砂を含む。明褐灰色。	
23	172	SK147	土師器坏		(0.9)		5.0	精選された胎土。明褐灰色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	173	〃	土師器坏		(1.8)		8.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。橙色。内・外面ヘラミガキ。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	174	〃	土師器坏	14.2	2.9		9.1	精選された胎土。にぶい黄橙色。内・外面横ナデ調整。外底部ヘラ起こし＋ナデ。焼成軟らかい。	
〃	175	〃	土師器甕	14.6	(8.8)			チャート、石英の細・粗粒砂を多く含む。にぶい赤褐色。頸部は緩やかに外反する。口縁部内・外面強い横ナデ調整。内面にヘラ状工具による圧痕を認める。	
〃	176	〃	須恵器高坏		(3.3)			精選された胎土。灰オリーブ色。内・外面横ナデ調整。	

遺物観察表 8

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
23	177	SK147	須恵器 甕	22.0	(12.2)			精選された胎土。明褐灰色。外面叩き、内面横ナデ。口縁端部摘み出し。	
〃	178	〃	弥生 壺	14.0	(4.5)			チャート、石英の細・粗粒砂を多く含む。橙色。口縁部に刻目を施し、その直下に指頭によるヒダ状の圧痕をつける。	
〃	179	〃	土錘	全長 4.8	全幅 1.8	孔径 0.4	重量 9g	チャートの細粒砂を含む。にぶい橙色。	
〃	180	〃	砥石	全長 20.0	全幅 13.4	全厚 7.1		使用痕3面。砂岩製。	
〃	181	SD67	須恵器 坏		(1.2)		8.0	チャートの粗粒砂を少量含む。にぶい赤褐色。外面丁寧なナデ。外底部にヘラ描き沈線あり。	
〃	182	SD69	瓦器 椀		(1.5)		6.2	チャートの粗粒砂を少量含む。灰色。内面ヘラミガキ。しっかりした高台を有する。	
24	183	P178	土師器 小皿	8.0	1.6		4.2	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	184	P86	土師器 小皿	9.4	1.3		6.0	チャートの細粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	185	P133	土師器 小皿	8.8	1.3		5.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。内・外面横ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	186	P79	土師器 小皿	8.5	1.3		5.5	チャートの粗粒砂をわずかに含む。灰白色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	187	P178	土師器 小皿	8.1	1.5		5.3	チャートの細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	188	P154	土師器 小皿	8.7	2.2		5.5	精選された胎土。明褐灰色。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	189	P100	土師器 小皿	9.5	1.6		5.8	チャートの細粒砂を含む。橙色。内・外面ナデ調整。	
〃	190	P13	土師器 小皿	10.0	1.7		6.3	チャートの細粒砂を少量含む。橙色。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	191	P162	土師器 坏		(1.4)		5.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。浅黄橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	192	P33	土師器 皿	16.2	1.1		14.0	赤色風化礫の細粒砂を少量含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	193	P25	土師器 皿	20.0	1.6		16.0	精選された胎土。橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	194	P128	土師器 皿	16.6	1.6		12.5	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	195	〃	土師器 皿	17.9	(2.2)			精選された胎土。橙色。内・外面ヘラミガキ。	
〃	196	P182	土師器 坏	16.0	(2.4)			チャートの細粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	197	P147	土師器 坏	15.1	(3.0)			精選された胎土。にぶい橙色。内・外面丁寧な横ナデ。口縁部外面黒斑あり。	
〃	198	P153	土師器 坏	13.8	(3.0)			赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	199	P133	土師器 坏	14.4	(3.5)			精選された胎土。明褐灰色。内・外面横ナデ調整。	
〃	200	P76	土師器 坏	14.4	3.5		6.5	チャートの細粒砂を含む。橙色。内面ミガキ。外面ヘラ削り。	
〃	201	P168	土師器 坏	16.8	(2.0)			チャートの細・粗粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。	

遺物観察表 9

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
24	202	P19	土師器坏	11.9	3.1		8.0	精選された胎土。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	203	P152	土師器坏	13.4	3.0		8.7	赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい橙色。口縁端部が屈曲し、内面が凹む。内・外面横ナデ＋ヘラミガキ。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	204	P96	土師器坏	17.0	(3.7)			チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。明褐灰色。内・外面横ナデ調整。	
〃	205	P133	土師器坏	16.0	3.8		10.0	精選された胎土。明褐灰色。内・外面横ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	206	P73	土師器坏	13.6	3.4		9.4	チャートの細粒砂を含む。浅黄橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	207	P66	土師器坏		(2.3)		6.2	チャートの細・粗粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	208	P19	土師器坏		(2.2)		7.0	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	209	P54	土師器坏		(2.5)		7.0	チャートの細粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	210	P100	土師器坏		(2.8)		6.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂を少量含む。浅黄橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	211	P42	土師器坏	14.1	5.0		5.6	チャートの細・粗粒砂を含む。浅黄橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	212	P6	土師器坏		(0.9)		11.0	精選された胎土。橙色。内・外面ヘラミガキ。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	213	P33	土師器坏	13.8	3.2		8.0	チャートの細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面横ナデ＋部分的にヘラミガキ。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	214	P178	土師器坏		(2.3)		7.6	精選された胎土。明褐灰色。内・外面横ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	215	P116	土師器椀	15.2	4.4		6.0	精選された胎土。にぶい橙色。内面ヘラミガキ。外面コテあとあり。	
〃	216	P153	土師器椀		(1.9)		6.2	チャートの細粒砂を含む。明褐灰色。内面ミガキ、外面削り。	
〃	217	P198	土師器椀	16.3	5.9		6.0	精選された胎土。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	218	P148	土師器甕	28.2	(7.5)			チャート、石英の細・粗粒砂を多く含む。にぶい赤褐色。口縁部内・外面横ナデ。頸部内・外面粗いハケ。	
〃	219	P23	須恵器坏		(1.7)		9.2	精選された胎土。灰色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	220	P113	瓦器椀	15.2	5.0		5.1	チャートの細・粗粒砂を少量含む。灰色。口縁部内・外面強い横ナデ。体部外面指頭圧痕顕著で、部分的にヘラミガキ。体部内面はナデ＋粗いヘラミガキ。高台はしっかり外方にふんばる。高台脇強い横ナデ。	
〃	221	P115	土錘	全長 5.5	全幅 3.2	孔径 0.8	重量 52g	チャートの細粒砂を含む。橙色。	
〃	222	P173	緑釉陶器椀		(1.5)		6.4	精選された明褐灰色の須恵質の胎土。内・外面に淡緑色の施釉。削り出し高台。	近江産
〃	223	P151	鉄製品刀子	全長 4.8	全幅 1.4	全厚 0.3	重量 6g		
〃	224	P159	鉄製品刀子	全長 4.6	全幅 1.1	全厚 0.4	重量 3g		
〃	225	P47	鉄製品釘	全長 5.8	全幅 0.9	全厚 0.7	重量 8g		
25	226	包含層	弥生甕	27.4	(4.2)			チャート、石英の細・粗粒砂を含む。灰褐色。口縁部に刻目を施し、その直下に突帯を巡らす。	

遺物観察表 10

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
25	227	包含層	土師器小皿	8.0	1.8		4.6	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面ナデ調整。	
〃	228	〃	土師器小皿	8.4	1.4		4.8	チャートの細粒砂を含む。明褐灰色。内・外面ナデ調整。口縁部煤ける。	
〃	229	〃	土師器皿	8.7	1.6		5.7	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。焼成後に底部に2孔を穿つ。	
〃	230	〃	土師器小皿		(1.9)		9.0	チャートの細粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	231	〃	土師器坏	11.7	2.6		7.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	232	〃	土師器坏		(2.3)		8.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。明褐灰色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部に糸切り痕あり。	
〃	233	〃	土師器坏		(1.9)		8.0	チャートの細粒砂を含む。橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	234	〃	土師器坏	12.9	2.2		8.1	チャート、石英の細粒砂を少量含む。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	235	〃	土師器坏	13.4	3.7		9.2	精選された胎土。にぶい褐色。内・外面ヘラミガキ。外底部ヘラ起こし＋ナデ。	
〃	236	〃	土師器坏	15.6	4.6		7.2	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	237	〃	土師器坏	15.0	4.5		7.5	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい橙色。内・外面横ナデ調整。	
〃	238	〃	土師器坏		(2.1)		6.4	精選された胎土。橙色。内面丁寧なヘラミガキ。外面削り。回転台右回り。外底部に糸切り痕あり。	
〃	239	〃	土師器坏	13.6	2.9		8.6	精選された胎土。体部内・外面強い横ナデ。内面は部分的にヘラミガキ。	
〃	240	〃	土師器坏	14.9	4.9		7.0	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面強い横ナデ調整。口縁部外反する。外面煤ける。外底部に糸切り痕あり。	
〃	241	〃	土師器椀	13.8	(4.3)			精選された胎土。浅黄橙色。内面ヘラケズリ。外面削り＋丁寧なナデ。	
〃	242	〃	土師器椀	15.7	5.4		6.4	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。にぶい橙色。内面ヘラミガキ。外面下2/3削り。	
〃	243	〃	土師器椀		(3.8)		5.6	チャートの細粒砂を含む。橙色。内面ヘラケズリ。外面削り、指頭圧痕あり。外底部糸切り＋貼付高台。	瓦器を指向
〃	244	〃	土師器椀		(3.9)		9.0	チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。	
〃	245	〃	土師器甕	25.4	(2.6)			石英、雲母の細・粗粒砂を含む。褐灰色。外面横ナデ、内面粗いハケ調整。外面煤ける。	
〃	246	〃	土師器鉢	28.4	(7.6)			チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。橙色。内・外面ヘラミガキ。	
〃	247	〃	土師器高坏					チャートの細粒砂を含む。橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。断面形は8角形に面取りする。	
〃	248	〃	須恵器皿	15.4	2.0		13.4	精選された胎土。灰色。内・外面横ナデ調整。	
〃	249	〃	須恵器蓋	13.4	2.3			チャートの細・粗粒砂を含む。灰色。内・外面横ナデ調整。	
〃	250	〃	須恵器蓋	13.3	2.2			チャートの細・粗粒砂を含む。灰色。内・外面横ナデ調整。	
〃	251	〃	須恵器壺		(4.6)		13.4	チャート、石英の細粒砂を含む。灰色。内面横ナデ、外面削り（砂粒右→左）。外底部にヘラ記号あり。	

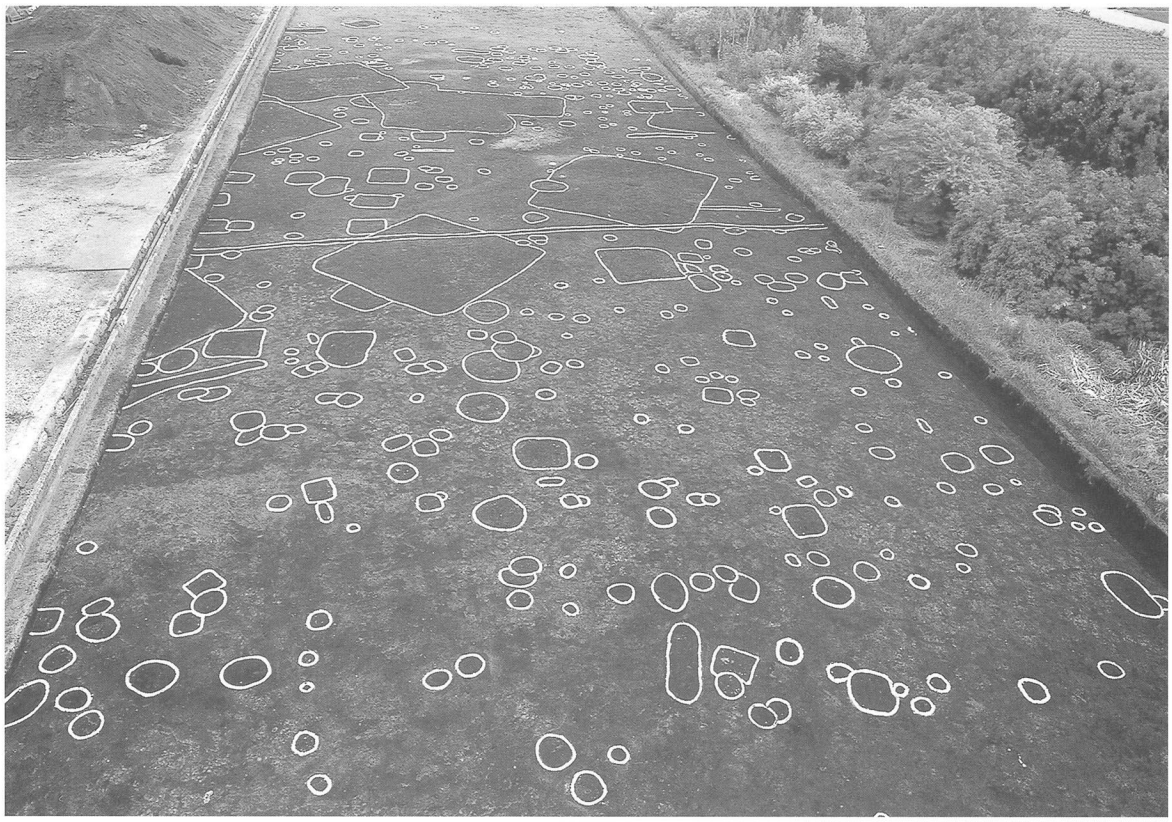
遺物観察表 11

Fig. No.	挿図番号	出土地点	器種	法量（cm）				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
25	252	包含層	黒色土器 椀	12.8	(3.8)			精選されたにぶい橙色の胎土。内・外面黒褐色。外面に指頭圧痕あり。	
〃	253	〃	白磁 碗	14.0	(2.7)			灰白色の堅緻な胎土。内・外面白色の施釉。	
〃	254	〃	青磁 碗		(1.8)		4.9	灰白色の堅緻な胎土。内・外面淡緑色の施釉。畳付は露胎。	龍泉窯
〃	255	〃	青磁 碗		(2.0)		4.1	明褐灰色の堅緻な胎土。内・外面緑灰色の施釉。底部は露胎。	
〃	256	〃	緑釉陶器 椀	8.8	(1.8)			精選された灰色の須恵質の胎土。内・外面横ナデ調整。濃緑色の施釉。	東海産
〃	257	〃	土錘	全長 4.4	全幅 1.6	孔径 0.4	重量 10g	チャート、石英の細粒砂を含む。にぶい橙色。	
〃	258	〃	土錘	全長 4.0	全幅 1.8	孔径 0.5	重量 11g	チャートの細粒砂を含む。橙色。	
〃	259	〃	土錘	全長 4.1	全幅 1.5	孔径 0.4	重量 9g	チャートの細粒砂を含む。浅黄橙色。	
〃	260	〃	土錘	全長 3.3	全幅 1.6	孔径 0.6	重量 6g	精選された胎土。にぶい橙色。	
〃	261	〃	土錘	全長 3.8	全幅 1.2	孔径 0.3	重量 4g	チャートの細粒砂を含む。灰褐色。	
〃	262	〃	土錘	全長 3.3	全幅 1.1	孔径 0.4	重量 3g	精選された胎土。にぶい橙色。	
〃	263	〃	鉄鏃	全長 3.6	全幅 1.6	全厚 0.2	重量 4g		
〃	264	〃	鉄製品 刀子	全長 5.4	全幅 1.0	全厚 0.3	重量 5g		
〃	265	〃	鉄製品 不明品	全長 4.7	全幅 2.2	全厚 0.7	重量 21g		
〃	266	〃	鉄製品 釘	全長 4.8	全幅 0.6	全厚 0.5	重量 2g		
〃	267	〃	石器 剥片	全長 2.2	全幅 1.2	全厚 0.3	重量 1g	チャート製	
〃	268	〃	叩石	全長 11.2	全幅 10.7	全厚 4.0	重量 720g		
26	269	第27次調査 P22	土師器 小皿	10.0	1.9		5.5	チャートの細・粗粒砂を少量含む。灰白色。内・外面ナデ調整。外底部に糸切り痕あり。	
〃	270	第27次調査 P22	土師器 坏	13.3	2.9		6.4	精選された胎土。にぶい橙色。内・外面の器表の荒れが激しい。外底部ヘラ起こし痕あり。	
〃	271	第27次調査 P22	土師器 坏	13.9	5.1		6.6	チャート・石英の粗粒砂を少量含む。にぶい橙色。内面丁寧な横ナデ。外底部にヘラ起こし痕あり。	
〃	272	第27次調査 包含層	須恵器 坏	13.8	(3.4)			チャートの細・粗粒砂を含む。内・外面ナデ調整。底部外面にヘラ状工具による圧痕を放射状に施す。	
〃	273	第27次調査 P17	土師器 甕	20.8	(5.5)			チャート・赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。にぶい橙色。内・外面ナデ調整。外面煤ける。	
〃	274	第27次調査 包含層	須恵器 高坏		(6.1)			チャートの細粒砂を含む。明褐灰色。内・外面ナデ調整。	

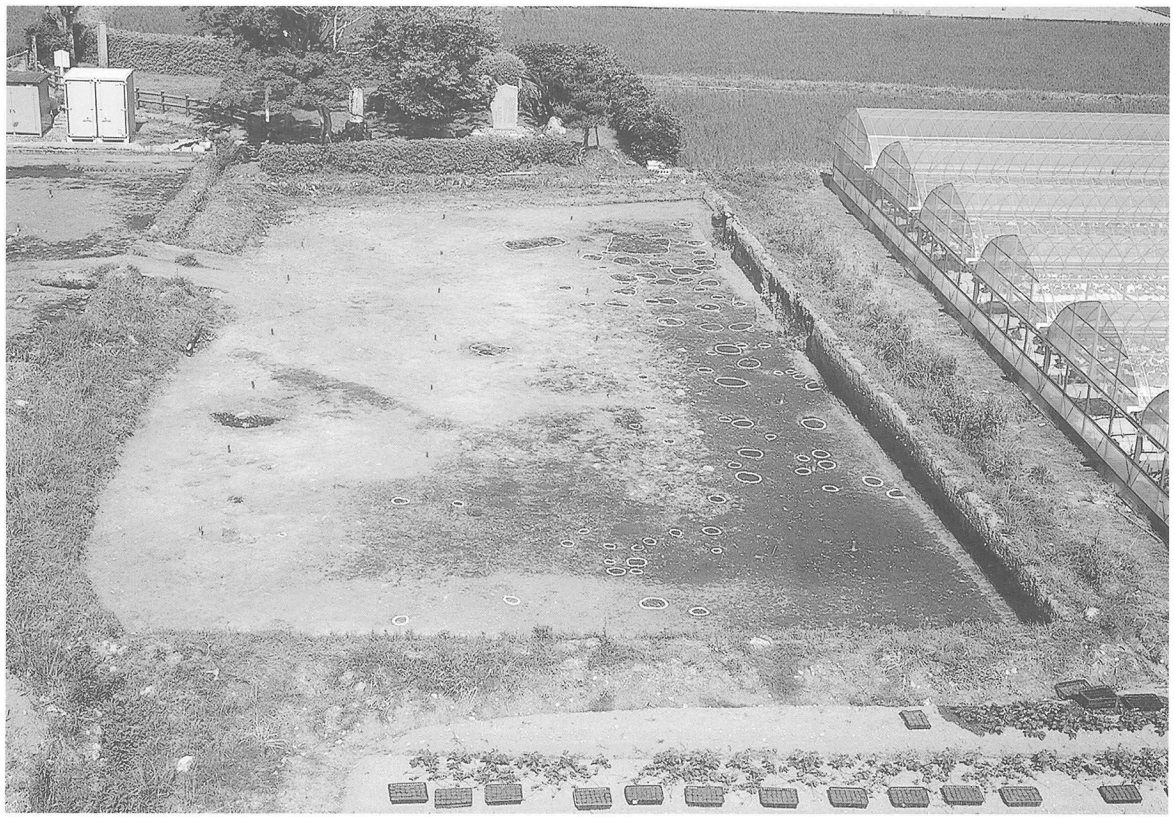
写 真 図 版

調査前全景（北より）

調査前全景（南より）



北区検出状況（北より）



南区検出状況（西より）

北区完掘状況（北より）

南区完掘状況（西より）

北区北壁（A～B）セクション

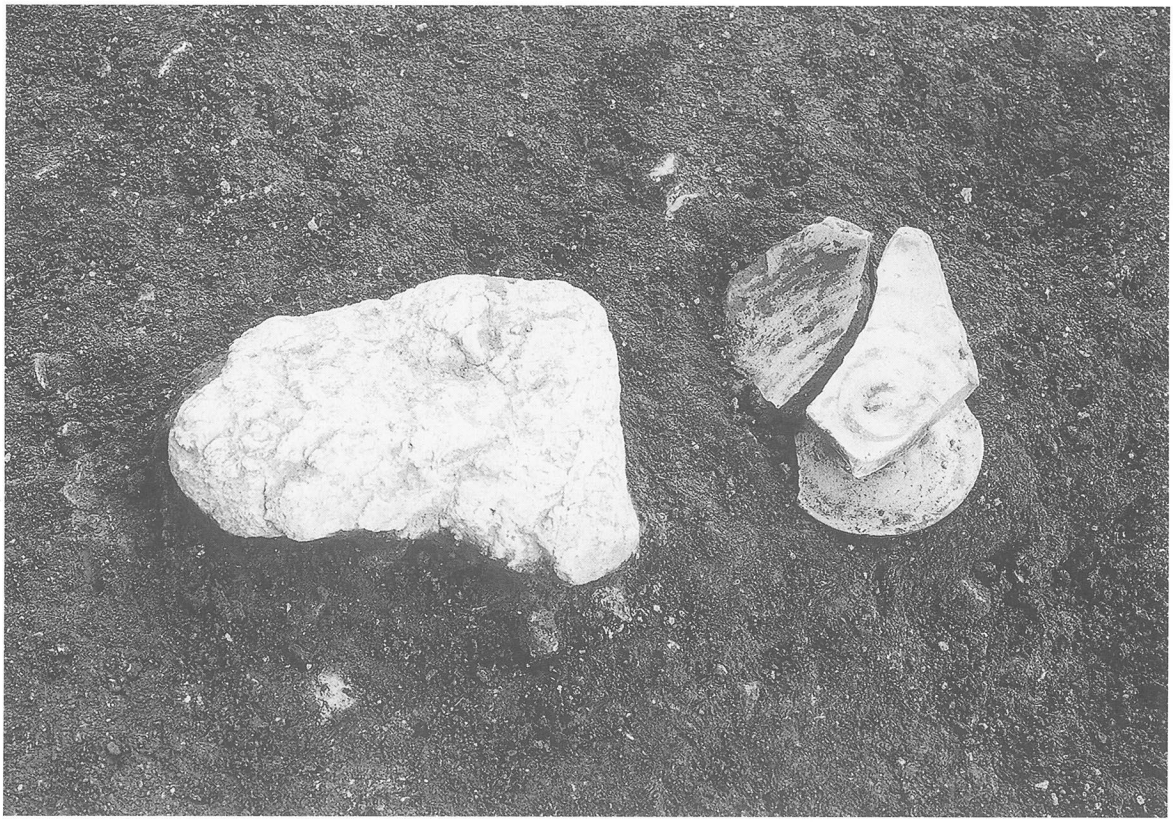
南区西壁（C～D）セクション

南区南壁(E～F)セクション

SK125遺物出土状況

SK127遺物出土状況

ST31完掘状況



ST31遺物（27）出土状況

ST33完掘状況

ST34完掘状況

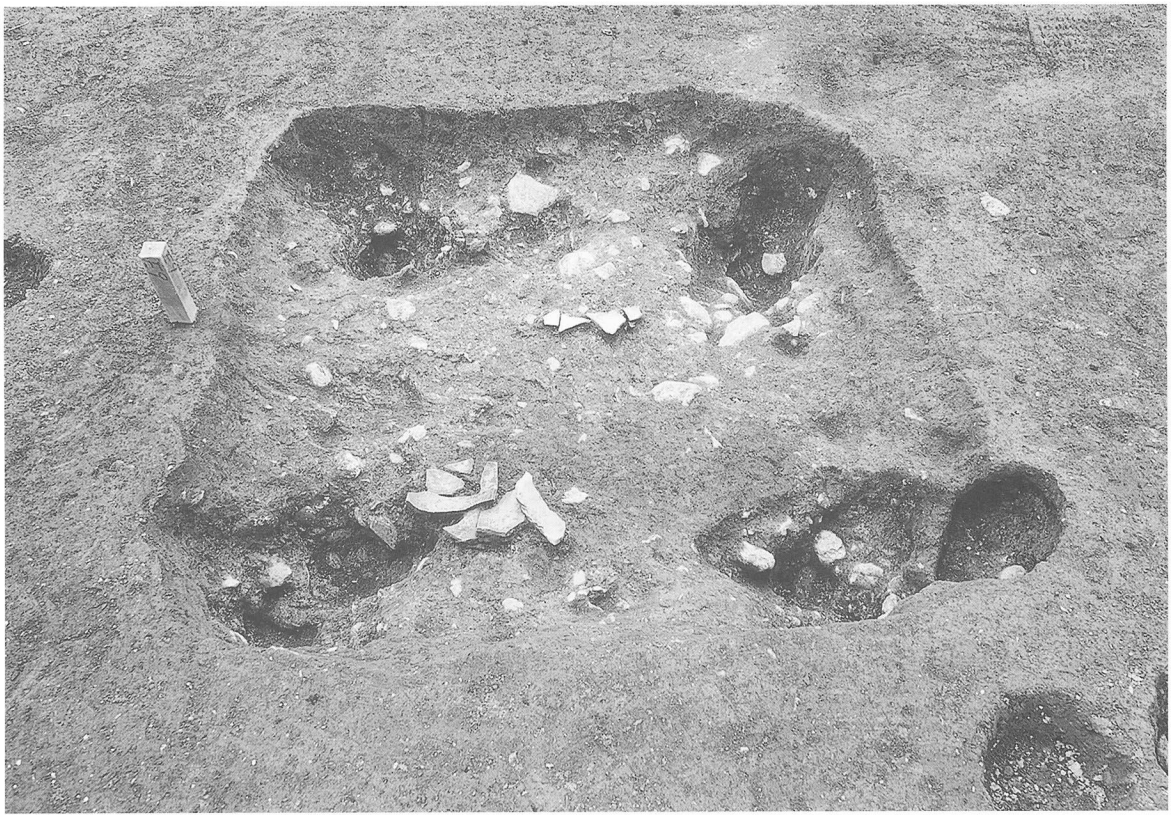
ST36遺物（45・50）出土状況

ST37完掘状況

ST37遺物（53～55）出土状況

SB81完掘状況

SK126完掘状況



SK128完掘状況

SK131遺物出土状況